

早稲田キャンパス
3号館

2025年度 早稲田大学 新入生調査 報告書

*Report of the AY2025 Waseda University
First-Year Student Survey*



CHES

Waseda University Center for Higher Education Studies
早稲田大学 大学総合研究センター

本報告書の概要

本報告書は、2025 年度に実施した早稲田大学「新入生調査」の結果を報告するものである。第 1 章から第 3 章では、高校での学習経験、留学希望、大学に期待することに着目した分析結果を示した。第 4 章では、本学の AP（アドミッション・ポリシー）の認知および理解（共感）の傾向と、諸項目との関連を報告した。また、「集計データ」部では、グラフ（日英併記）、集計表によって調査全体の結果を示している。本調査の対象者数は 12,974 名、回答者数は 5,533 名であった（回答率：42.6%）。
本調査に協力してくれた学生の皆さんに感謝いたします。

第 1 章 高校での学習経験と意識

高校での学習経験について、2024 年度・2025 年度の比較、また入学方式による比較（図 1）を行ったところ、学び方とともに学んだ内容に違いがあることが示唆された。さらに「社会への貢献意識」に着目した分析によって、入学時から多くの新入生が「社会への貢献意識」を持っていることが示された。

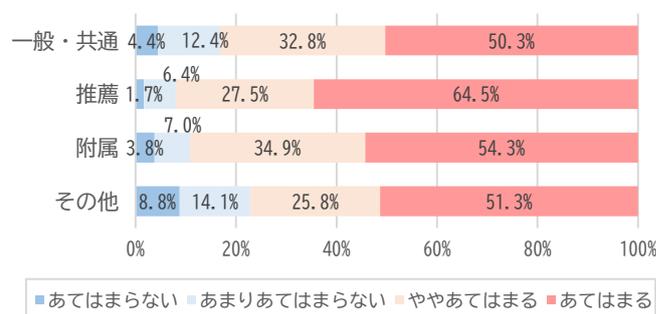


図1 グループワークなどで授業に積極的に参加する

第 2 章 新入生の留学経験と留学希望

学部新入生では、留学を希望しない学生が約 4 割であった。留学を希望しない理由として「語学力の不安」をあげる割合は海外経験がない学生で高かった。学部による差はあるものの、新入生は本学の留学制度を魅力に感じるとともに、本学の「国際的な教育環境」を魅力と感じる者も 8 割程度と高いことが示された。

第 3 章 早稲田大学に期待すること：テキスト分析による検討

自由記述のテキスト分析から、学部の新入生は多様な学生との交流や、質の高い授業、自分の興味がある分野での学び・研究を期待していることが示された。他方、大学院生は、研究を重視しており、研究環境の充実を望むとともに、他の学生や教授との交流も研究のためと捉えていることが示唆された。

第 4 章 AP 認知・AP 理解

大学の AP そのものの認知度は、2021 年からの 4 年間で向上していた。学部別でみると、出願時に AP に関する記述を課している学部では、AP 認知が特に高かった。AP 理解（共感）は全体的に高い傾向であったが、高校時代の学習経験など諸項目との関連は、AP 認知だけでなく AP 理解でも多くみられた。

Summary of the Report

This report presents the findings and data of the “First-Year Student Survey” at AY2025. Chapters 1 through 3 present the results on students’ high school learning experiences, their desire to study abroad, and their expectations of the university. Chapter 4 reports trends in Admissions Policy (AP) awareness and understanding, and their associations with various factors. The “Data” section provides the aggregated results with graphs (in both Japanese and English) and tables. The eligible participants were 12,974, and 5,533 students responded (response rate: 42.6%). We sincerely appreciate the participation of all students in this survey.

Chapter 1: Learning Experiences and Attitudes in High School

Comparisons of learning experiences in high school between AY2024 and AY2025, as well as by admission type (see Figure 1), suggested differences in both learning methods and content learned. In addition, an analysis of students’ sense of social contribution revealed that many first-year students enter the university with a strong awareness of contributing to society.

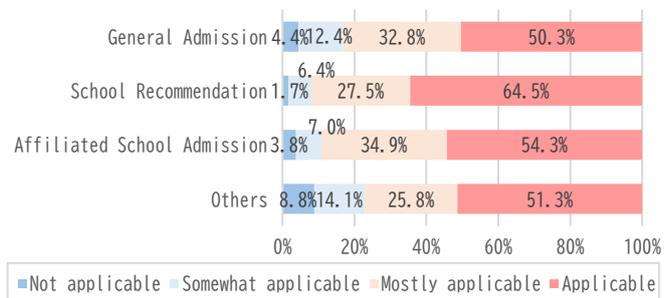


Figure1: “Actively participate in class through group work”

Chapter 2: Study-Abroad Experience and Interest in Studying Abroad

Among first-year undergraduates, about 40 percent did not wish to study abroad. The proportion citing “concerns about language proficiency” as a reason for not wishing to study abroad was higher among students without overseas experience. While many students regarded the university’s study-abroad programs as appealing, approximately 80%—with some variation across faculties—also considered the university’s international educational environment to be an attractive feature.

Chapter 3: Expectations of Waseda University

The analysis indicated that first-year undergraduates expect opportunities to interact with diverse peers, to attend high-quality classes, and to study and conduct research in fields of personal interest. Graduate students, on the other hand, were found to expect an enhanced research environment and to view interactions with other students and professors primarily from the perspective of advancing their research.

Chapter 4: AP Awareness and AP Understanding

Awareness of the university’s AP has increased since 2021. By faculty, AP awareness was markedly higher in faculties that required applicants to submit an AP statement at application. AP understanding (agreement) tended to be high overall. Associations with several factors were observed for both AP awareness and AP understanding.

目次

序章 調査概要と対象について	p. 5
序-1. 調査概要	p. 5
序-2. 調査対象者の概要	p. 5
第1章 高校での学習経験と意識	p. 7
1-1. 本章の目的	p. 7
1-2. 分析対象・分析方法	p. 7
1-3. 高校での学習経験：2024年度・2025年度の比較	p. 8
1-4. 高校での学習経験：入学方式による比較	p. 9
1-5. 社会への貢献意識に着目した分析	p. 12
1-6. まとめ	p. 13
第2章 新入生の留学経験と留学希望	p. 15
2-1. 本章の目的	p. 15
2-2. 分析対象・分析方法	p. 15
2-3. 入学までの留学経験	p. 15
2-4. 大学・大学院での留学希望	p. 17
2-5. 留学を希望しない理由	p. 17
2-6. 留学制度の魅力：学部別分析	p. 18
2-7. まとめ	p. 20
第3章 早稲田大学に期待すること：テキスト分析による検討	p. 21
3-1. 本章の目的	p. 21
3-2. 分析対象・分析方法	p. 21
3-3. 新入生が本学に期待すること	p. 21
3-4. まとめ	p. 25
第4章 AP認知・AP理解	p. 27
4-1. AP認知・AP理解の傾向	p. 27
4-2. AP認知・AP理解と関連のある項目の探索	p. 38
4-3. AP認知・AP理解と諸項目との関連の詳細	p. 40
4-4. まとめ	p. 56
集計データ	p. 57
I. 調査概要	p. 57
II. 調査項目一覧	p. 57
III. 調査データ〈グラフ〉	p. 60

IV. 調査データ〈単純集計表〉 p.76

序章 調査概要と対象について

早稲田大学の学生の高校での経験や入学時の意識などを把握するために、学部・大学院の新入生を対象に2024年度から新入生調査を企画、実施している。2025年度は第2回目の調査を実施した。

この調査は大学総合研究センターが実施し、データ分析・報告書執筆は、同センター武藤浩子が序章、第1章、第2章、第3章を担当、同センター山田寛邦が第4章を担当し、学生スタッフ中野寧朗・川又亮が分析補助・集計データ作成を担当した。

序-1. 調査概要

新入生調査は、2024年度と同様に入学直後の4月～5月にオンライン調査ツールである Qualtrics（クアルトリクス）を用いて実施した。質問文・選択肢は、日本語・英語の2言語で作成しており、回答時に言語を選択することができる。2025年度の回答率は42.6%であり、昨年度と同様の水準であった。

【対象者】	2025年度4月および2024年度9月の学部・大学院入学者 (昨年度：2024年度4月および2023年度9月の学部・大学院入学者)
【調査時期】	2025年4月7日～5月16日 (昨年度：2024年4月3日～5月10日)
【調査方法】	Web アンケート URL を学生の登録メールアドレスに送付 (昨年度：上記と同じ)
【対象者数】	12,974 (昨年度：12,697)
【回答数】	5,533 (昨年度：5,207)
【回答率】	42.6% (昨年度：41.0%)

序-2. 調査対象者の概要

調査対象者は、2025年度4月、および前年2024年度9月の学部・大学院の新入生である。これには本学学部から本学大学院に進学した者も含まれている。次に回答者数を学部、修士、博士別に示す。

回答者数	
学部1年生	4,028
修士1年生	1,304
博士1年生	201
合計	5,533

学部生が4,000人以上と多く、修士は1,300人以上から回答が得られた。

次の図序-1では、学部生の所属学部について、回答者と母集団それぞれの割合を示した。このグラフからわかるように、法学部で回答者がやや多い傾向がみられたものの、回答者が極端に多い、もしくは少ない学部はなかった。

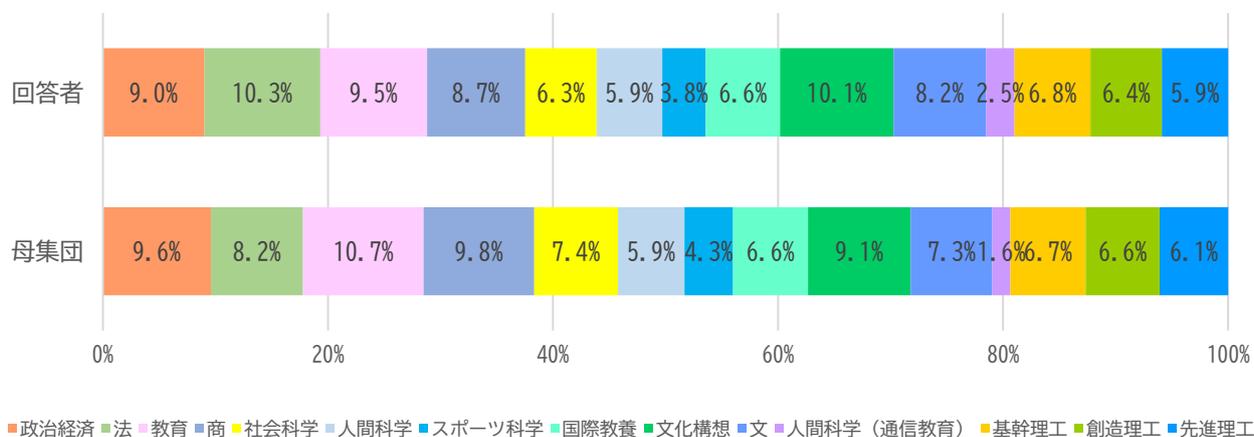


図 序-1 学部生の所属学部 (母集団との比較)

図序-2は、大学院生の所属研究科について、回答者と母集団それぞれの割合を示したものである。理工学研究科 (基幹理工、創造理工、先進理工) では回答者がやや少なく、経営管理研究科ではやや多い傾向がみられた。

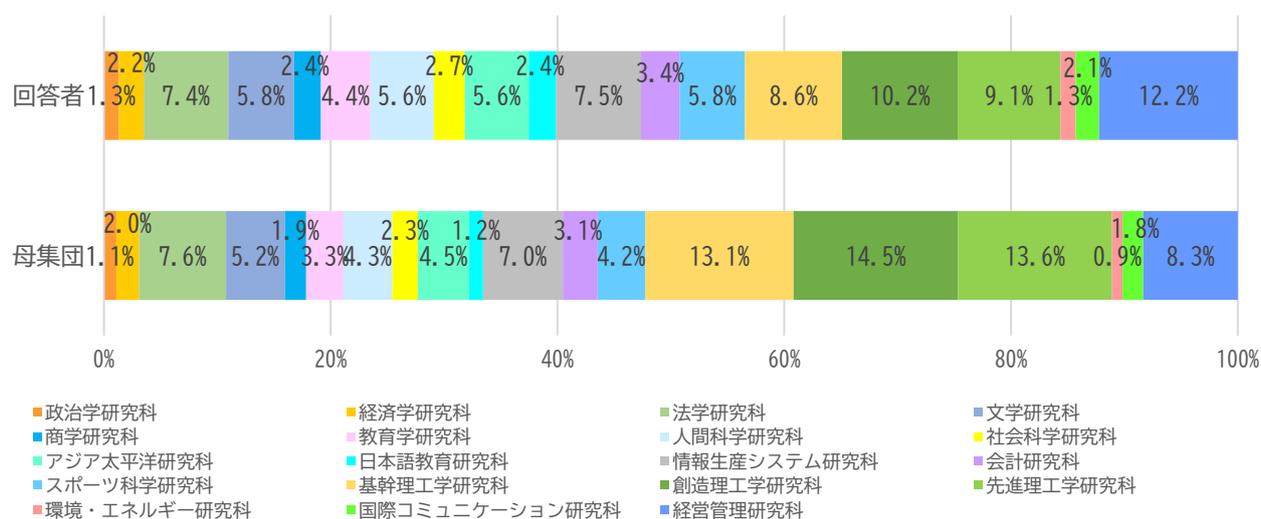


図 序-2 大学院生の所属研究科 (母集団との比較)

第1章 高校での学習経験と意識

1-1. 本章の目的

本章では、学部新入生の高校での学習経験と意識に関わる基礎的な分析を行う。高等学校では2022年度より「総合的な探究の時間」が実施されており、2025年度の学部新入生のなかには「総合的な探究の時間」を経験した者も多いと考えられる。そこで、本章ではまず、「総合的な探究の時間」の実施によって高校での学習経験が変わったのか、2024年度・2025年度の学部新入生の学習経験の比較を行う。これにより高校でのカリキュラム変更が、新入生の学習経験に与える影響について確認する。

この高校での学習経験について、さらに入学方式によって学部新入生を4グループに分けて、入学方式によって学習経験に差があるのか比較分析を行う。4グループは、一般選抜・共通テスト利用、学校推薦型選抜、附属校推薦、その他（総合型選抜（AO入試）等を含む）とした。

さらに新入生の意識について、「社会への貢献意識」に着目して分析を行う。本学の教旨（建学の精神）は、「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」であり、2032年の創立150周年に向けて、早稲田大学を「世界人類に貢献する大学」として進化させることを目指している。「社会への貢献」は本学において重要なテーマといえるだろう。そこで新入生の「社会への貢献意識」についても分析を行う。

1-2. 分析対象・分析方法

分析対象とするのは、2025年4月頃に実施した新入生調査の回答である。一部の分析では、比較対象として2024年度の新入生調査データ（調査時期：2024年4月3日～5月10日）を用いる。

分析は次の順番で行う。

- 2024年度と2025年度の学部新入生を対象として、高校での学習経験を比較する。
- 2025年度の学部新入生を対象として、入学方式別に高校での学習経験を比較する。
- 「社会への貢献意識」について、学部、修士課程、博士課程別に比較する。次に入学方式別に比較分析を行う。

高校での学習経験については、「あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。」と問うたうえで、「勉強の方法を学ぶ」「グループワークなどで授業に積極的に参加する」などの7つの学習経験について4件法（「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」）で尋ねた。なお、「総合的な探究の時間」が学習経験に与える影響をみるため、本章の高校での学習経験については、留学生を対象外として分析を行った。

入学方式は学部生を対象として、一般選抜・共通テスト利用、学校推薦型選抜、附属校推薦、その他（総合型選抜（AO入試）を含む）の4つのグループに分けた。この入学方式については、それぞれ「一般・共通」「推薦」「附属」「その他」と記述する。

「社会への貢献意識」については、「あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。」と問うたうえで、「大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた」かについて4件法で尋ねた項目を用いる。

1-3. 高校での学習経験：2024年度・2025年度の比較

高等学校での「総合的な探究の時間」は、2022年度から学年進行で行われており、2025年度には高校で「総合的な探究の時間」を経験した学生が入学したと考えられる。この「総合的な探究の時間」が、高校での学習経験に与える影響について確認するために、2024年度と2025年度の新入生の高校での学習経験を比較していこう。

図1-1、図1-2は、高校での学習経験（「勉強の方法を学ぶ」や「グループワークなどで授業に積極的に参加する」などの7項目）について、「ややあてはまる」「あてはまる」と回答した学生の割合を2024年度・2025年度それぞれについて示したものである。

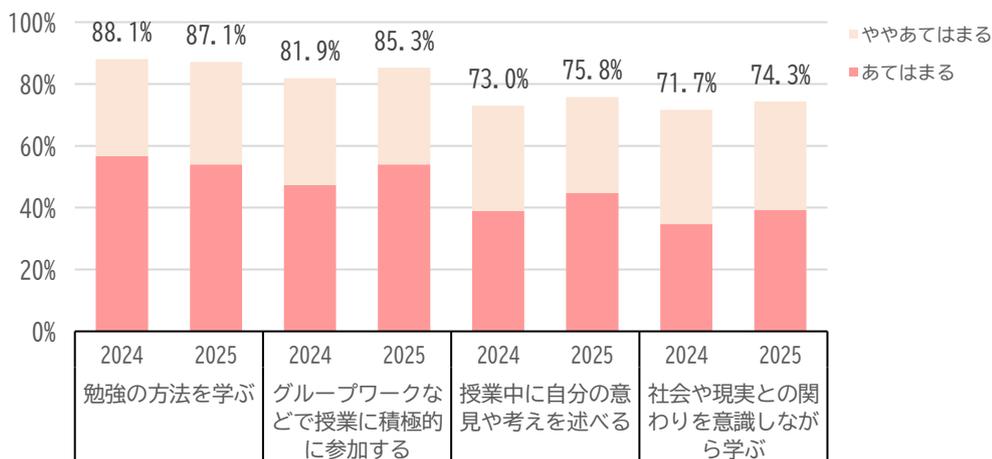


図 1-1 高校での学習経験（1）

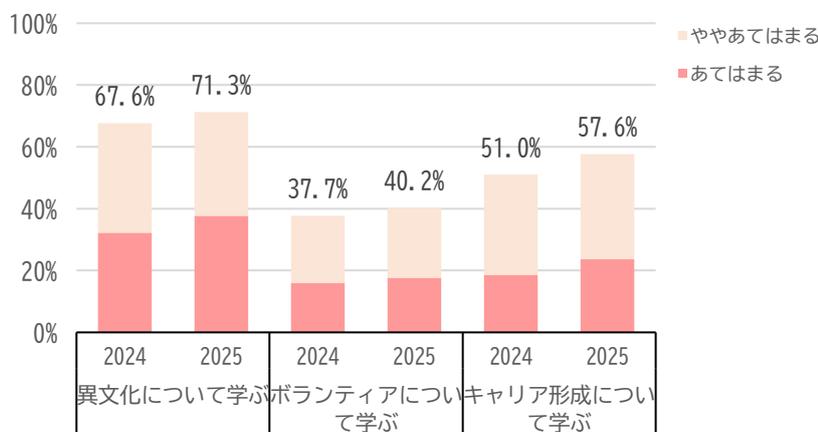


図 1-2 高校での学習経験（2）

「勉強の方法を学ぶ」をみると、「ややあてはまる」「あてはまる」と回答した学生が、2024年度では88.1%、2025年度では87.1%とほぼ変わらない。グループワークやディスカッションに関する項目では、「グループワークなどで授業に積極的に参加する」は81.9%から85.3%へと約3ポイント上がり、「授業中に自分の意見や考えを述べる」も73.0%から75.8%へと約3ポイントあがっている。それほど大きな違いではないものの、新入生のグループワークやディスカッション経験は増加傾向にあるようである。

図1-2では、「異文化について学ぶ」や「ボランティアについて学ぶ」など、何を学んだのかについて尋ねた結果を示した。「異文化について学ぶ」は67.6%から71.3%へと約4ポイント、「ボランティアについて学ぶ」は37.7%から40.2%へと2.5ポイント上がり、さらに「キャリア形成について学ぶ」では51.0%から57.6%へと6ポイント以上あがっている。2024年度と2025年度の新入生を比較すると、高校で学んだ内容が変わったといえそうである。

1-4. 高校での学習経験：入学方式による比較

次に、高校での学習経験が、入学方式（「一般・共通」、「推薦」、「附属」、「その他」）によって異なるのかみていこう。附属高校について、本学には7つの附属・系属高校があり、ほぼ全員が早稲田大学に進学する高校と、高校での選抜を経て本学に進学する高校がある。附属・系属高校によって高校での学習経験も異なるとは考えられるが、本分析ではひとつの「附属」グループとして扱うこととする。

図1-3～1-9では、「勉強の方法を学ぶ」や「グループワークなどで授業に積極的に参加する」など高校での学習経験を入学方式ごとに示した。「あてはまる」「ややあてはまる」と肯定的に回答した新入生の割合に着目してみよう。

勉強の方法を学ぶ

「勉強の方法を学ぶ」について、「一般・共通」「推薦」では「あてはまる」「ややあてはまる」と肯定的に認識する者が90%程度と多い。他方、「その他」では、68%程度に留まるというように、入学方式によって20ポイント以上の差がみられた。

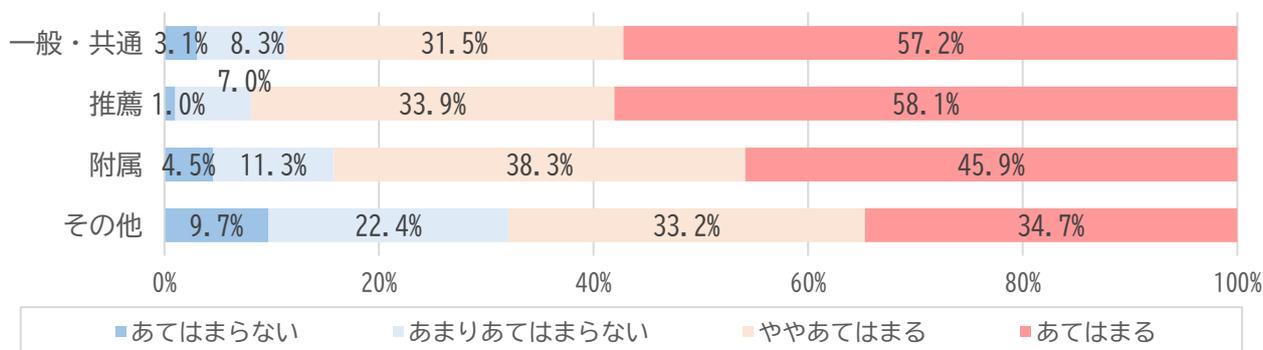


図 1-3 勉強の方法を学ぶ

グループワークなどで授業に積極的に参加する

グループワークなどで授業に積極的に参加していた新入生は、「推薦」「附属」で90%程度と多い。「一般・共通」ではやや下がるものの、いずれのグループでも80%程度の新入生が「グループワークなどで授業に積極的に参加する」について肯定的に回答していた。

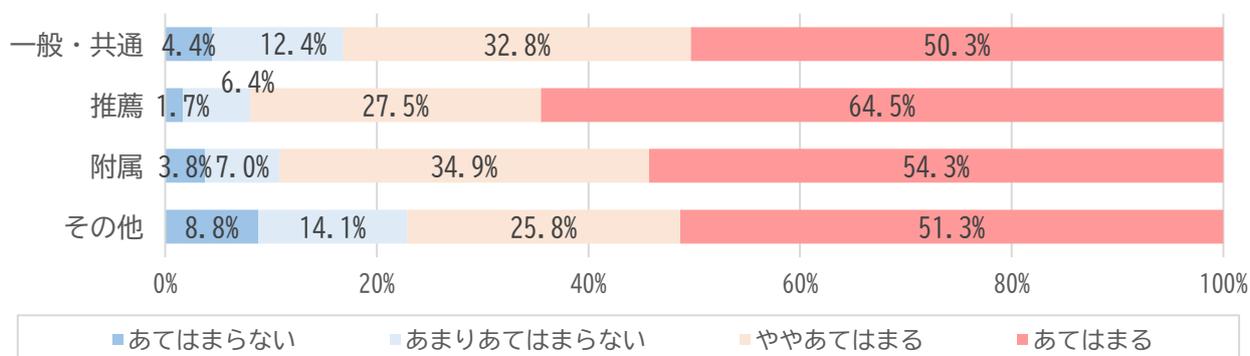


図 1-4 グループワークなどで授業に積極的に参加する

授業中に自分の意見や考えを述べる

授業中に自分の意見や考えを述べるという経験をしていた新入生は、「推薦」でやや多く、「一般・共通」ではやや少ない傾向がみられる。しかし、どのグループにおいても70%以上の新入生が肯定的に回答していた。

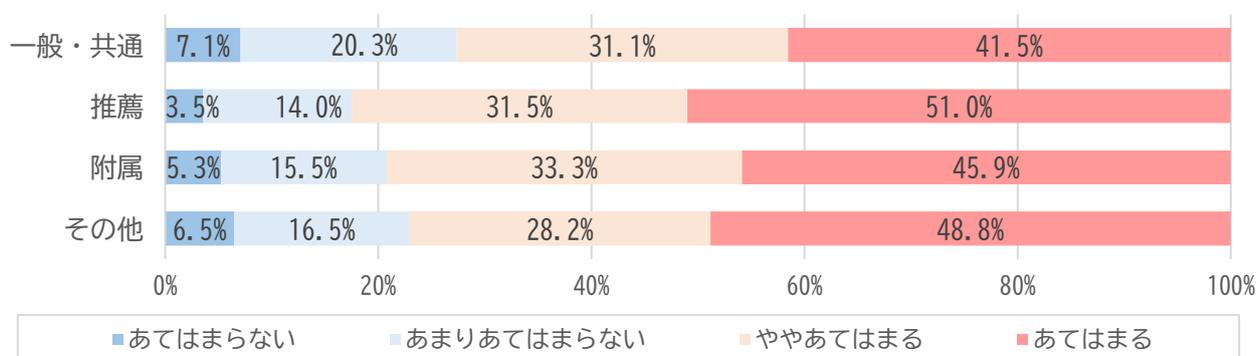


図 1-5 授業中に自分の意見や考えを述べる

社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ

社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ経験をしていた者は、「推薦」「附属」でやや多い傾向がみられた。しかし、他のグループとの差はそれほど大きくなく、いずれのグループでも70%以上の新入生が肯定的な回答をしていた。

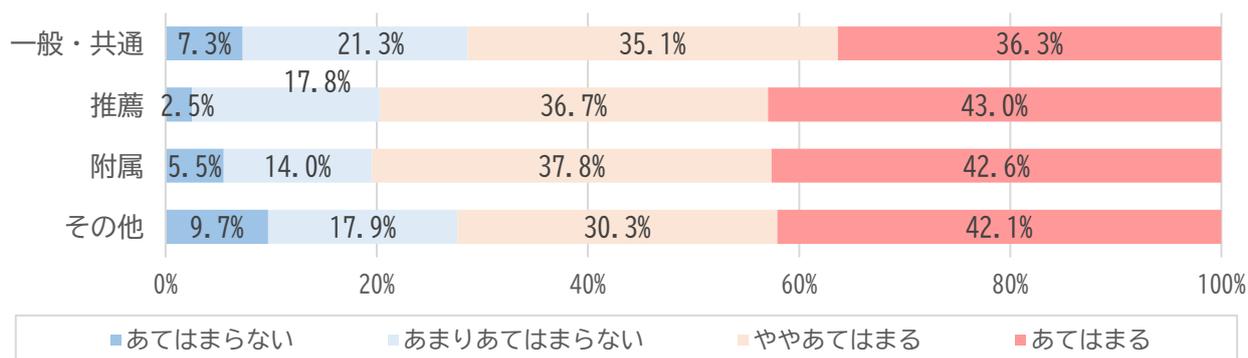


図 1-6 社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ

異文化について学ぶ

「異文化について学ぶ」経験をしていた者の割合は、もっとも多い「附属」で約77%、もっとも少ない「一般・共通」で約69%と、グループ間の差は10ポイント以下とそれほど大きな違いはみられなかった。

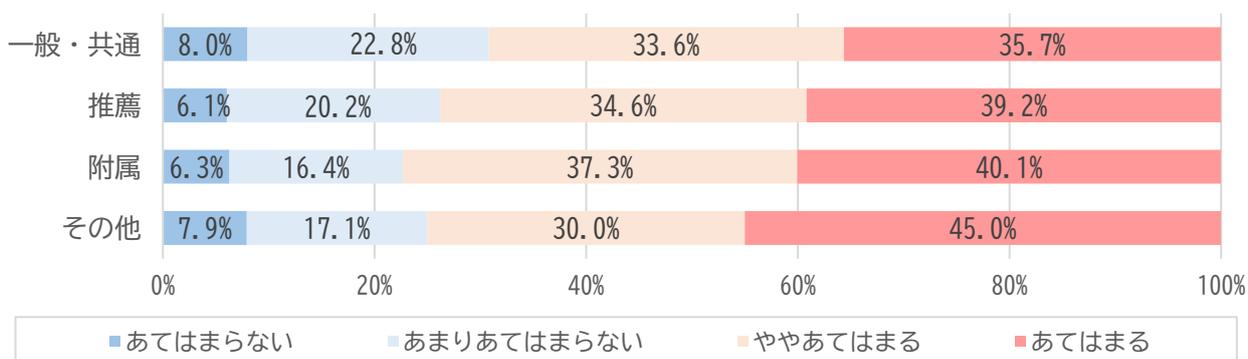


図 1-7 異文化について学ぶ

ボランティアについて学ぶ

「ボランティアについて学ぶ」について、肯定的に回答した割合が高いのは「その他」の58.8%であった。一方、「一般・共通」では34%、「附属」は42.9%と低く、入学方式によって差があることが示された。

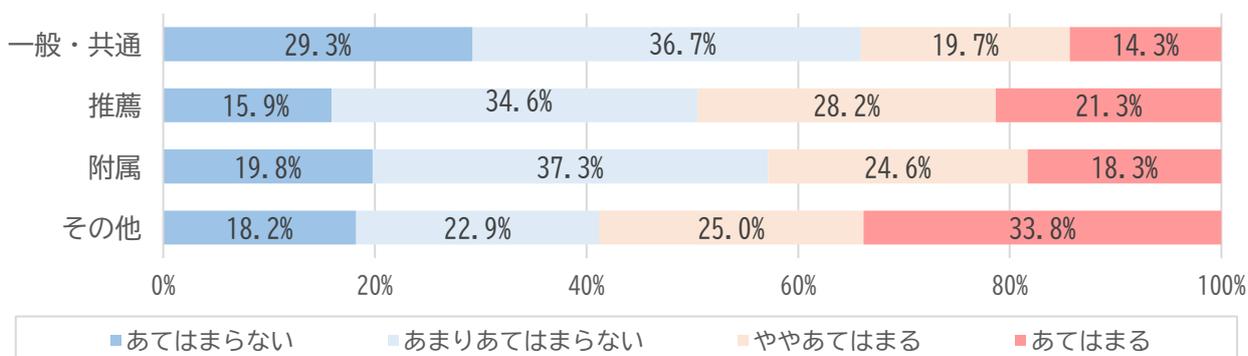


図 1-8 ボランティアについて学ぶ

キャリア形成について学ぶ

最後に、「キャリア形成について学ぶ」について確認しよう。これについて肯定的に回答した者の割合がもっとも高いのは「附属」であり、70%近くの者が「あてはまる」「ややあてはまる」とした。一方、「その他」では53%が肯定的に回答するに留まった。

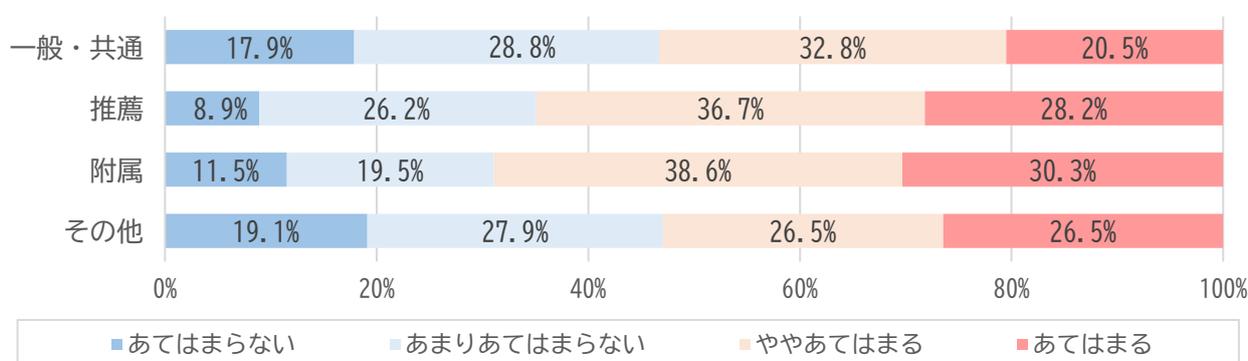


図 1-9 キャリア形成について学ぶ

ここまでの分析によって、入学方式によって高校での学習経験がやや異なることが示された。いわゆるアクティブ・ラーニング経験に着目すると、グループワークなどに積極的に参加したり、自分の意見を述べたりという学び方についてもやや違いがみられた。

入学方式によって最大20ポイント以上の差がみられたのは、「勉強の方法を学ぶ」「ボランティアについて学ぶ」であった。とくに「ボランティアについて学ぶ」は、総合型選抜（AO 入試）を含む「その他」で高く、「一般・共通」や「附属」ではそれほど高くない。

本学は、Global Citizenship Center を中心として、国内外でのボランティア活動などを推進し、世界に貢献する人材の育成に取り組んでいる。このような取り組みを考えると、とくに本学の附属高校や系属高校において、ボランティアや社会貢献についてさらに学ぶ機会をつくることも必要ではないかと考えられる。

1-5. 社会への貢献意識に着目した分析

本学は、早稲田大学を「世界人類に貢献する大学」として進化させることを目指している。そこで本節では、「大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた」という項目を用いて、新入生の「社会への貢献意識」について示していく。

学部、修士課程、博士課程それぞれの新入生の「社会への貢献意識」を示したのが図1-10である。

学部入学時において、87%以上の者が「社会への貢献意識」を持っていたことがわかる。また、修士課程、博士課程においても同様に、「社会への貢献意識」を持つ学生が多い（修士課程：89.2%、博士課程：91.0%）。本学の新入生は、多くの者がすでに「社会への貢献意識」を持ち、大学や大学院に入学しているといえるだろう。

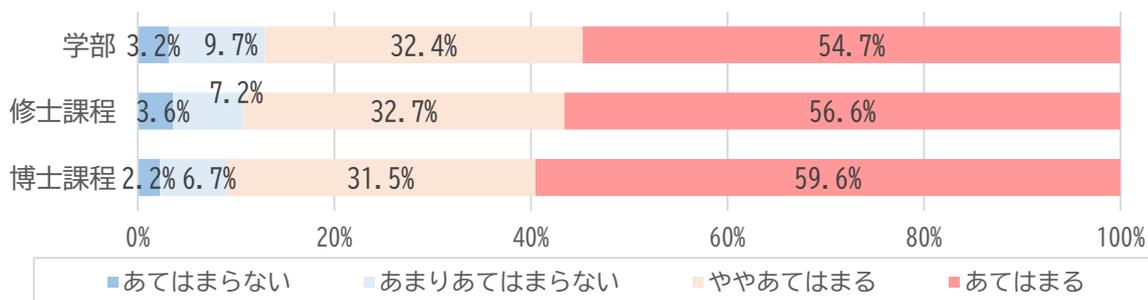


図 1-10 社会への貢献意識

社会への貢献意識と入学方式

このような「社会への貢献意識」が、入学方式によって異なるのか確認しておこう。学部新生を対象として、さきほどと同じ4つの入学方式別に示したのが図1-11である。

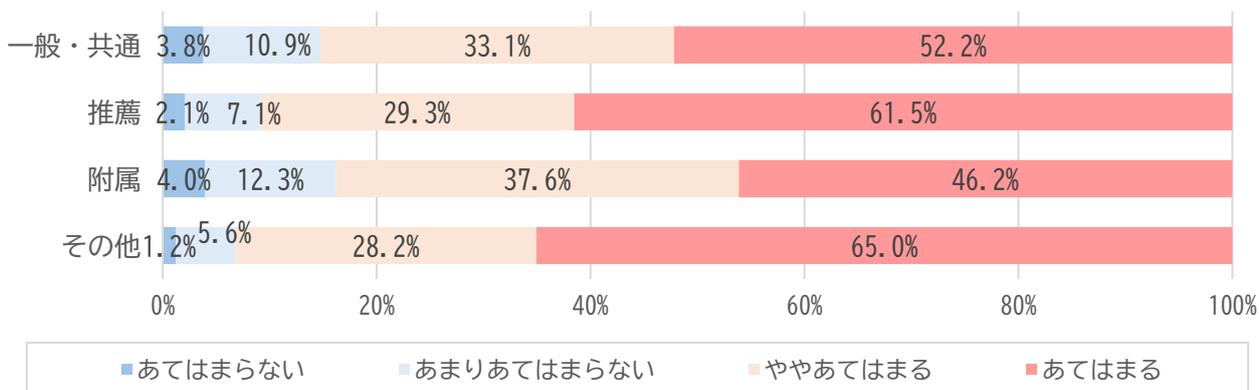


図 1-11 社会への貢献意識（入学方式別）

いずれの入学方式においても、「ややあてはまる」「あてはまる」の合計は80%以上と高い割合となっている。そのなかで、「その他」「推薦」と比べて、「一般・共通」や「附属」ではやや低い傾向がみられた。単純な比較はできないものの、前節の「ボランティアを学ぶ」の分析結果と同じような傾向を示しているともみることができる。

1-6. まとめ

本章では、高校での学習経験について、2024年度・2025年度の比較、また入学方式による比較を行った。さらに「社会への貢献意識」についても分析を行った。

2025年度には、高校の「総合的な探究の時間」で学んだ学生が入学したことを前提として、いわゆるアクティブ・ラーニング経験に着目して、2024年度・2025年度の比較を行った。その結果、「グループワークなどで授業に積極的に参加する」や「授業中に自分の意見や考えを述べる」は、2024年度より2025年度のほ

うがやや肯定的に回答する傾向がみられたものの、「総合的な探究の時間」の実施が、学生のアクティブ・ラーニング経験に与えた影響は限定的だと考えられた。

一方、2024年度よりも2025年度のほうが、キャリア形成について学んだ者が多い傾向がみられた。アクティブ・ラーニング経験という学び方とともに、「キャリア形成について学ぶ」というような学んだ内容に違いがあったといえるだろう。

さらに高校での学習経験が入学方式によって異なるのか、「一般・共通」「推薦」「附属」「その他」の4グループの比較を行った。その結果、入学方式によって高校での学習経験がやや異なることが示された。「グループワークなどで授業に積極的に参加する」や「授業中に自分の意見や考えを述べる」などの学び方について違いがあるとともに、「ボランティアについて学ぶ」のような学んだ内容にも違いがあることが示された。とくに「一般・共通」や「附属」では、ボランティアについて学んだとする者の割合が低いことが示唆された。

新入生の「社会への貢献意識」について、学部、修士課程、博士課程の比較をしたところ、いずれにおいても高い割合で「社会への貢献意識」を持っていることが示された。本学の新生は、大学入学時点からすでに「大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた」という貢献意識を持っているといえるだろう。

「社会への貢献意識」について、さらに入学方式別に確認したところ、「その他」「推薦」に比べて「一般・共通」「附属」ではやや低い傾向がみられた。とくに本学の附属高校や系属高校において、本学の教旨（建学の精神）にも結びつく「社会への貢献意識」をいかに醸成するのか、これは今後検討すべき課題のひとつだと考えられる。

第2章 新入生の留学経験と留学希望

2-1. 本章の目的

本学は Global Citizen 育成を掲げており、海外生活の経験がない学部生については、卒業までに1度は海外留学を経験する「全員留学」の実現を目指している。留学費用は円安などの影響で高騰しており、そのため奨学金制度拡充に向けた財源確保も目指している。

学生の留学を促すためには、学生の留学希望の実態を把握し、学生が感じている「留学を希望しない理由」を明らかにして、それに対応していくことも必要となろう。

本章では、この海外留学について、新入生の入学前の留学経験、留学希望、留学を希望しない理由などについて分析する。また、新入生が本学の留学制度や国際的な教育環境についてどのように認識しているのかについても分析を行う。

2-2. 分析対象・分析方法

分析対象とするのは、2025年度新入生調査の回答である。分析内容によって分析対象（全回答者、もしくは学部生のみ）を変更し、次の順番で分析を行う。

- 大学・大学院入学以前の海外経験について確認する。
- 大学・大学院での海外留学希望について確認する。
- 学部生を留学経験の有無で2グループに分け、それぞれの「留学を希望しない理由」を示す。
- 学部生は本学のどのような点に魅力を感じているのか、留学制度、国際的な教育環境の2つを取りあげ学部別に結果を示す。

大学・大学院入学以前の海外経験については、「親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在」、「中高時代の留学」の回答結果を示す。

また、海外留学希望については、「あなたは現時点で、学部・大学院在学中の海外留学を希望していますか。」と問うたうえで、「海外留学は希望していない」「短期の留学（おおよそ2か月以内）」「中期の留学（おおよそ3か月から半年未満（クォーター・セメスター留学））」「長期の留学（おおよそ半年以上）」から回答を求めた結果を示す。

さらに「海外留学は希望していない」を選択した学生には、海外留学を希望しない理由を尋ねており、その回答結果を海外経験あり／なしそれぞれで示す。なお、全員留学が義務付けられている国際教養学部の新入生には、海外留学希望や、留学を希望しない理由について尋ねていないことを付記しておく。

2-3. 入学までの留学経験

大学・大学院入学以前の海外留学経験について、「親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在」、「中高時代の留学」の2つを取り上げ、学部、修士、博士別に確認しておこう。

図2-1に示すように「親の海外赴任に伴う海外滞在」を経験した新入生は、学部、修士で14%程度、博士ではやや下がり10%程度であった。

「中高時代の留学」については、学部で14%程度、修士はやや増えて16%程度、博士ではやや下がり11%程度であった。

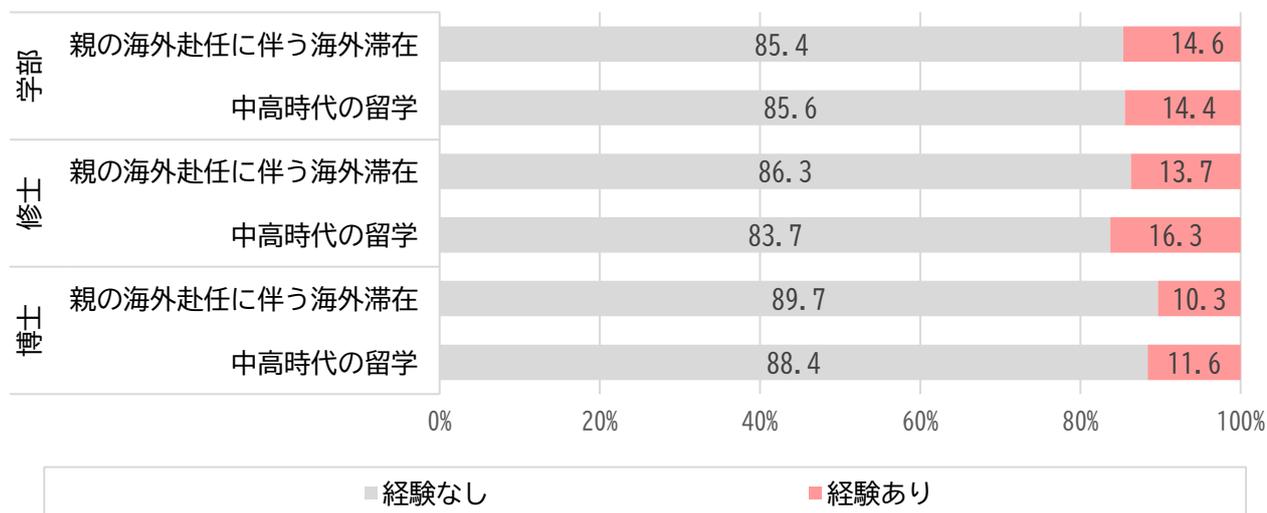


図 2-1 入学までの留学経験（学部・修士・博士）

この「親の海外赴任に伴う海外滞在」、「中高時代の留学」、および「企業等就職後の海外駐在」、「企業等での海外大学院研修」の4つの項目を用いて、大学・大学院入学以前の留学経験なし／ありの変数を作成し、その割合を示したのが図2-2である。

このグラフからは、学部から修士、博士と進むにつれて、留学経験者の割合が増えていることがわかる。学部では約25%、つまり4人に1人の新入生が入学前にすでに留学など海外滞在を経験している。その割合が修士では32%、博士では約35%と高くなっている。

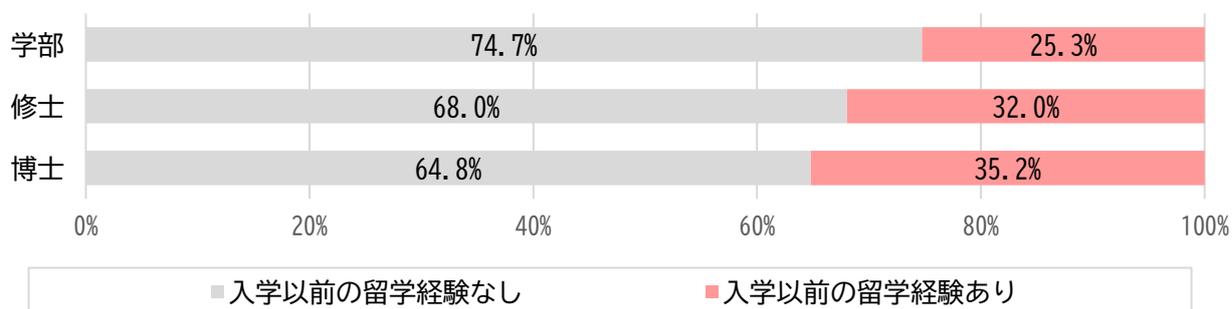


図 2-2 入学までの留学経験の有無（学部・修士・博士）

ここまで新入生の留学経験について確認したが、新入生の留学希望にはどのような様相がみられるのだろうか。

2-4. 大学・大学院での留学希望

海外留学希望について、学部、修士、博士別に示したのが図2-3である。前述したように、この回答者には全員留学が義務付けられている国際教養学部の新入生は含まれていない。

これをみると学部では約4割の新入生が留学を希望していない。これらの新入生はなぜ留学を希望しないのか。次節で改めて留学しない理由について検討することとしよう。

学部の留学希望者に目を向けると、短期留学を希望する新入生は約30%、中期・長期留学を希望する新入生は約25%である。学部入学時には、半数以上の学生が留学を希望しており、さらに4人に1人が中期・長期留学を希望している。

一方、修士では、留学希望者は短期・中期・長期を併せて約35%に留まる。また博士は、約55%が留学を希望しており、中期・長期が30%以上と多い。博士では留学先での研究を視野に入れ、中期・長期が増えるのではないかと考えられる。

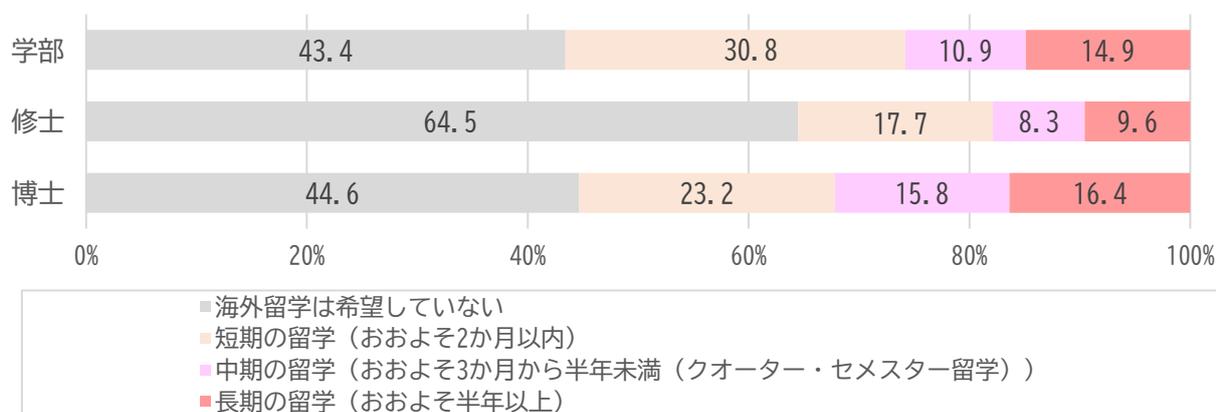


図 2-3 新入生の留学希望（学部・修士・博士）

2-5. 留学を希望しない理由

では、なぜ留学を希望しないのか、それを知るために海外留学を希望しない理由を確認していこう。

学部新入生を対象として、入学までに「親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在」、「中高時代の留学」のいずれかを経験した学生を「海外経験あり」、それ以外の者を「海外経験なし」として、それぞれの海外留学を希望しない理由を示したのが図2-4である。

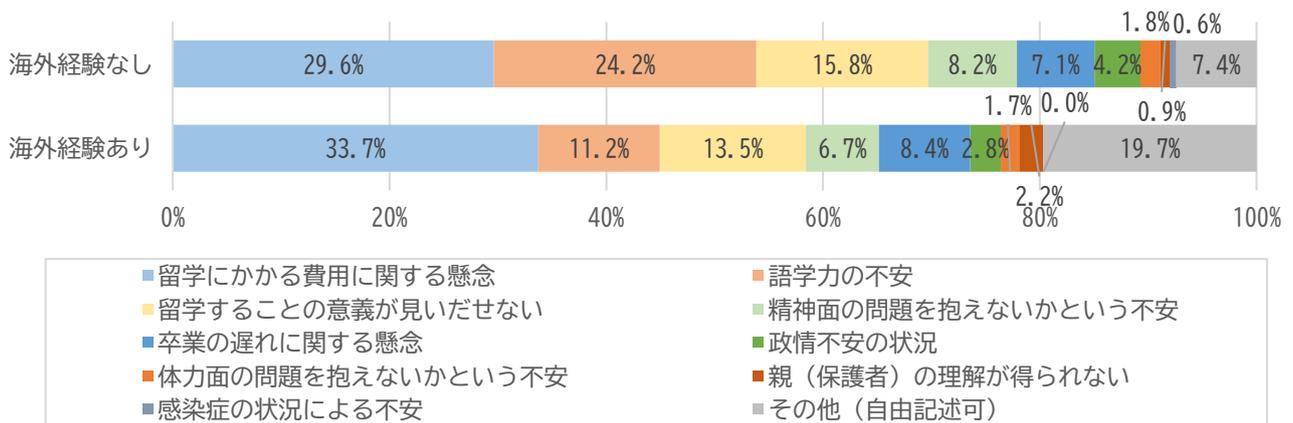


図 2-4 留学を希望しない理由（学部のみ）

海外経験なしで目立つのは、「語学力の不安」であり、約 25% の新入生が「語学力の不安」を訴えるのに比べて、留学経験ありでは、11% 程度と低い。学部入学までに海外経験がある新入生は、ある程度の実践的な語学力を身につけていると考えられる。

また、「留学にかかる費用に関する懸念」については、留学経験なしで 33.7%、留学経験ありで 29.6% と高い割合となっている。留学者希望者への奨学金制度拡充に向けた財源確保は、引き続き大きな課題となると考えられる。

2-6. 留学制度の魅力：学部別分析

新入生調査では、どのような点に魅力を感じて本学を希望したのかについても尋ねている。

そのなかで留学や語学学習に関わる 2 つの項目、「留学制度」「国際的な教育環境（英語による授業、留学生と共に学べる環境）、キャンパス内での国際交流の機会」を取り上げて確認しよう。

まず、留学制度について魅力を感じていたのか、学部ごとに示したのが図 2-5 である。

留学が義務付けられている国際教養学部では、90% 以上の新入生が留学制度に魅力を感じている。他方、人間科学部（通信教育課程）では留学制度に魅力を感じる者は 45% 程度と低い。これは仕事などに従事しながら通信教育で学んでいることによる影響だと推測される。

他の学部をみると、政治経済学部で約 80% とやや高く、それ以外の学部では 65～75% 程度となっている。国際教養学部、人間科学部（通信教育課程）の 2 学部を除いて、留学制度の魅力については学部間で大きな差異はないといえるだろう。

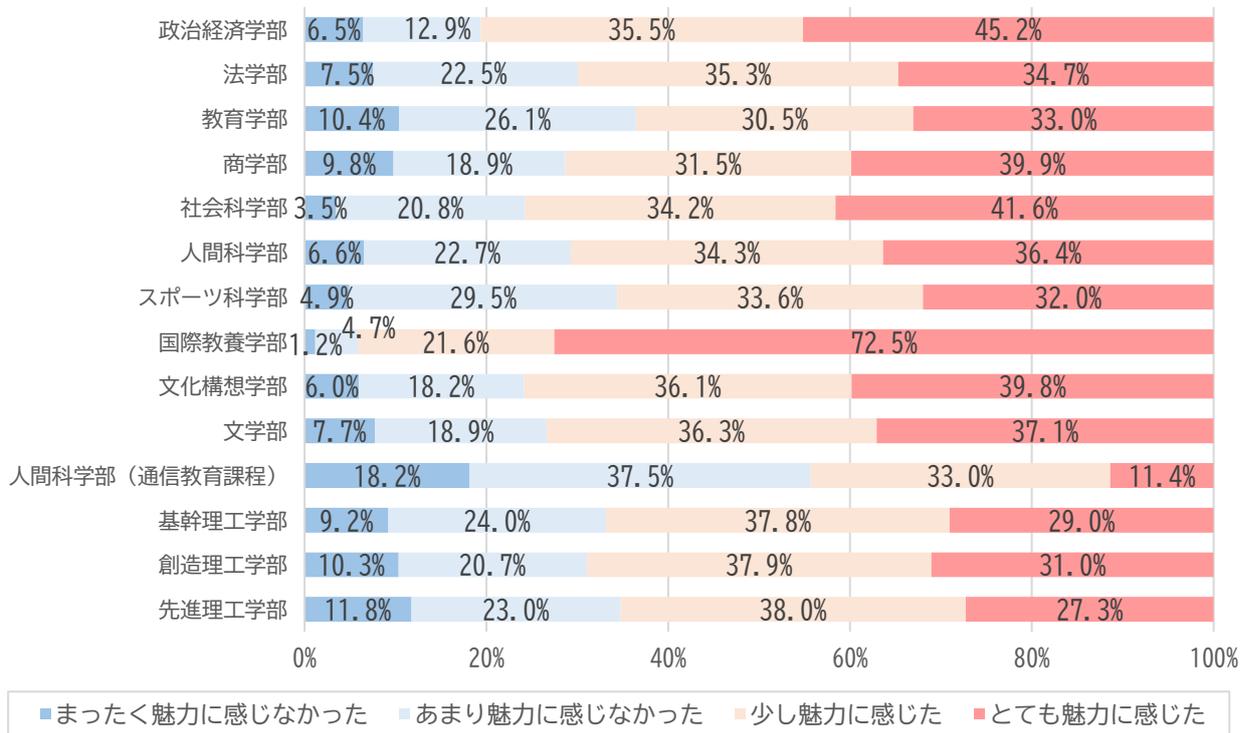


図 2-5 「留学制度」の魅力 (学部別)

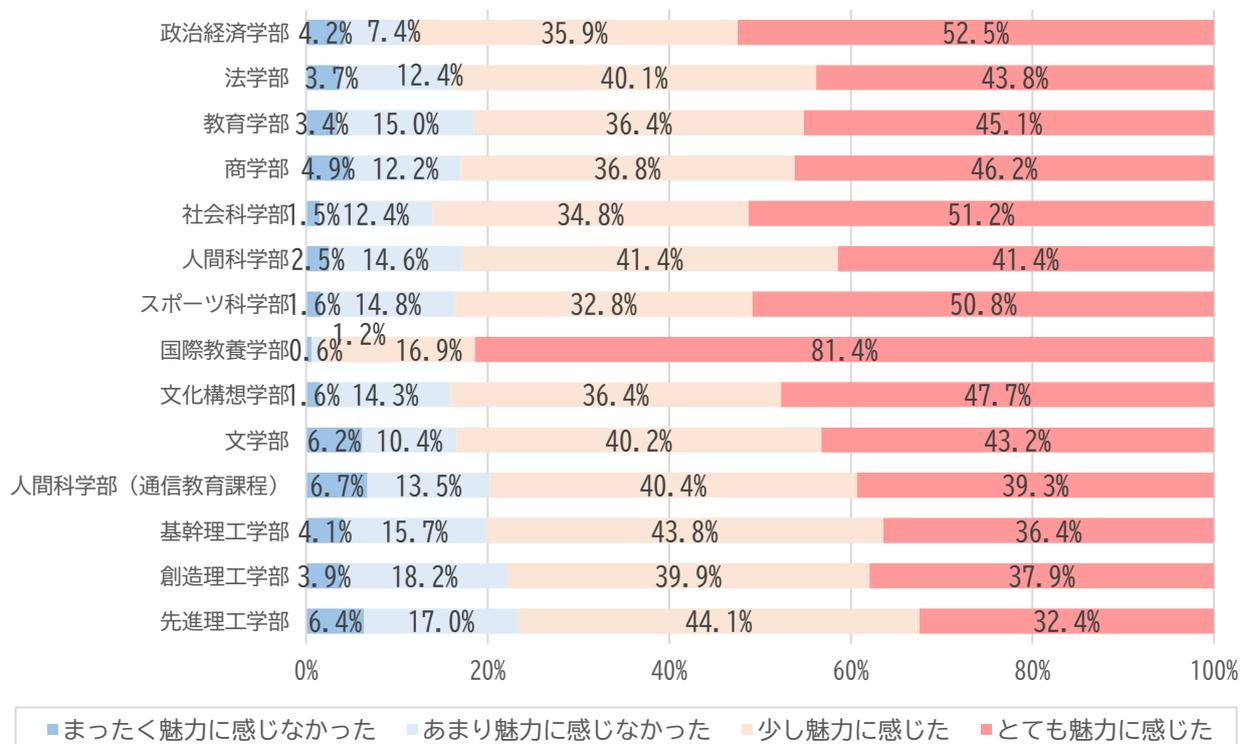


図 2-6 「国際的な教育環境」の魅力 (学部別)

次に「国際的な教育環境」をみてみよう（図2-6）。ここでも国際教養学部の新入生の回答が特徴的であり、約98%の学生が国際的な教育環境に魅力を感じている。国際教養学部では、英語授業があり、海外からの留学生も多く所属することから、英語による授業、留学生と共に学べる環境、キャンパス内での国際交流の機会に期待をし、魅力を感じていたものと思われる。

それ以外の学部では、「国際的な教育環境」に魅力を感じていた学生の割合は、75～88%程度とそれほど大きな違いはみられない。留学制度にはそれほど魅力を感じていなかった人間科学部（通信教育課程）の新入生も、本学の「国際的な教育環境」には魅力を感じていたことがわかる。

本学の新入生は、留学制度に魅力を感じるとともに、学内の「国際的な教育環境（英語による授業、留学生と共に学べる環境）、キャンパス内での国際交流の機会」にも魅力を感じ、入学前から期待をしているといえるだろう。

2-7. まとめ

本学では、学部入学者のうち約25%、つまり4人に1人が、入学前にすでに留学など海外滞在を経験していることが示唆された。また、留学希望をみると、学部において留学希望者は約6割に留まった。また修士では、留学希望者は短期・中期・長期を併せて約35%に留まった。修士課程は2年間と短いため、このような結果になったのではないかと考えられる。さらに博士をみると、約55%が留学を希望しており、中期・長期が30%以上と多い。博士では留学先での研究を視野に入れ、中期・長期の留学希望者が多くなるものと考えられる。

改めて学部の留学希望者に目を向けると、短期留学を希望する新入生は約30%、中期・長期留学を希望する新入生は約25%と4人に1人が中期・長期留学を希望している。中期・長期留学を実現するには、早い段階から留学に向けて調査をしたり、計画したりすることが必要であり、それを支援する体制も必要だと考えられる。

さらに新入生がどのような点に魅力を感じて本学を希望したのか、「留学制度」「国際的な教育環境（英語による授業、留学生と共に学べる環境、キャンパス内での国際交流の機会）」の2つの項目を取り上げ、学部別に確認した。学部によっていくぶん差はあるものの、学部の新入生は、本学の留学制度に魅力を感じるとともに、本学の「国際的な教育環境」にも魅力を感じていることが示された。

海外留学を促すための施策を進めるとともに、学内の国際的な教育環境を生かして外国語を身につけさせ、また、海外からの留学生とともに学び、交流する経験をどのように促すのか、このような視点からの検討も必要だと考えられる。

第3章 早稲田大学に期待すること：テキスト分析による検討

3-1. 本章の目的

本学の新生は、大学に何を期待して入学しているのだろうか。その一端を明らかにすることは、学生の声を聴き、早稲田大学の教育をよりよくする取り組みにもつながると考えられる。そこで、本章では、新生調査の自由記述を対象として、新生の入学時の期待について知るための基礎的な分析を試みる。

3-2. 分析対象・分析方法

分析対象とするのは、2025年度新生調査の大学・大学院への期待に関する自由記述である。この新生が書いた文章（テキスト）を対象として、次の順番で分析を行う。

- 学生が早稲田大学・大学院に何を期待しているのか、共起ネットワークによって確認する。
- 早稲田大学に期待することが学部によってどのように異なるのか、対応分析によって確認する。

「あなたが早稲田大学・大学院に期待することについて、自由にお書きください。」という指示文を示したうえで、自由記述での回答を促した。分析にあたっては、大学への期待と大学院への期待をそれぞれ分析する。大学院への期待については、修士学生の記述を対象とする。自由記述には英語での回答もあったが、今回は日本語で書かれた文章のみを対象とする。また、「ない」「特になし」などの記述は対象外とし、次の言葉はひとつの語として扱う処理を行った（強制抽出する語：奨学金）。分析にはKHCoderを用い、共起ネットワーク、および対応分析による分析結果を示す。

共起ネットワークでは、共起の程度が強い語を線で結んだネットワークとして描き、語の関連性を可視化する。共起ネットワークの円（バブル）の大きさは語の頻出度を示し、語の間の線の太さは関連の強さを示す。この共起ネットワークをみることで、どのようなことが書かれているのか概要をつかむことができる。

3-3. 新生が本学に期待すること

新生は早稲田大学での学生生活に何を期待しているのか、共起ネットワークで確認しよう。

① 学部生が期待すること

図3-1でポイントを絞ってみていくことにしよう。

多様な学生（人々）との交流

左上の緑グループには「多様」「学生」「交流」などがあり、多様な学生との交流を期待していることがうかがわれる。「交流」を含む実際の記述をいくつかあげておこう。

「交流」を用いた記述例：

「多くの人との交流ができること」「多様な文化やものの見方をする人と交流を持つ」

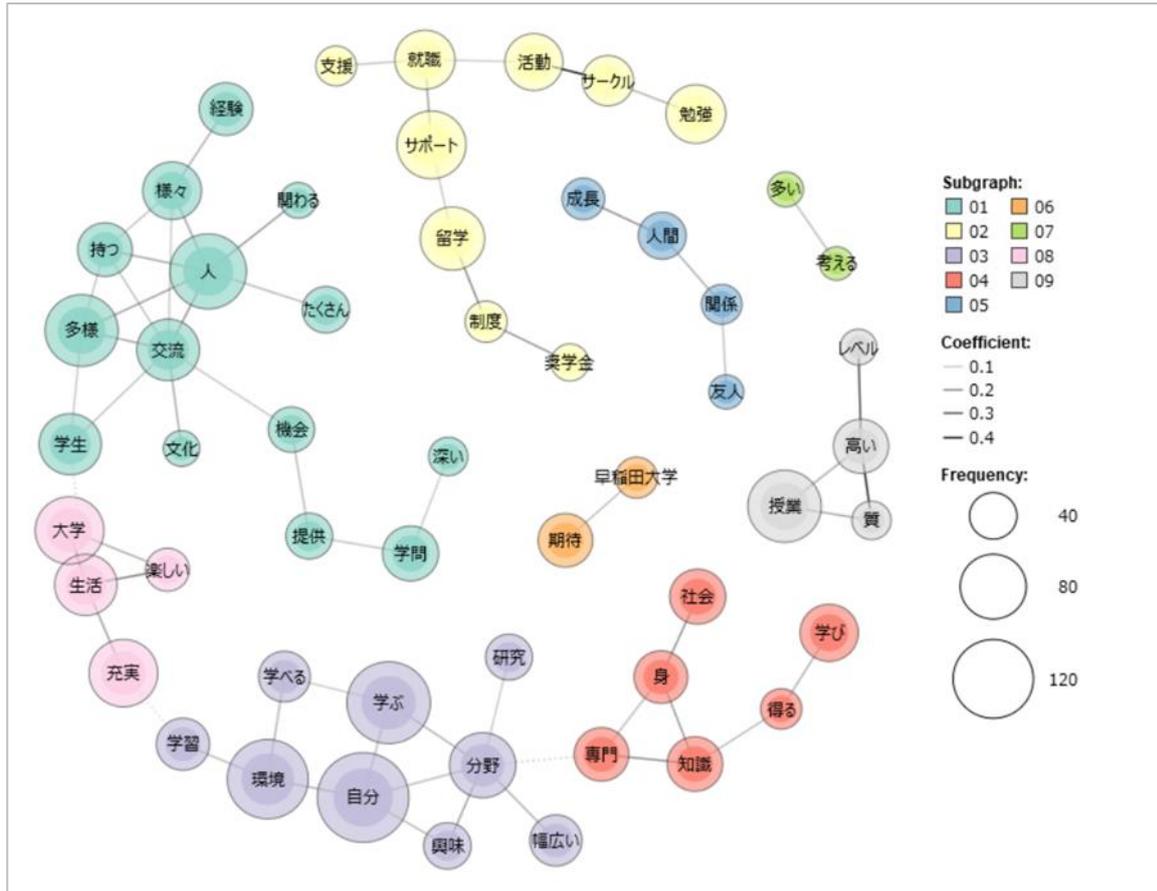


図 3-1 共起ネットワーク (学部)

質の高い授業

右の灰色のグループには、「質」「高い」「授業」などがあり、質の高い授業を求めているようである。

「授業」を用いた記述例：

「質の高い授業」「自由で活気のある授業」「多角的な視野を養うことができる質の高い授業」

自分の興味のある分野を学ぶ・研究する

左下の桃色のグループには、「大学」「生活」「楽しい」などがあり楽しい大学生活を送りたいという気持ちがうかがわれる。一方、下の紫グループは、自分の興味のある分野を学び、研究することを期待しているとみることができる。赤グループには、専門知識を社会に生かしたいという意識を読み取ることができる。

「楽しい」を用いた記述例：

「楽しい大学生活を送りつつも学問を深め、将来へのスキルを身につけられる場を提供すること」「楽しい大学生活と高レベルの勉強」

「分野」を用いた記述例：

「興味のある分野に関しての専門的な研究」「幅広く様々な分野の学びや経験を積むことができる環境」

「社会」を用いた記述例：

「社会に出てから役立つ知識や学びを得ること」「社会に貢献できる学びを得ること」

就職や留学へのサポート

上部の黄色グループは、就職や留学のサポートに関するものとみることができる。

「サポート」を用いた記述例：

「希望した企業に就職出来るようサポートすること」「留学サポート、キャリアサポート」

② 大学院生が期待すること

大学院の新生生はどのようなことを期待しているのだろうか。少し先取りしていえば、大学院生は、研究環境の充実や専門知識の獲得について期待をしているようである（図3-2）。

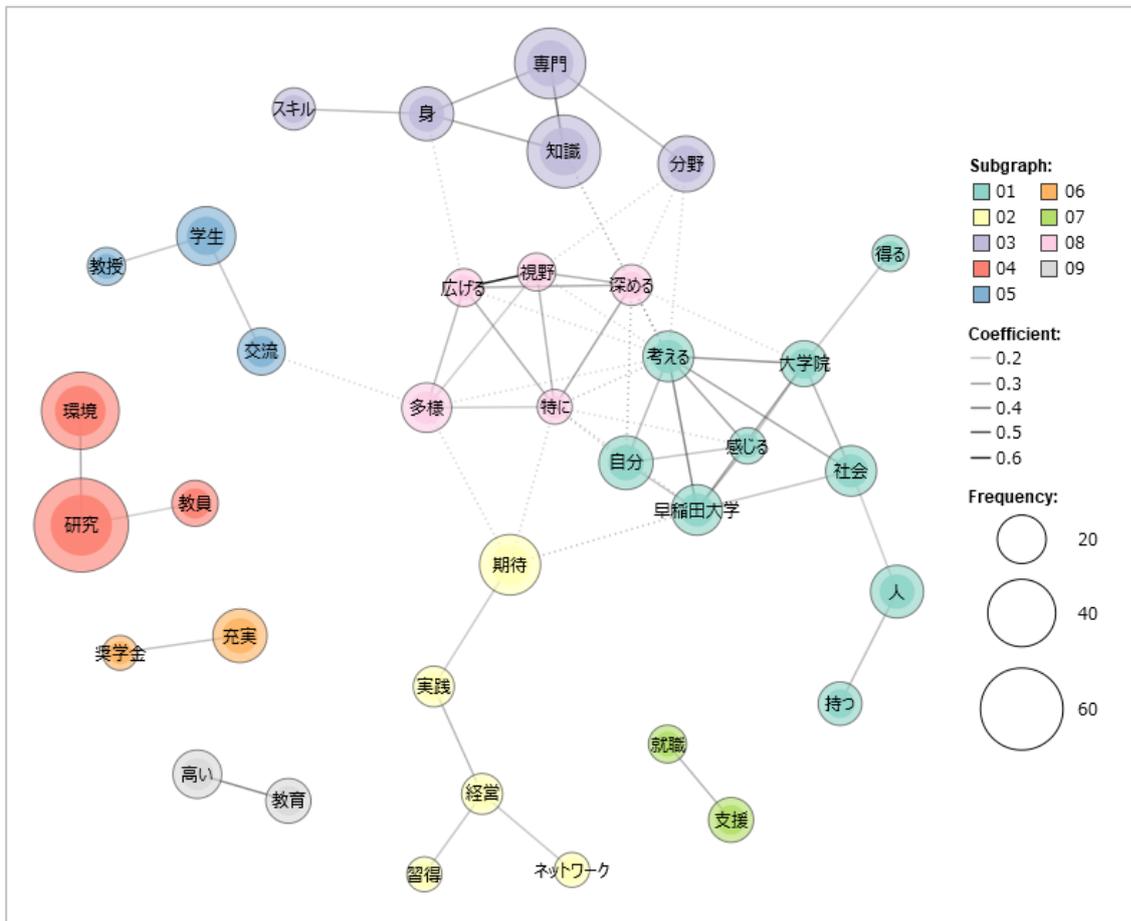


図 3-2 共起ネットワーク（大学院）

研究環境の充実

円（バブル）の大きさから、もっとも頻出しているのは「研究」であることがわかる。

「研究」を用いた記述例：

「研究のための充実した環境」「やりたい研究ができるだけの十分な研究設備と研究費」

専門知識の獲得

紫のグループからは、専門知識を身につけることを期待しているようである。

「専門」を用いた記述例：

「高度な専門知識を身につけること」「専門性を身につけられるカリキュラム、講義」

研究のための他の学生や教授との交流

大学院生は、青グループにみられるように他の学生や教授との交流も期待している。しかしそれは、楽しい学生生活のためではなく、研究を進め、専門知識を獲得することを目的としたもののようである。

「学生」を用いた記述例：

「教授や他学生と学びを深めること」「同じ志を持つ教授・学生との人的ネットワークの双方が高められること」

就職支援

就職支援や、奨学金の充実についても期待しており、大学院でも学びから就職までの支援を求めているといえそうである。

「支援」を用いた記述例：

「就職活動支援」「インターン支援やOB支援と、国際ランキング上昇によるブランド価値上昇」

③ 学部による違い

学部によって、大学に期待することは異なるのだろうか。学部新生を対象とした対応分析による分析結果を図3-3に示す。対応分析では、特徴のない語が原点（この図では点線が交差している点）付近にプロットされる。なお、図3-3では、原点近くの語にはラベルをつけず丸で示している。

原点からみて各学部の方向にプロットされている語、とくに原点から離れている語ほど、その学部を特徴づける語だと解釈できる。

学部によってまったく異なる特徴的な言葉を使って大学に求めるものを語る、という様相まではみられなかった。そのなかで、何らかの特徴をさぐるとすると、理工学部の新生は、「専門」や「学問」を使う傾向があるようである（たとえば、「化学の専門的な内容について学びたい」「将来の仕事につながる専門知識を身につけること」「学びたい学問の探求の場の提供」）。

学部に着目した対応分析で示されたのは、学部によって用いられる語がやや異なるものの、学部によってまったく異なる言葉を使って大学に期待するものを語るという様相まではみられなかったことである。

早稲田大学・大学院にさまざまな期待を持って入ってきた新生が、学生生活を送るなかでどのような思いを持つようになるのか、これについては引き続き検討をしていく必要があると考える。

第4章 AP認知・AP理解

本章では、2025年度の学部入学者を対象として、本学及び学部のAP（アドミッション・ポリシー）の認知そして理解（共感）の傾向と、諸項目との関連を報告する。分析では高校卒業後に早稲田大学の学部に入学者のみを対象とするため、調査全体のデータ（ $n=5533$ ）から、社会人学生、留学生、大学院生を除外し、分析対象となったのは $n=3446$ であった。

本調査では、大学のAPと学部のAPのそれぞれについて認知および理解の程度を質問した。AP認知の質問文は「あなたは『早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）』入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか」であり、選択肢は、「アドミッション・ポリシーというものを知らない」「確認しなかった」「あまり知らなかった」「やや知っていた」「よく知っていた」の5つであった。またAP理解の質問文は『大学（大学院）のアドミッション・ポリシー』および『入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー』の内容について、共感できるかどうか、それぞれあてはまるものを選択してください」であり、選択肢は、「全く理解（共感）できない」「あまり理解（共感）できない」「少し理解（共感）できる」「大いに理解（共感）できる」の4つであった。またAP理解の分析においては、大学及び学部のAP認知で「APというものを知らない」と回答した者は排除し、分析対象となったのは $n=3128$ であった。

なお本章で記載する入試区分の表記は、現行の入試制度では「一般入試」は「一般選抜」を、「AO入試」は「総合型選抜」を、「推薦入試」は「学校推薦型選抜」を、それぞれ意味する。

4-1. AP認知・AP理解の傾向

① AP認知・AP理解の全体の傾向

まずは大学APの認知および理解の傾向から確認する。図4-1は大学APの認知の割合であり、対象者のうち大学の「アドミッション・ポリシーというものを知らない」は10.3%、大学APを「確認しなかった」は13.5%、「あまり知らなかった」は16.0%、「やや知っていた」は37.3%、「よく知っていた」は22.9%であった。

2021年度「早稲田大学学生生活・学修行動調査報告書」で、当該年度入学者を抽出して同様の分析を行ったが、1年生（ $n=2481$ ）のうち、「APを知らなかった」という回答は19.3%であった。また2024年度「新入生調査報告書」では、当該年度新入生（ $n=2902$ ）のうち11.3%が「APというものを知らない」と回答していた。このことから、**2021年から2025年の4年間で、AP（アドミッション・ポリシー）そのものの認知度は少しずつ向上し、特に2021年度と比較すると、9ポイント向上しているといえる。**

図4-2は大学APの理解の割合であり、対象者のうち、「全く理解できない」は1.6%、「あまり理解できない」は3.4%、「少し理解できる」は44.3%、「大いに理解できる」は50.7%であった。肯定的な回答の割合を合計すると、95.0%であり、このことから、全体的に大学APの理解（共感）度は高いことが示されたが、一方で入学時に大学が求めるAPについて、その理解や共感には、実際にはよりばらつきがあると考えられるため、この点は調査設計の課題として検討を続ける。

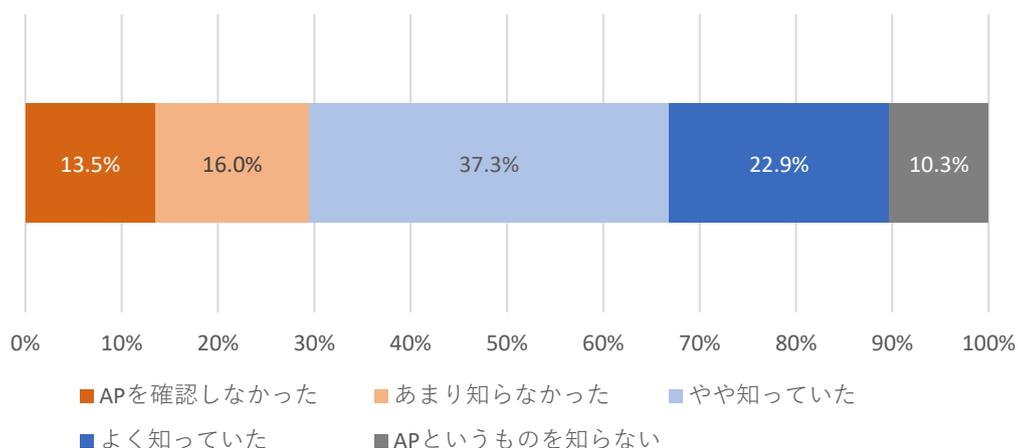


図4-1 大学APの認知

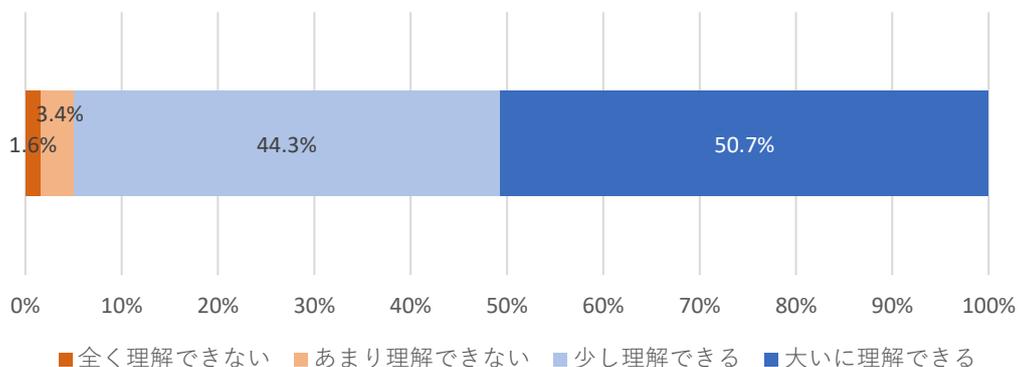


図4-2 大学APの理解（共感）

次に学部 AP の認知および理解の傾向を確認する。図4-3は学部 AP の認知の割合であり、対象者のうち学部の「アドミッション・ポリシーというものを知らない」は9.4%、大学 AP を「確認しなかった」は12.3%、「あまり知らなかった」は16.7%、「やや知っていた」は36.5%、「よく知っていた」は25.1%であった。

2024年度「新入生調査報告書」では、当該年度新入生（ $n=2767$ ）のうち10.9%が「APというものを知らない」と回答しており、学部の AP そのものの認知度は2024年度に比べて1ポイントほど向上していた。

図4-4は学部 AP の理解の割合であり、対象者のうち、「全く理解できない」は1.2%、「あまり理解できない」は2.7%、「少し理解できる」は40.7%、「大いに理解できる」は55.4%であった。学部 AP に関しても、肯定的な回答の割合を合計すると、96.1%であり、このことから、全体的に学部 AP の理解（共感）度は高いことが示されたが、一方で入学時に学部が求める AP について、その理解や共感には、実際にはよりばらつきがあると考えられるため、この点も調査設計の課題として検討を続ける。

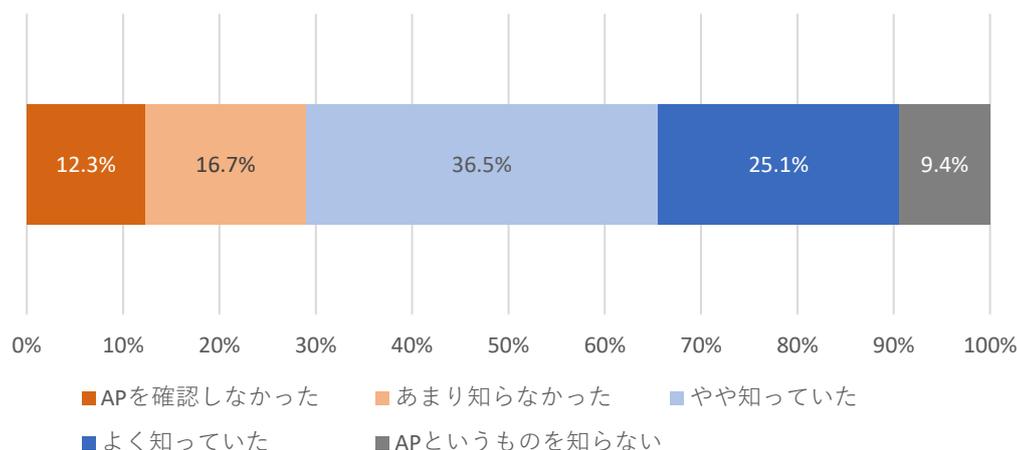


図4-3 学部APの認知

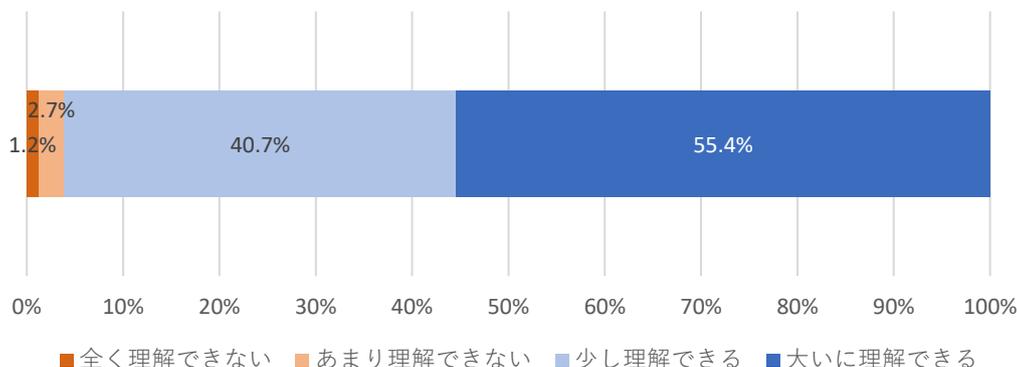


図4-4 学部APの理解 (共感)

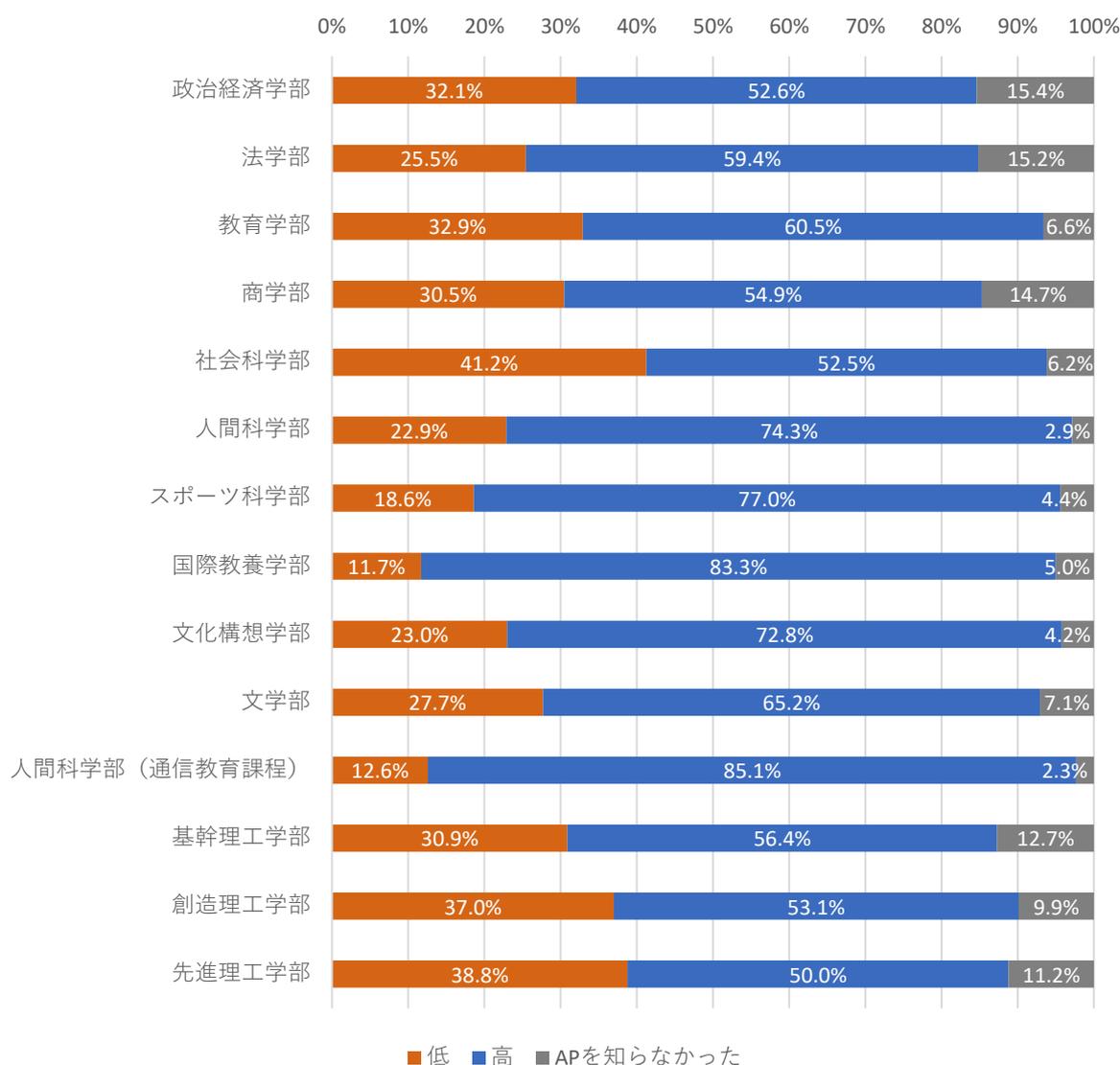
② 学部・入試区分ごとのAP認知・AP理解

ここでは2021年度「学生生活・学修行動調査」以来となるが、入学学部と入試区分別に、APの認知および理解の傾向を確認する。特に入学学部別では学部AP認知度を、入試区分別分析では大学APについて分析する。またAP認知については、「確認しなかった」「あまり知らなかった」を、AP認知低群、「やや知っていた」「よく知っていた」を、AP認知高群としてまとめた。同様にAP理解(共感)に関しては、「全く理解(共感)できない」「あまり理解(共感)できない」をAP理解低群、「少し理解(共感)できる」「大いに理解(共感)できる」をAP理解高群としてまとめた。

図4-5は、学部別の、学部APの認知である。これをみると、人間科学部の通信教育過程(社会人学生を含めた全データに基づく割合)が、AP認知高群が85.1%であり、最も学部AP認知度が高かった。この背景として、人間科学部(通信教育課程)では、出願時にAPに関する記述を課していることが、直接的な要因として考えられる(図4-7)。次に学部APの認知度が高かったのは、国際教養学部(83.3%)であり、スポ

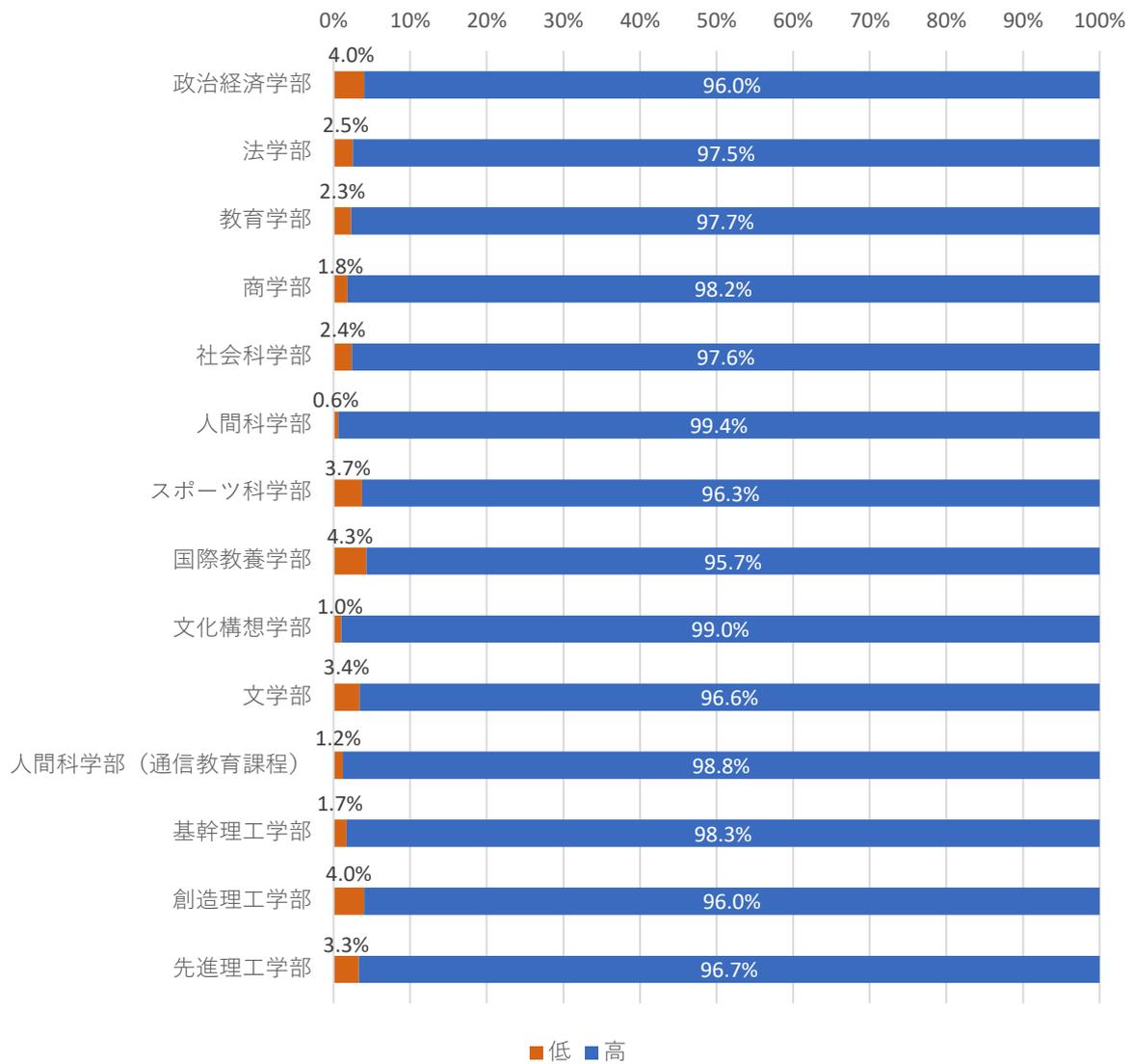
ーツ科学部（77.0%）、人間科学部（74.3%）、文化構想学部（72.8%）と続いた。一方で、学部APの認知度が、相対的に低かった（高群の割合が小さかった）のは、先進理工学部（50.0%）、社会科学部（52.5%）、政治経済学部（52.6%）、創造理工学部（53.1%）、商学部（54.9%）であった。

図4-6は、学部別の学部APの理解（共感）度であり、AP認知において「APを知らなかった」と回答した者を除いた上で、全学部を通して高いAP理解（共感）度が示された。



1) 人間科学部（通信教育過程）に関しては、社会人学生を含めた全データに基づく割合とした。

図4-5 学部別，学部APの認知



1) 人間科学部 (通信教育過程) に関しては、社会人学生を含めた全データに基づく割合とした。

図4-6 学部別, 学部APの理解 (共感)

3. 志望動機書について

オンライン出願にて以下の内容を入力してください。なお、オンライン出願の画面上で直接入力を行った場合、正常に送信されない場合があります。事前に「入学試験情報」に掲載されているフォーマット※に入力を行ってください。

※https://dpt-e-school.waseda.jp/pdf/38_common_doukisho_shitagaki_2026.xlsx

1) 入学試験要項掲載の「人間科学部 e スクールの 3 つの方針」を踏まえて、以下の各設問について受験者本人が入力してください。

(1) アドミッション・ポリシーと志望動機

アドミッション・ポリシーを十分確認した上で、回答してください。本学人間科学部 e スクールを志望するに至った経緯を、自身の経験と関連づけながら具体的に記述してください。通学課程ではなく、なぜ通信教育課程を選択したのか、その理由を含めて説明してください。(800文字程度)

(2) カリキュラム・ポリシーと自身の関心

カリキュラム・ポリシーを中心に、3 つの方針全てを十分に確認した上で、設問に取り組んでください。

1. 現時点での自分自身の興味・関心(必要に応じて、研究・探究したいテーマや先行研究等を含む)を述べ、入学から卒業までのカリキュラムの中でこれをどのように発展させていきたいかを述べてください。(700-1000 文字程度)
2. 本学のシラバス検索システム(※1)を利用し、自身の志望動機や関心と関連性が高いと考えられる専門科目や専門ゼミを、2~3つ検討してください。具体的な授業名やゼミ名称を記した後に、自身の志望動機や関心と、これらの科目とがどのように関連していると思うか、適宜シラバスの文章を引用しながら具体的に記述してください。(700-1000 文字程度)

(3) ディプロマ・ポリシーと将来展望

ディプロマ・ポリシーを十分確認をした上で、回答してください。

卒業後に本学人間科学部 e スクールでの学びをどのように活かす予定か具体的に記述してください。(600-800 文字程度)

図4-7 人間科学部(通信教育過程)一般選抜入学試験要項(2026年入学用)

図4-8は、入試区分別の、大学APの認知である。これをみると、AO入試が、AP認知高群が90.0%、「APを知らなかった」が0.0%と、大学AP認知度が相対的に最も高かった。次いで推薦入学も、AP認知高群が88.3%、「APを知らなかった」が2.3%と、相対的に認知度が高かった。これらの結果は、AOや推薦入試という、入試形態の特徴を反映していると考えられる。それ以外では、一般入試入学ではAP認知高群が53.7%、共通テスト入試では49.4%であった。また附属・系属校のAP認知が相対的に低い傾向は、2021年度「学生生活・学修行動調査」の結果と同様であった。早稲田高校はAP認知高群が40.6%、「APを知らなかった」が31.3%であり、早稲田実業はAP認知高群が34.3%、「APを知らなかった」が28.3%であり、高等学院はAP認知高群が20.2%、「APを知らなかった」が59.6%であり、本庄高等学院はAP認知高群が14.1%、「APを知らなかった」が50.5%であった。

図4-9は、入試区分別の、大学AP理解(共感)度であり、全体的に高い水準ではあるが、特に高等学院は、AP理解低群が13.5%、本庄高等学院はAP理解低群が10.9%と、相対的にAPの理解が低かった。ただし附属・系属校の中でも早稲田高校は、AP理解高群が100%と、AO入試と同等の理解度の水準であり、附属・系属校においても違いがみられた。

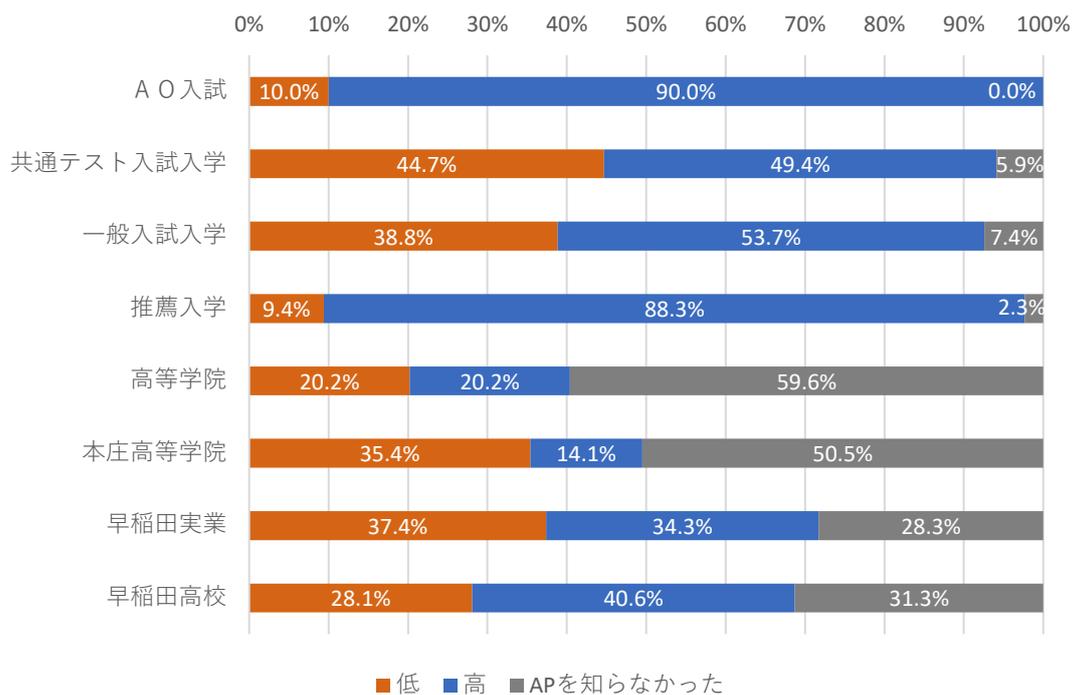


図4-8 入試区分別，大学APの認知

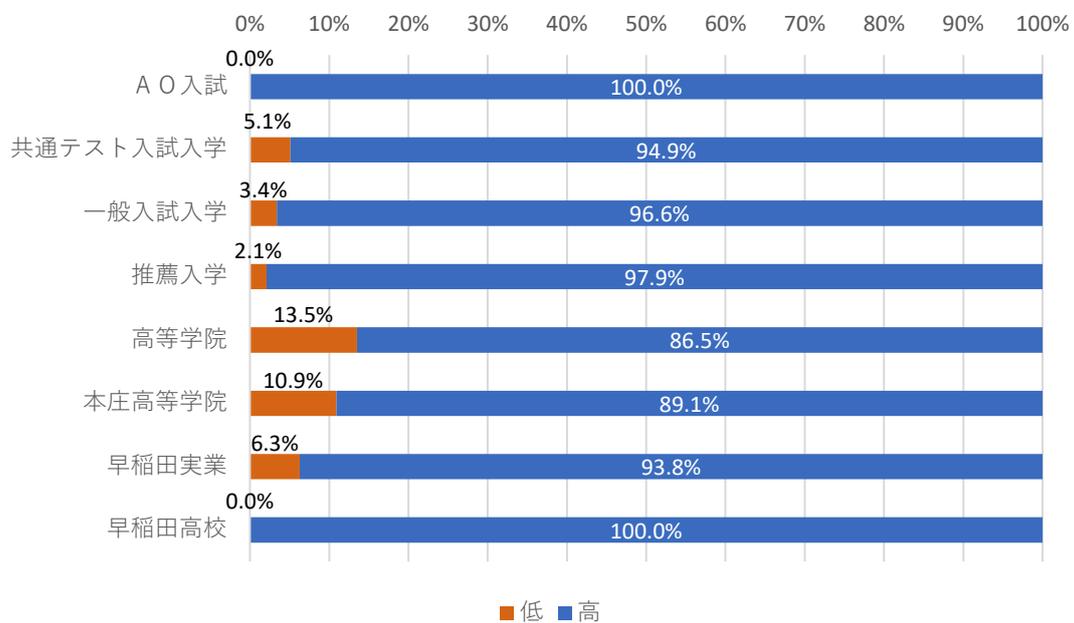


図4-9 入試区分別，大学APの理解（共感）

③ 入試方式別のAP認知・AP理解・AP資質

ここでは入試方式を、「一般・共通」、「推薦」、「附属」、「その他（AO含む）」に区分して、AP認知、AP理解、そして大学のAPに関する入学前の資質・能力の項目について分析をする。特にAP認知に関しては「APを知らなかった」を除いて表示する。

図4-10は、入試方式別の大学AP認知である。「よく知っていた」の割合は、「推薦」が50.4%、「その他（AO含む）」が47.7%と相対的に高く、一方で「一般・共通」が14.1%、「附属」が23.0%と相対的に低かった。

図4-11は、入試方式別の大学AP理解である。「大いに理解（共感）できる」の割合は、推薦が65.9%、その他（AO含む）が57.7%と相対的に高く、一方で「一般・共通」が49.7%、「附属」が44.1%と相対的に低かった。

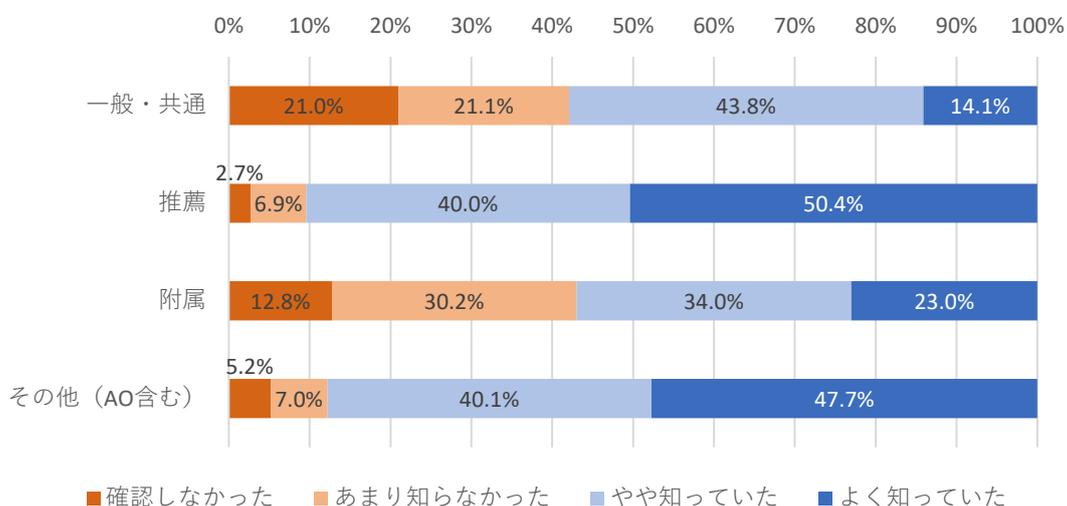


図4-10 入試方式別，大学APの認知

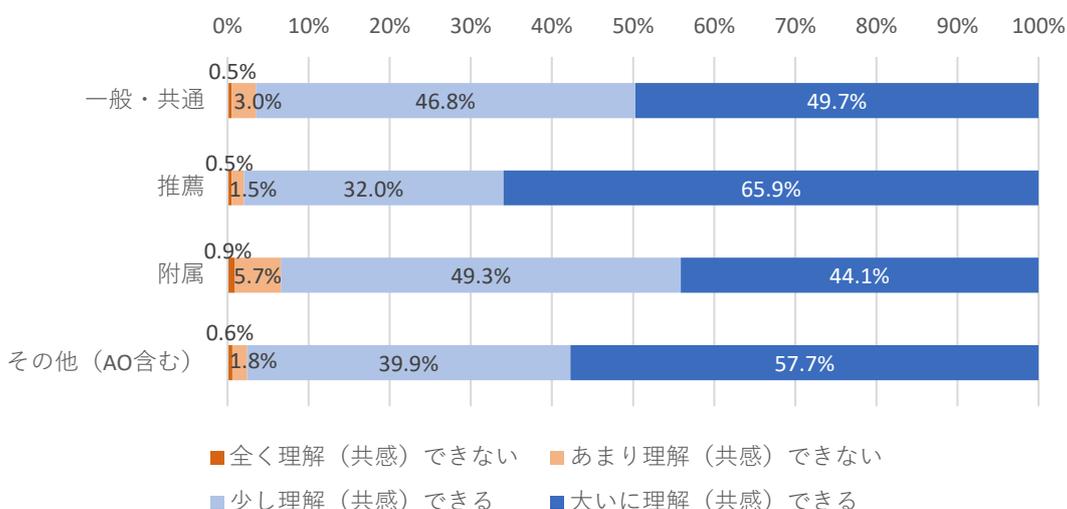


図4-11 入試方式別，大学APの理解（共感）

図4-12は、入試方式別の学部AP認知である。「よく知っていた」の割合は、「推薦」が55.6%、「その他（AO含む）」が56.7%と相対的に高く、一方で「一般・共通」が14.7%、「附属」が24.8%と相対的に低かった。

図4-13は、入試方式別の学部AP認知である。「大いに理解（共感）できる」の割合は、「推薦」が70.4%、「その他（AO含む）」が66.1%と相対的に高く、一方で「一般・共通」が53.6%、「附属」が52.6%と相対的に低かった。

入試方式別にみた場合の、大学APの認知や理解（共感）の傾向と、学部APの傾向とは、ほぼ同じであった。「知っていた」や「理解（共感）できる」といった肯定的な回答の割合は、学部APの方が大学APよりも、比較的割合が大きかった。

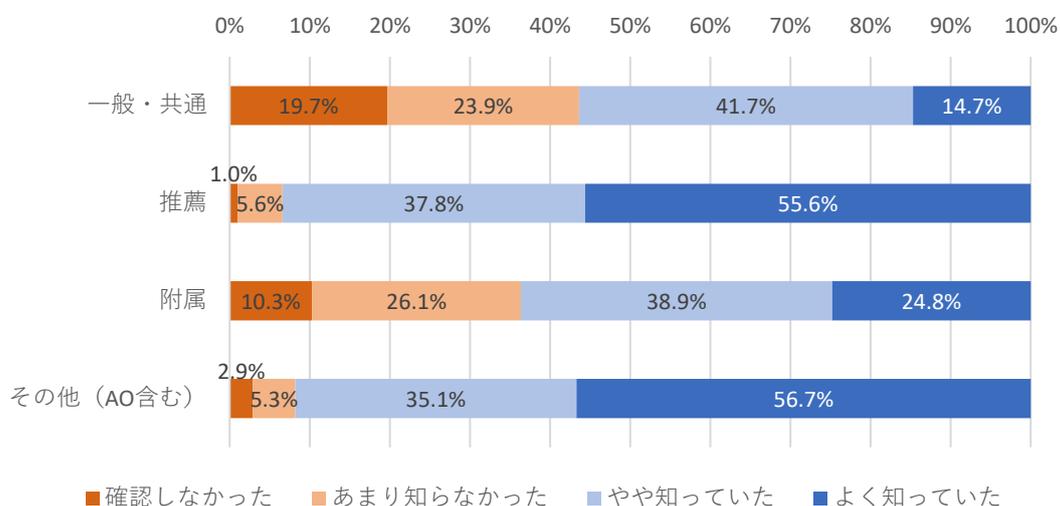


図4-12 入試方式別，学部APの認知

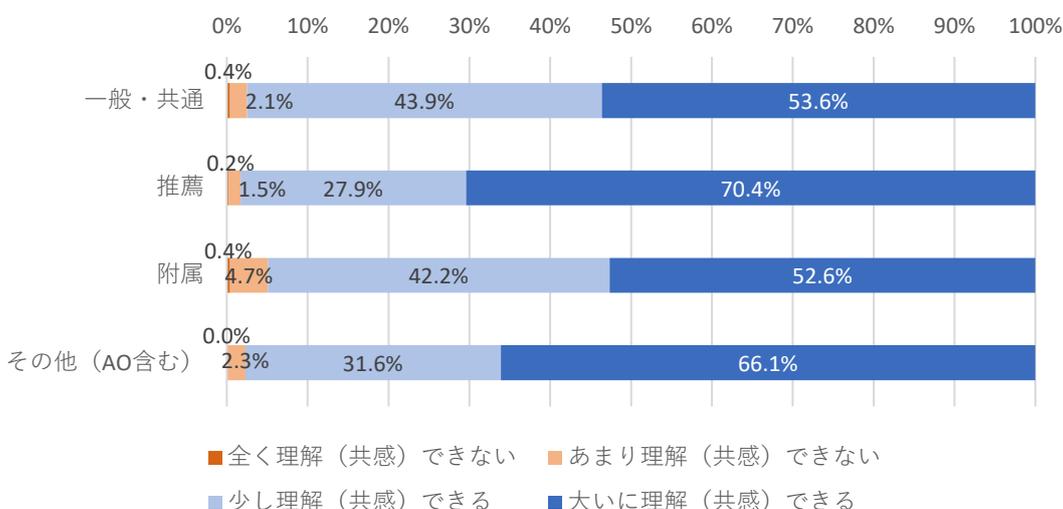


図4-13 入試方式別，学部APの理解（共感）

図4-14と図4-15は、入試方式別の、大学のAP関連の入学前の資質・能力である。AP関連資質は、「自分の考えを論理的に構成することができた」、「複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた」、「自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた」、「自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた」、「同じ目標に向けて他者と協働することができた」、「他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた」、「相手の立場や考え方に共感することができた」、「大学で学ぶ(学んだ)ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた」である。

図4-14の、「自分の考えを論理的に構成することができた」では、「あてはまる」の割合は、「その他(AO含む)」が33.0%と相対的に大きく、「附属」が23.6%と相対的に小さかった。「複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた」では、「あてはまる」の割合は、「一般・共通」が47.5%と相対的に大きく、「附属」が36.2%と相対的に小さかった。「自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた」では、「あてはまる」の割合は、「その他(AO含む)」が37.5%と相対的に大きく、「推薦」が27.4%と相対的に小さかった。「自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた」では、「あてはまる」の割合は、「その他(AO含む)」が59.1%と相対的に大きく、「附属」が47.5%と相対的に小さかった。

図4-15の、「同じ目標に向けて他者と協働することができた」では、「あてはまる」の割合は、「推薦」が54.9%と相対的に大きく、「一般」が50.1%と相対的に小さかった。ただしこの項目の、入試方式の違いは他の項目に比べて小さかった。「他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた」では、「あてはまる」の割合は、「その他(AO含む)」が45.7%と相対的に大きく、「推薦」が34.4%と相対的に小さかった。「相手の立場や考え方に共感することができた」では、「あてはまる」の割合は、「その他(AO含む)」が58.0%と相対的に大きく、「一般・共通」が51.8%と相対的に小さかった。「大学で学ぶ(学んだ)ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた」では、「あてはまる」の割合は、「その他(AO含む)」が64.2%と相対的に大きく、「附属」が52.4%と相対的に小さかった。

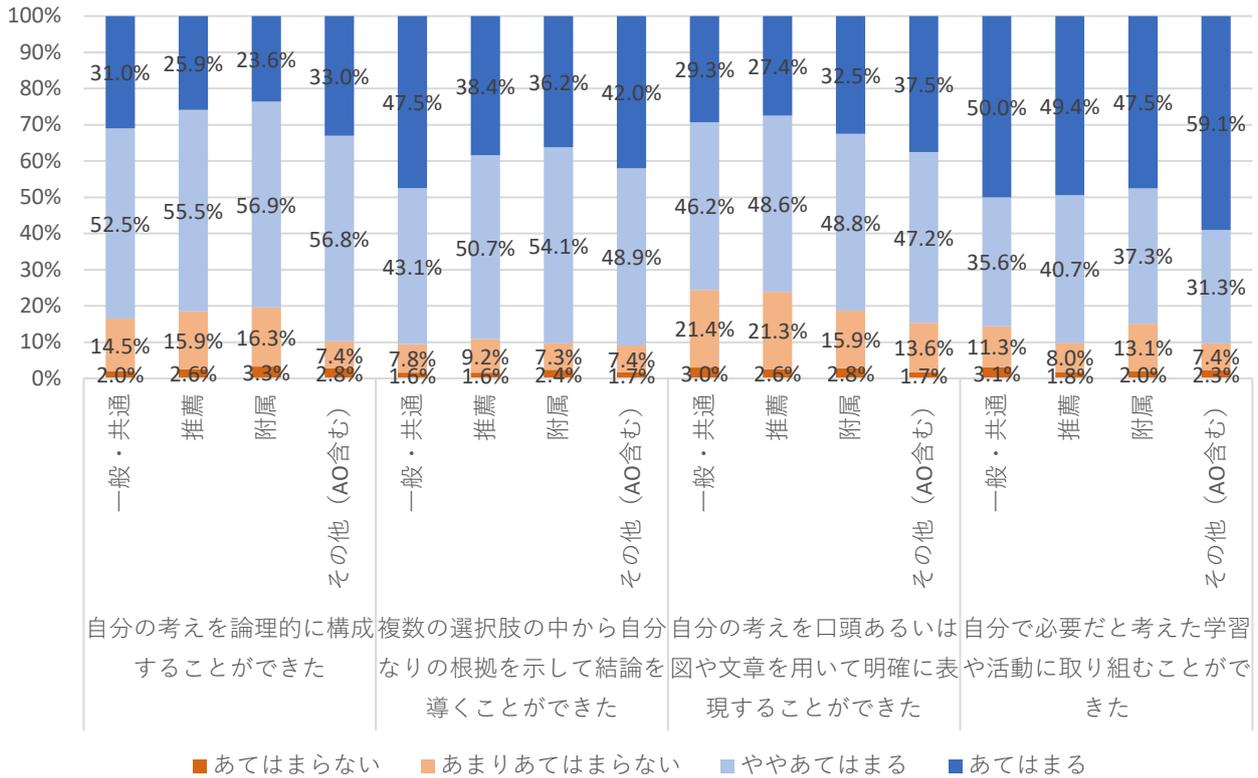


図4-14 入試方式別, AP関連入学前資質・能力①

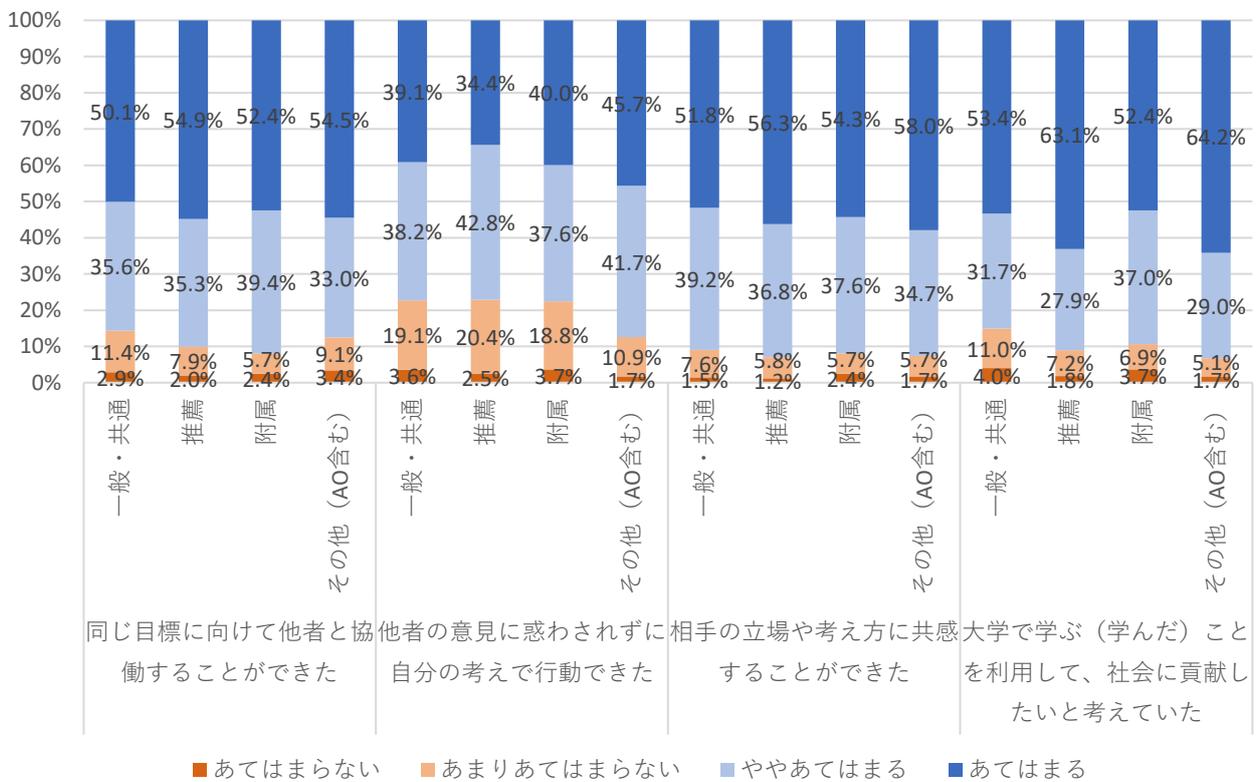


図4-15 入試方式別, AP関連入学前資質・能力②

4-2. AP認知・AP理解と関連のある項目の探索

ここでは、大学と学部のAP認知及びAP理解（共感）と、関連のみられる質問項目を探っていく。本調査の表4-1の質問に含まれる項目について、相関係数（Spearmanの ρ 、以降： r_s ）を算出し、その中で大学または学部のAP認知・理解（共感）の、いずれかの相関係数（ r_s ）が.20以上だった項目について報告をする。探索的な視点であるため、投入された質問項目のうち、効果量（ r_s ）が.20以上だった項目に注目した報告である点に注意が必要である。

表4-1 本節で用いる質問項目

質 問	質問項目数
「あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか」	8項目
「あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください」	6項目
「あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください」	7項目
「あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか（それぞれあてはまるものを選択）」	3項目
「あなたは「学び・研究に関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください」	9項目
「あなたは「進路・学生生活・イメージに関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください」	9項目
「出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた情報源について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください」	12項目
「あなたが大学に進学する上で、最終的に早稲田大学を選んだ理由は何ですか。それぞれあてはまるものを選択してください」	10項目
「早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください」	2項目

表4-2は、大学または学部のAP認知・AP理解と関連（相関）がみられた質問項目である。

大学APの認知との関連が特に大きかったのは、早稲田大学を選んだ理由が「利用可能な推薦・特別入試があった」（ $r_s=.320$ ）、出願で影響を受けた情報源が「早稲田大学・大学院の入学案内パンフレット」（ $r_s=.287$ ）、早稲田大学を選んだ理由が「教わりたい教員がいた」（ $r_s=.283$ ）などであった。

学部APの認知との関連が特に大きかったのは、早稲田大学を選んだ理由が「利用可能な推薦・特別入試があった」（ $r_s=.358$ ）、出願で影響を受けた情報源が「現在籍学部・研究科のパンフレット」（ $r_s=.308$ ）、「現在籍学科・専攻のWebサイト」（ $r_s=.306$ ）などであった。

大学APの理解（共感）との関連が特に大きかったのは、早稲田大学を志望するうえでの進路・学生生活・イメージに関する魅力が「歴史・伝統・スクールカラー」（ $r_s=.303$ ）、早稲田大学を志望するうえでの学び・研究に関する魅力が「特定の分野の専門性を高める体系的カリキュラム」（ $r_s=.302$ ）、「教員の全体的なレベ

ル」($r_s=.295$)、早稲田大学を選んだ理由が「学習環境や学生生活のサポートが充実している」($r_s=.293$)などであった。

学部 AP の理解 (共感) との関連が特に大きかったのは、早稲田大学を志望するうえでの学び・研究に関する魅力が「特定の分野の専門性を高める体系的カリキュラム」($r_s=.306$)、早稲田大学を選んだ理由が「学習環境や学生生活のサポートが充実している」($r_s=.271$)、早稲田大学を志望するうえでの学び・研究に関する魅力が「複数の分野に跨って学べる学際的カリキュラム、全学的な教育システム」($r_s=.264$)、早稲田大学を選んだ理由が「自分の志望する専門分野があった」($r_s=.252$) などであった。

表4-2 AP認知・AP理解と関連がみられた質問項目

	アドミッション・ポリシー (AP) 認知		アドミッション・ポリシー (AP) 理解 (共感)	
	大学	学部	大学	学部
あなたのこれまで (学部・大学院に入学するまで) のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。				
大学で学ぶ (学んだ) ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	.139 ***	.144 ***	.262 ***	.242 ***
あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。				
学校の授業で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	.183 ***	.204 ***	.166 ***	.165 ***
あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。				
ボランティアについて学ぶ	.223 ***	.199 ***	.125 ***	.111 ***
あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか (それぞれあてはまるものを選択)。				
課外活動 (体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど)	.188 ***	.201 ***	.101 ***	.117 ***
あなたは「学び・研究に関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか? 魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください。				
特定の分野の専門性を高める体系的カリキュラム	.194 ***	.202 ***	.302 ***	.306 ***
入学後一定期間を経てから学科・専攻を決められる教育システム	.161 ***	.152 ***	.211 ***	.191 ***
複数の分野に跨って学べる学際的カリキュラム、全学的な教育システム	.195 ***	.207 ***	.283 ***	.264 ***
教員の全体的なレベル	.170 ***	.146 ***	.295 ***	.256 ***
教員数と学生数の比率、少人数・双方向型授業の実施状況	.207 ***	.164 ***	.241 ***	.208 ***
国際的な教育環境 (英語による授業、留学生と共に学べる環境)、キャンパス内での国際交流の機会	.201 ***	.196 ***	.267 ***	.238 ***
留学制度	.156 ***	.150 ***	.222 ***	.182 ***
大学としての研究レベル (大学ランキング、研究資金獲得実績等)、研究環境	.176 ***	.154 ***	.262 ***	.206 ***
施設・設備	.167 ***	.132 ***	.238 ***	.177 ***
あなたは「進路・学生生活・イメージに関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか? 魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください。				
就職活動へのサポート、キャリア支援体制	.176 ***	.138 ***	.226 ***	.161 ***
多種多様な部活・サークル等の課外活動・勉学以外の経験を積める可能性	.143 ***	.126 ***	.226 ***	.182 ***
学生数の多さ・学生の多様性、それに伴う大学全体の活気・交友関係の広がり	.143 ***	.141 ***	.223 ***	.208 ***

学生へのケアやサポート体制	.218 ***	.188 ***	.281 ***	.225 ***
歴史・伝統・スクールカラー	.159 ***	.123 ***	.303 ***	.224 ***
知名度・ブランド力	.113 ***	.071 ***	.215 ***	.158 ***
OB・OGの結束力、OB・OG会の社会的影響力	.176 ***	.143 ***	.247 ***	.200 ***

出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた情報源について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。

早稲田大学・大学院の入学案内パンフレット	.287 ***	.255 ***	.239 ***	.200 ***
現在籍学部・研究科のパンフレット	.276 ***	.308 ***	.182 ***	.191 ***
早稲田大学 Web サイト（大学全体のホームページ、入学センターのホームページ）	.259 ***	.290 ***	.214 ***	.203 ***
現在籍学部・研究科の Web サイト	.247 ***	.315 ***	.149 ***	.195 ***
現在籍学部・専攻の Web サイト	.245 ***	.306 ***	.164 ***	.179 ***
早稲田大学のオープンキャンパス・キャンパスツアー・大学祭（オンラインを含む）	.225 ***	.212 ***	.166 ***	.128 ***

あなたが大学に進学する上で、最終的に早稲田大学を選んだ理由は何ですか。それぞれあてはまるものを選択してください。

自分の志望する専門分野があった	.168 ***	.176 ***	.201 ***	.252 ***
教わりたい教員がいた	.283 ***	.288 ***	.197 ***	.220 ***
伝統・校風が好き	.182 ***	.155 ***	.250 ***	.204 ***
学習環境や学生生活のサポートが充実している	.240 ***	.228 ***	.293 ***	.271 ***
利用可能な推薦・特別入試があった	.320 ***	.358 ***	.093 ***	.106 ***

早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。それぞれ最もあてはまるものを選択してください。

大学（大学院）	.273 ***	.264 ***	.119 ***	.091 ***
学部（研究科）	.151 ***	.222 ***	.055 **	.119 ***

最小： $n = 1995$ ，最大： $n = 2548$

** $p < .01$ ，*** $p < .001$

Spearman の $\rho(r_s)$: $|r_s| < .20$ 非常に弱い／ほぼ無， $.20 \leq |r_s| < .40$ 弱い， $.40 \leq |r_s| < .60$ 中程度， $.60 \leq |r_s| < .80$ 強い， $.80 \leq |r_s| \leq 1.00$ 非常に強い， \square : $.20 \leq |r_s|$

4-3. AP認知・AP理解と諸項目との関連の詳細

ここでは、前節で大学及び学部の AP 認知・AP 理解（共感）と、特に強い関連がみられた項目と、それに加えてその他にも検討に値する項目について、関連の詳細をグラフ化して報告する。AP 認知については、「AP を知らなかった」を除いたうえで、「確認しなかった」「あまり知らなかった」を、AP 認知低群、「やや知っていた」「よく知っていた」を、AP 認知高群としてまとめた。同様に AP 理解（共感）に関しても、AP 認知の「AP を知らなかった」を除いたうえで、「全く理解（共感）できない」「あまり理解（共感）できない」を AP 理解低群、「少し理解（共感）できる」「大いに理解（共感）できる」を AP 理解高群としてまとめた。

① DP 関連資質・能力との関わり

図 4-16 及び図 4-17 は、大学 AP 認知・理解の高群・低群と、新入生の入学時点での DP 関連資質・能力の自己認識との関係である。例えば図 4-16 の左端「新しいことに挑戦できる」は DP 関連項目のひとつであり、大学 AP 認知の高低、AP 理解の高低という視点で、比較することができる。これによると AP 認知及び理解の高群の方が、「新しいことに挑戦できる」という DP 関連資質・能力について、入学時点で高く自己評

価していることがわかる。

図4-18 及び図4-19 は、学部 AP 認知・理解の高群・低群と、新入生の入学時点での DP 関連資質・能力の自己認識との関係である。

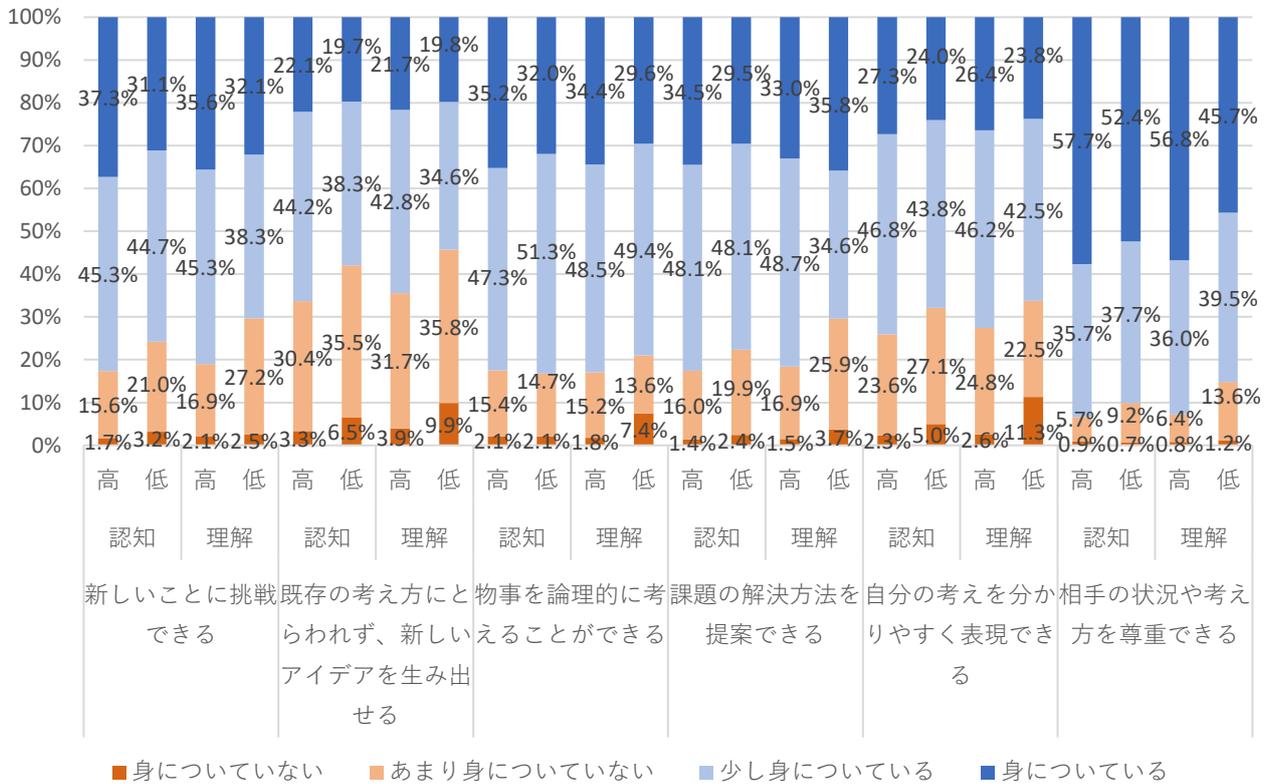


図4-16 大学AP認知・理解とDP関連資質・能力との関係①

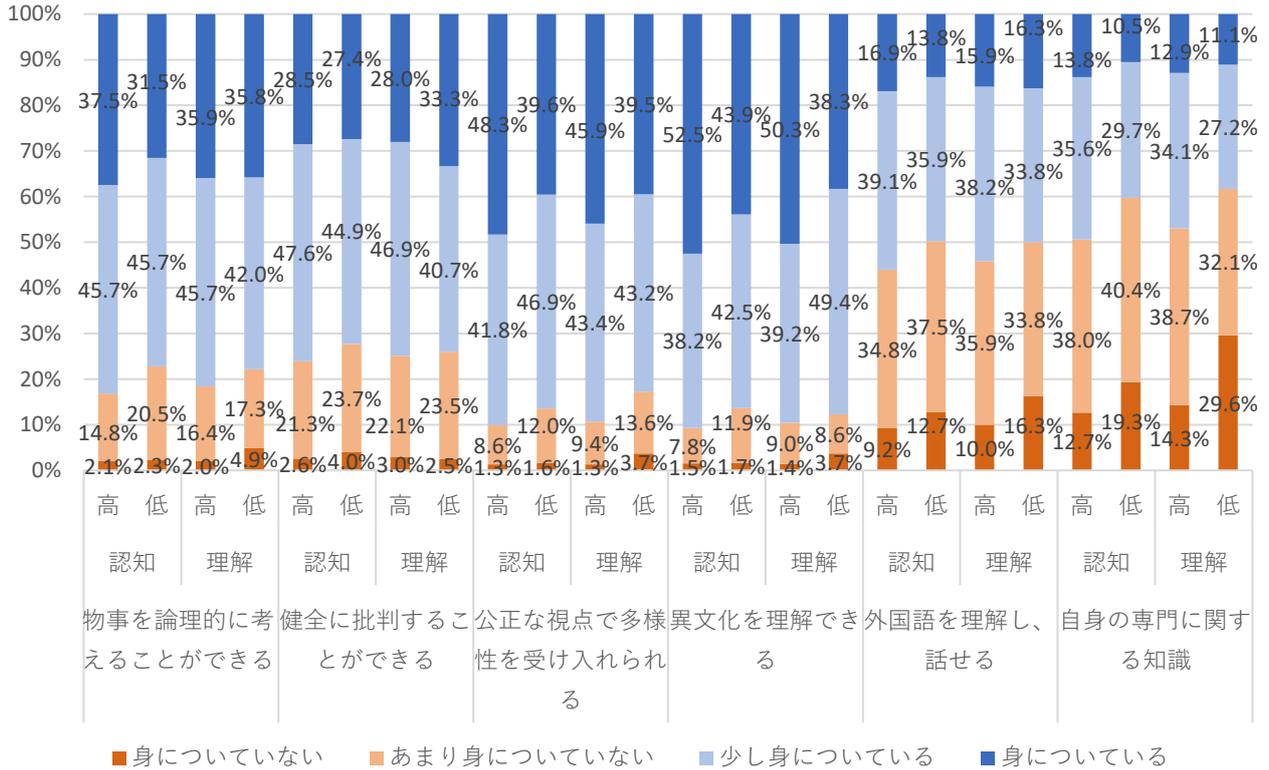


図4-17 大学AP認知・理解とDP関連資質・能力との関係②

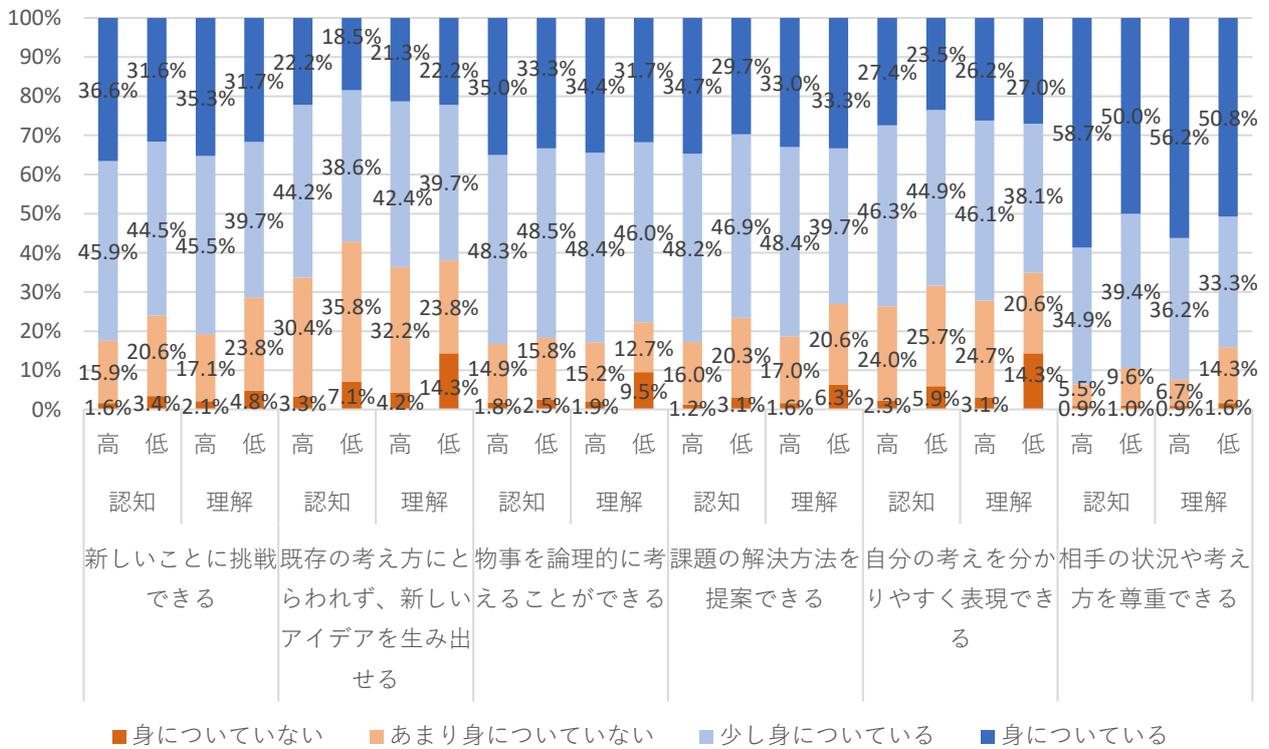


図4-18 学部AP認知・理解とDP関連資質・能力との関係①

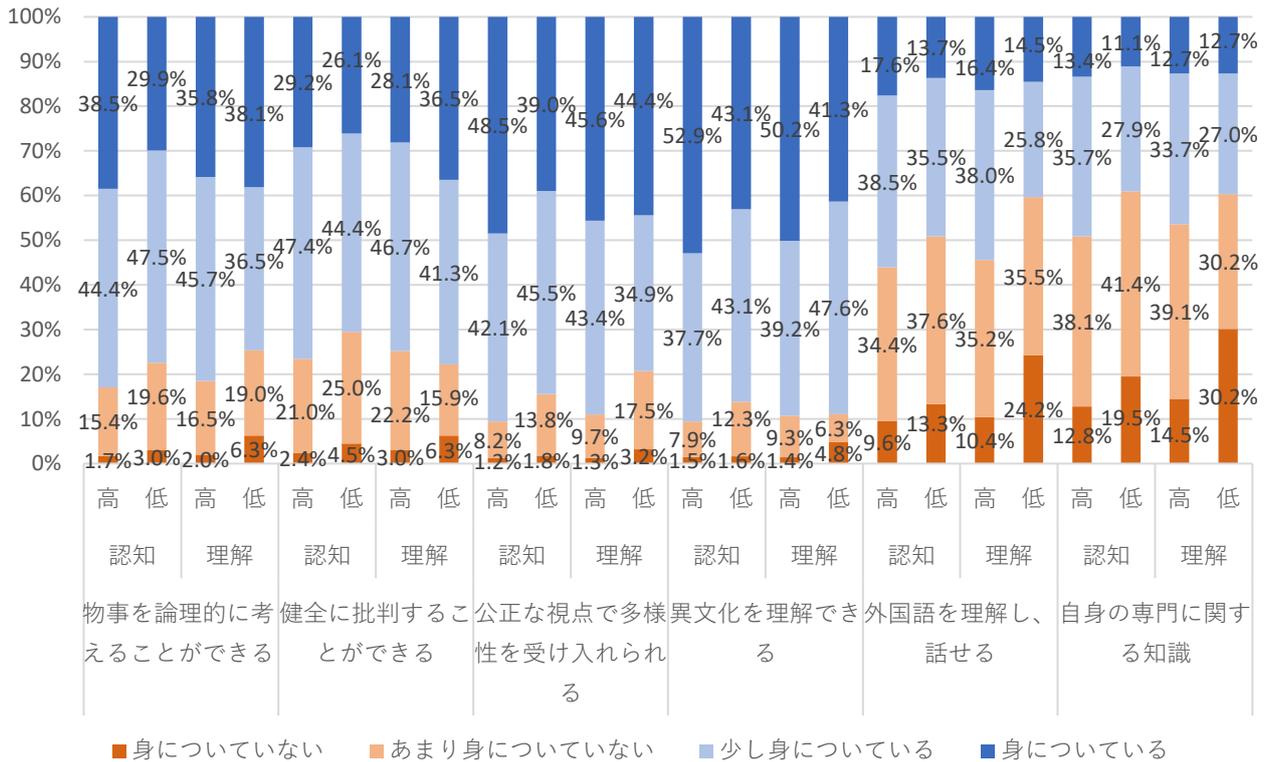


図4-19 学部AP認知・理解とDP関連資質・能力との関係②

② 早稲田大学を志望するうえでの「学び・研究に関する魅力」との関わり

図4-20及び図4-21は、大学AP認知・理解と、早稲田大学志望への「学び・研究に関する魅力」との関係である。図4-22及び図4-23は、学部AP認知・理解と、早稲田大学志望への「学び・研究に関する魅力」との関係である。

質問文は「あなたは「学び・研究に関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください」である。

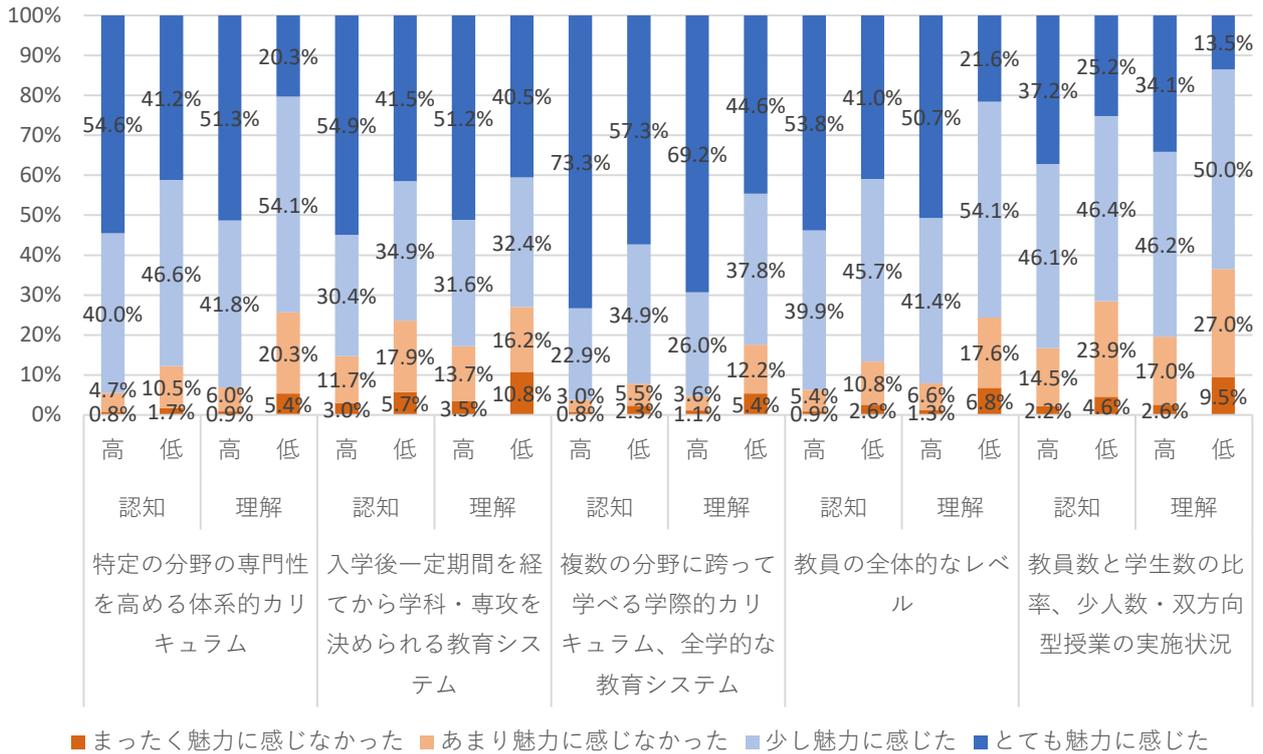


図4-20 大学AP認知・理解と早稲田大学志望への「学び・研究に関する魅力」との関係①

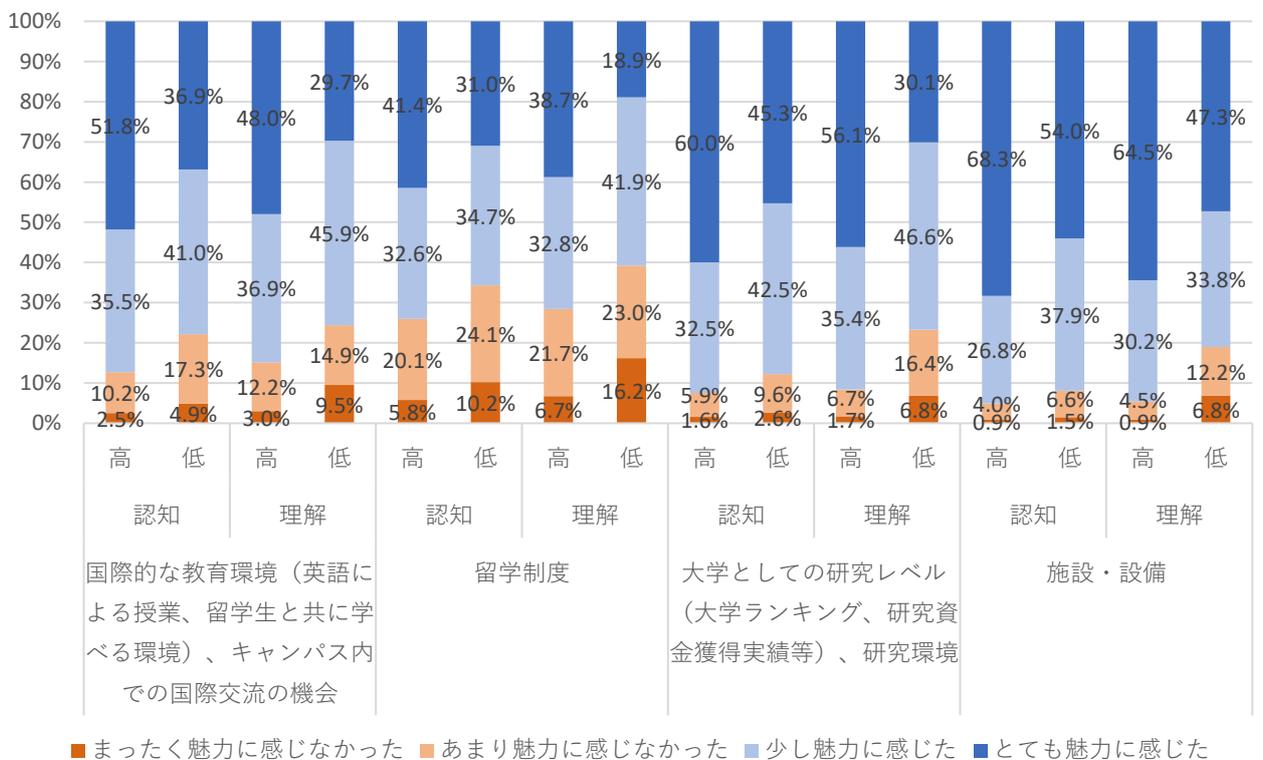
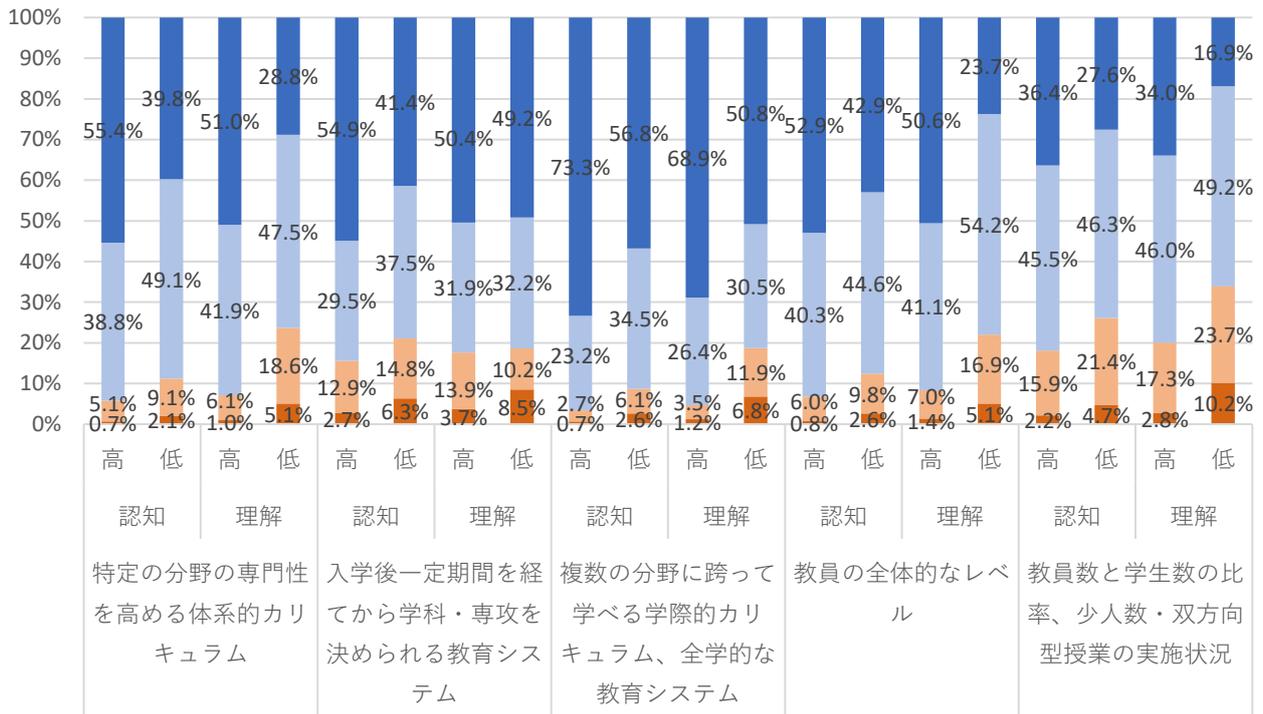
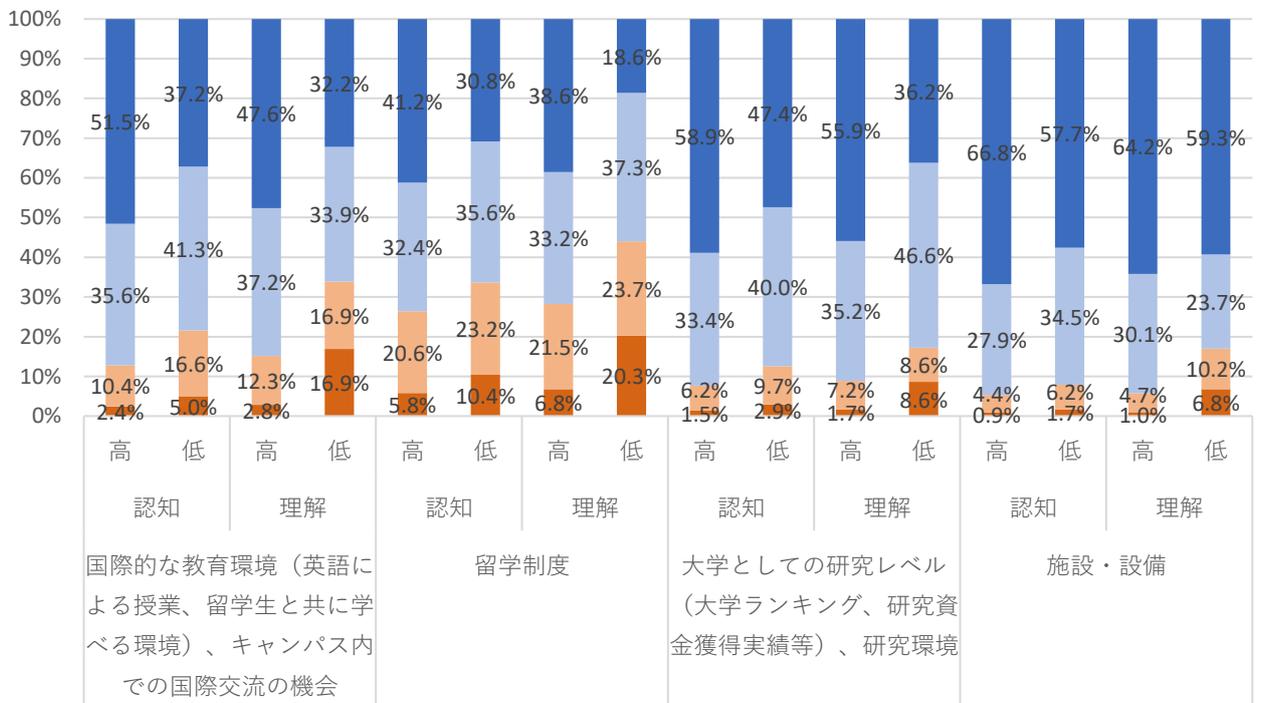


図4-21 大学AP認知・理解と早稲田大学志望への「学び・研究に関する魅力」との関係②



■まったく魅力に感じなかった ■あまり魅力に感じなかった ■少し魅力を感じた ■とても魅力を感じた

図4-22 学部AP認知・理解と早稲田大学志望への「学び・研究に関する魅力」との関係①



■まったく魅力に感じなかった ■あまり魅力に感じなかった ■少し魅力を感じた ■とても魅力を感じた

図4-23 学部AP認知・理解と早稲田大学志望への「学び・研究に関する魅力」との関係②

③ 早稲田大学を志望するうえでの「進路・学生生活・イメージに関する魅力」との関係

図4-24及び図4-25は、大学AP認知・理解と、早稲田大学志望への「進路・学生生活・イメージに関する魅力」との関係である。図4-26及び図4-27は、学部AP認知・理解と、早稲田大学志望への「進路・学生生活・イメージに関する魅力」との関係である。

質問文は「あなたは「進路・学生生活・イメージに関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください」である。

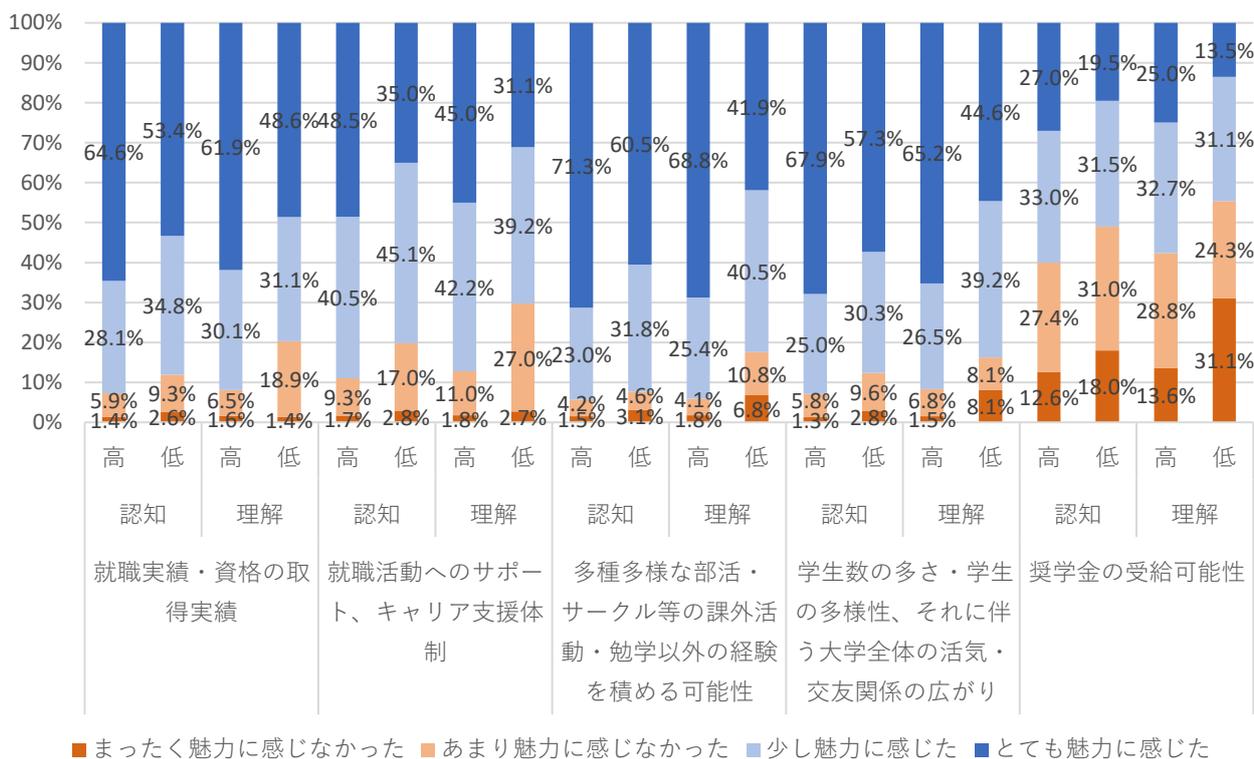


図4-24 大学AP認知・理解と早稲田大学志望への「進路・学生生活・イメージに関する魅力」との関係①

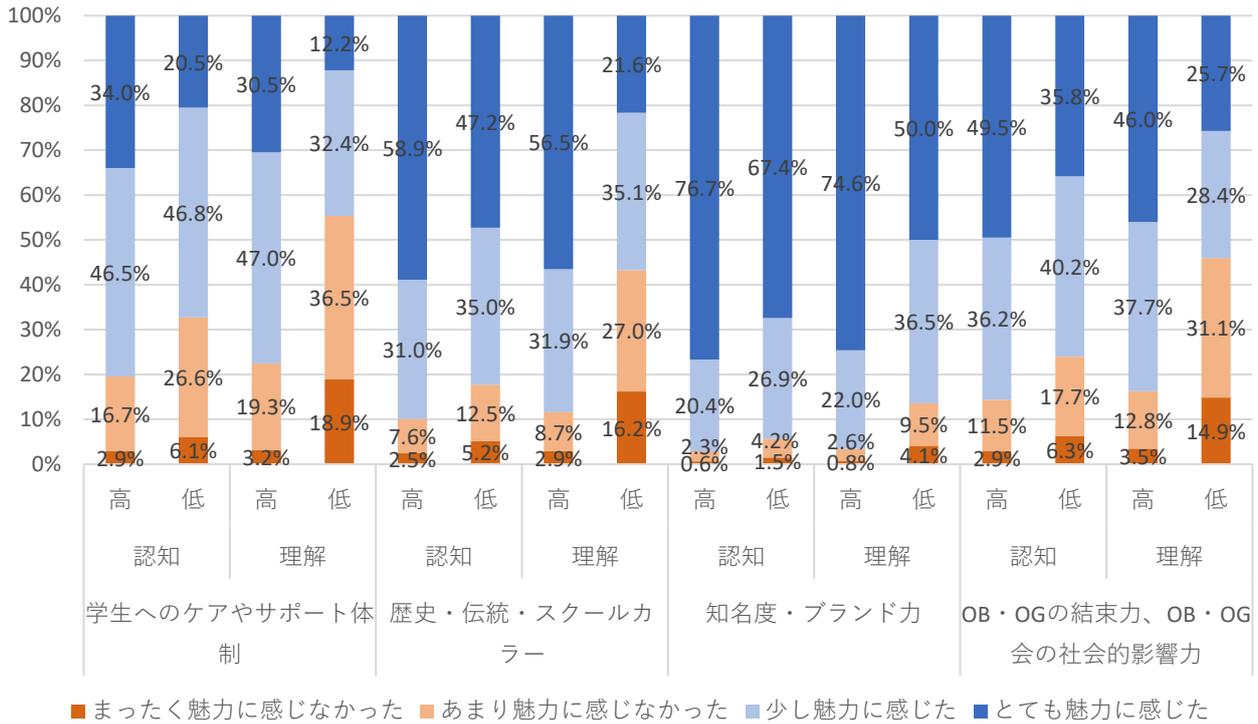


図4-25 大学AP認知・理解と早稲田大学志望への「進路・学生生活・イメージに関する魅力」との関係②

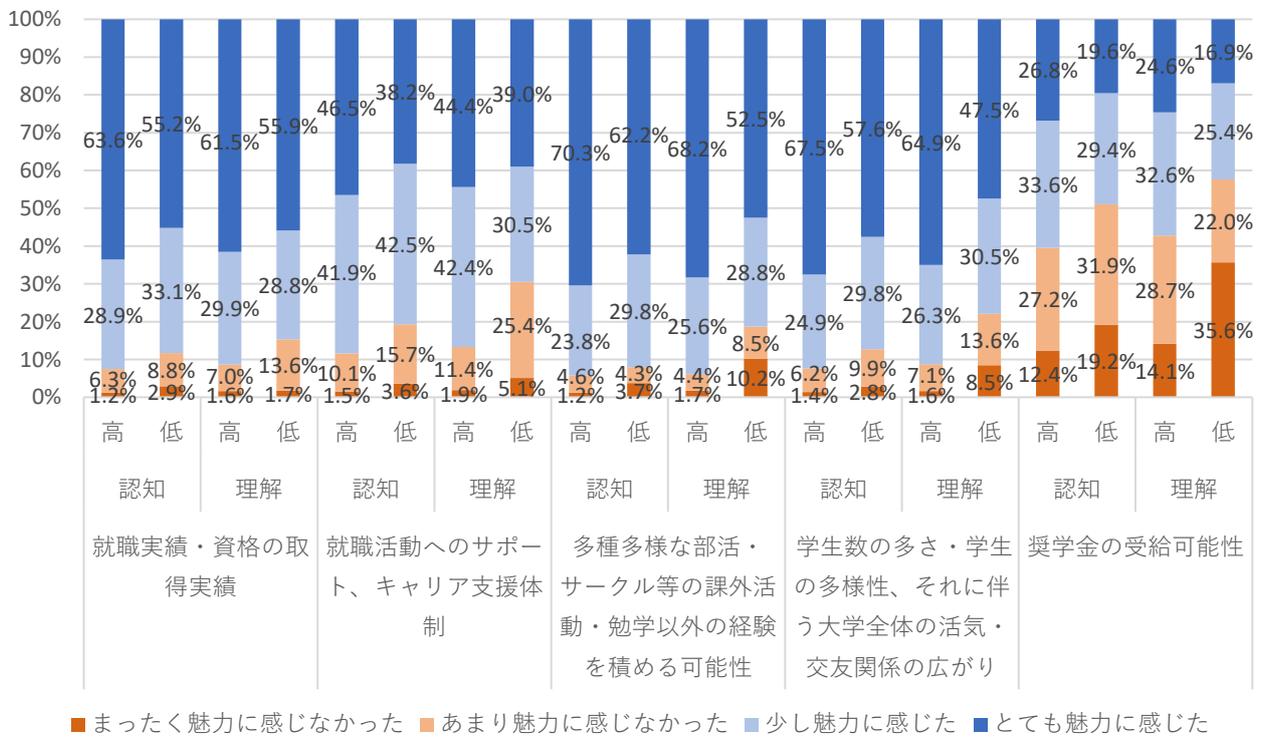


図4-26 学部AP認知・理解と早稲田大学志望への「進路・学生生活・イメージに関する魅力」との関係①

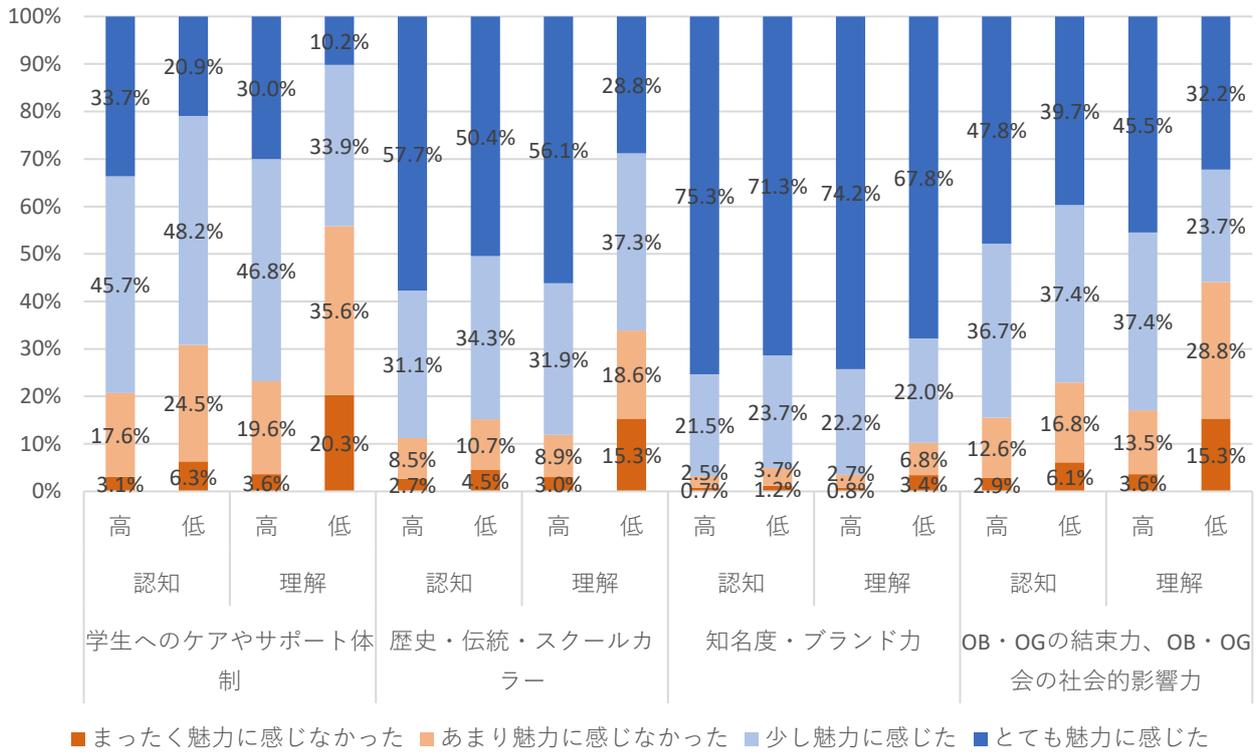


図4-27 学部AP認知・理解と早稲田大学志望への「進路・学生生活・イメージに関する魅力」との関係②

④ 高校時代の学習態度・学習時間との関わり

図4-28及び図4-29は、大学及び学部のAP認知・理解と、高校時代の学習態度との関係である。質問文は「あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください」である。

図4-30及び図4-31は、大学及び学部のAP認知・理解と、高校時代の学習時間との関係である。質問文は「あなたが「高校2年生の2学期」の頃、1日当たり学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか、「平日(ふだん)」と「定期試験期間中」についてお答えください。塾・予備校での学習時間も含めます。それぞれあてはまるものを選択してください」である。

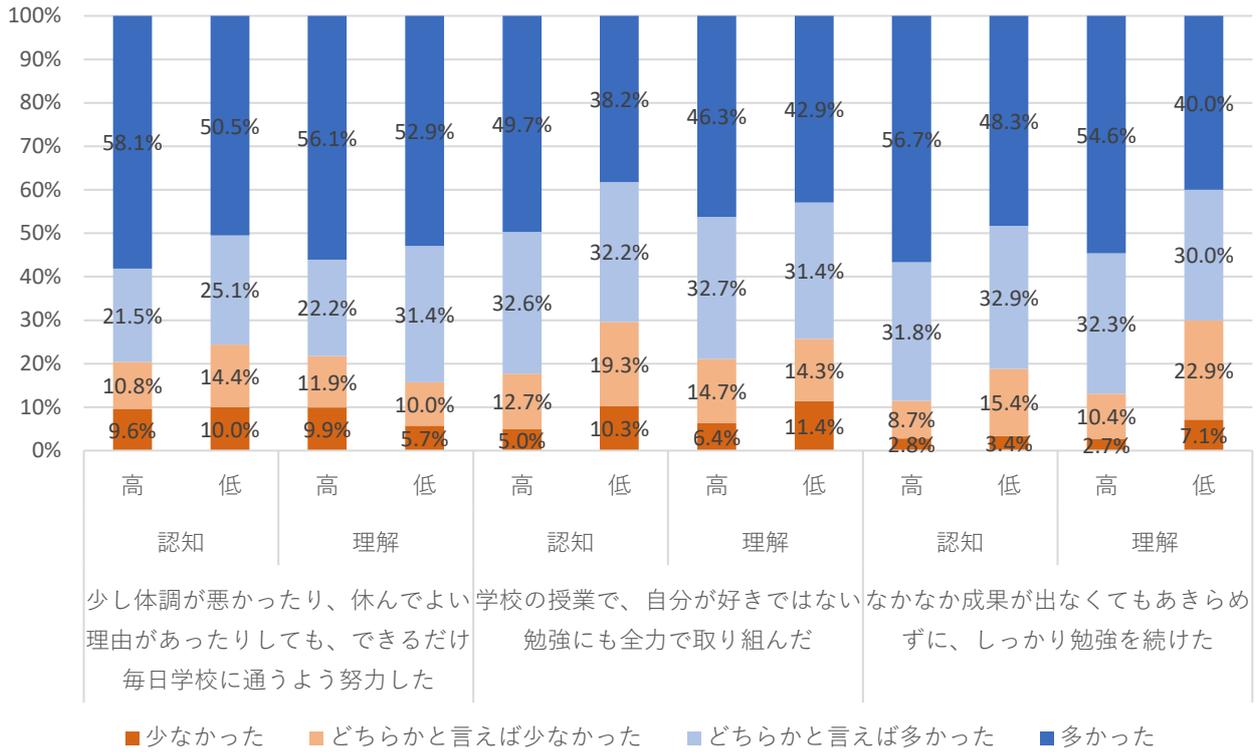


図4-28 大学AP認知・理解と高校時代の学習態度との関係

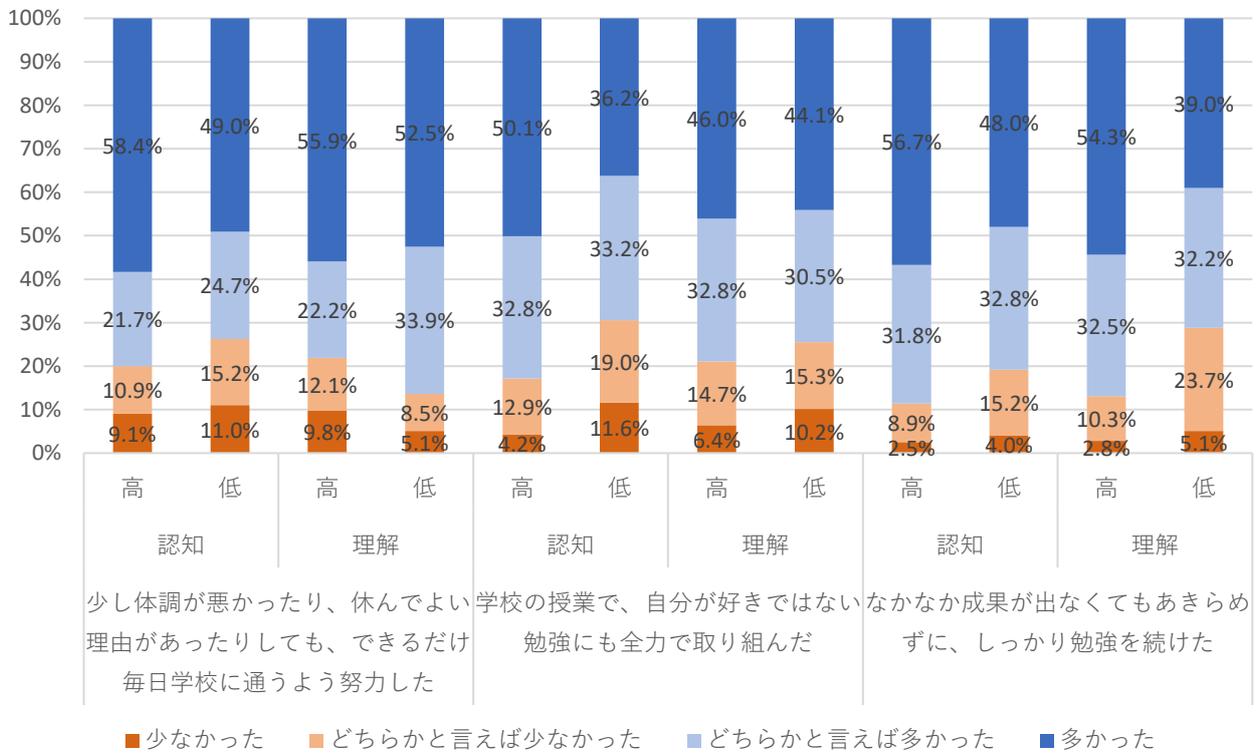


図4-29 学部AP認知・理解と高校時代の学習態度との関係

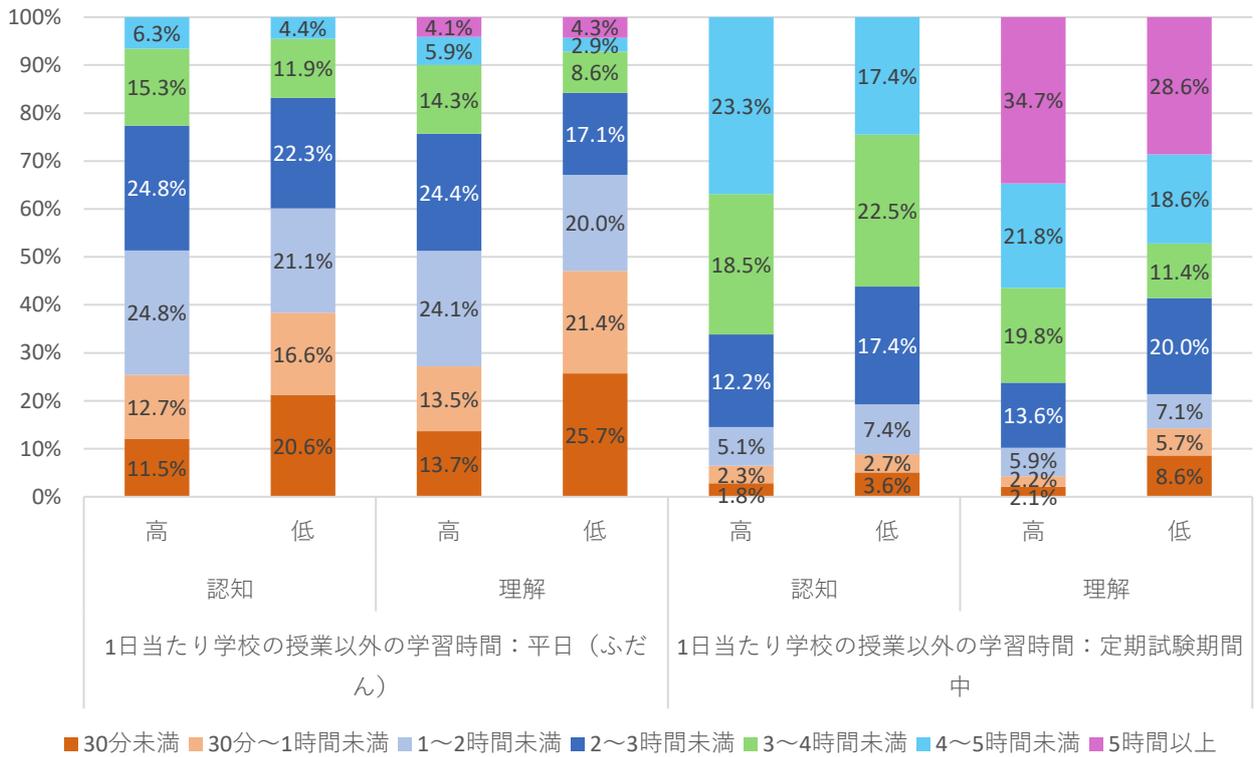


図4-30 大学AP認知・理解と高校時代の学習時間との関係

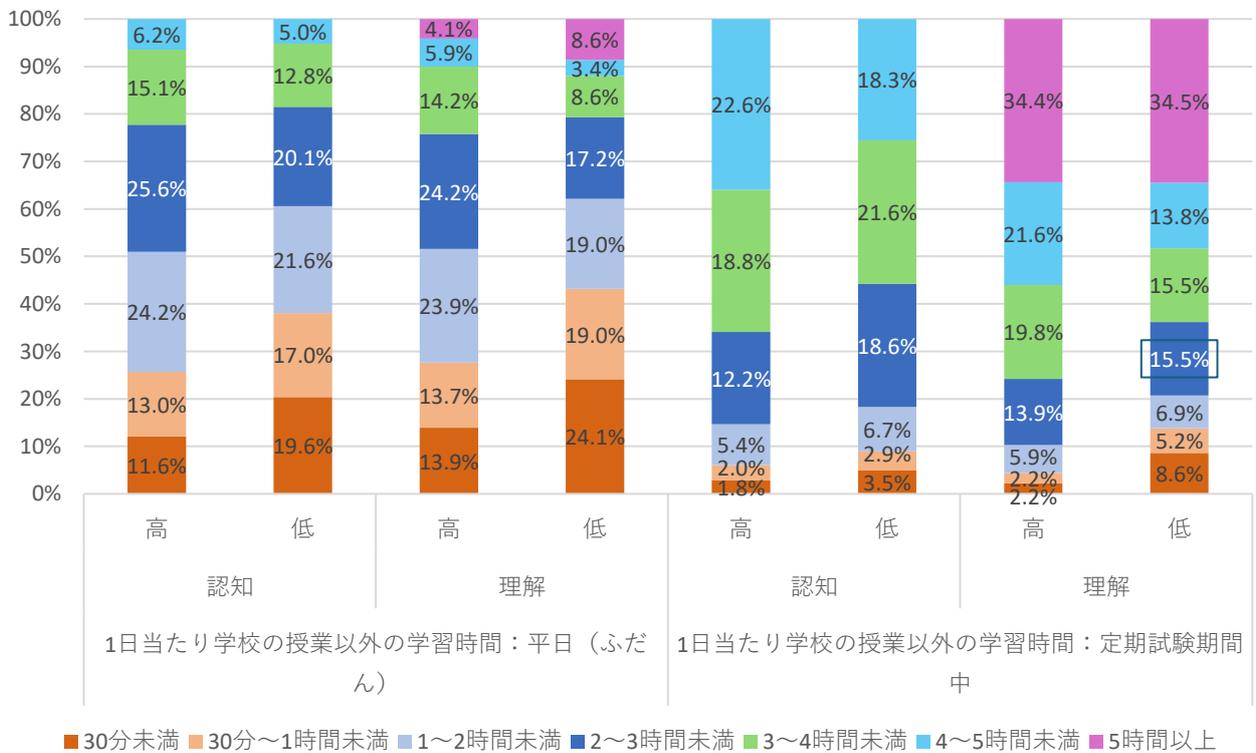


図4-31 学部AP認知・理解と高校時代の学習時間との関係

⑤ 高校時代の学習行動・経験との関わり

図4-32・図4-33・図4-34は、大学のAP認知・理解と、高校時代の学習行動・経験との関係である。図4-35・図4-36・図4-37は、学部のAP認知・理解と、高校時代の学習行動・経験との関係である。

質問文は「あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか(それぞれあてはまるものを選択)」、「あなたの高校時代について、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください」、「あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください」、「あなたの高校時代について、次のことはどれほどありましたか。それぞれあてはまるものを選択してください」である。

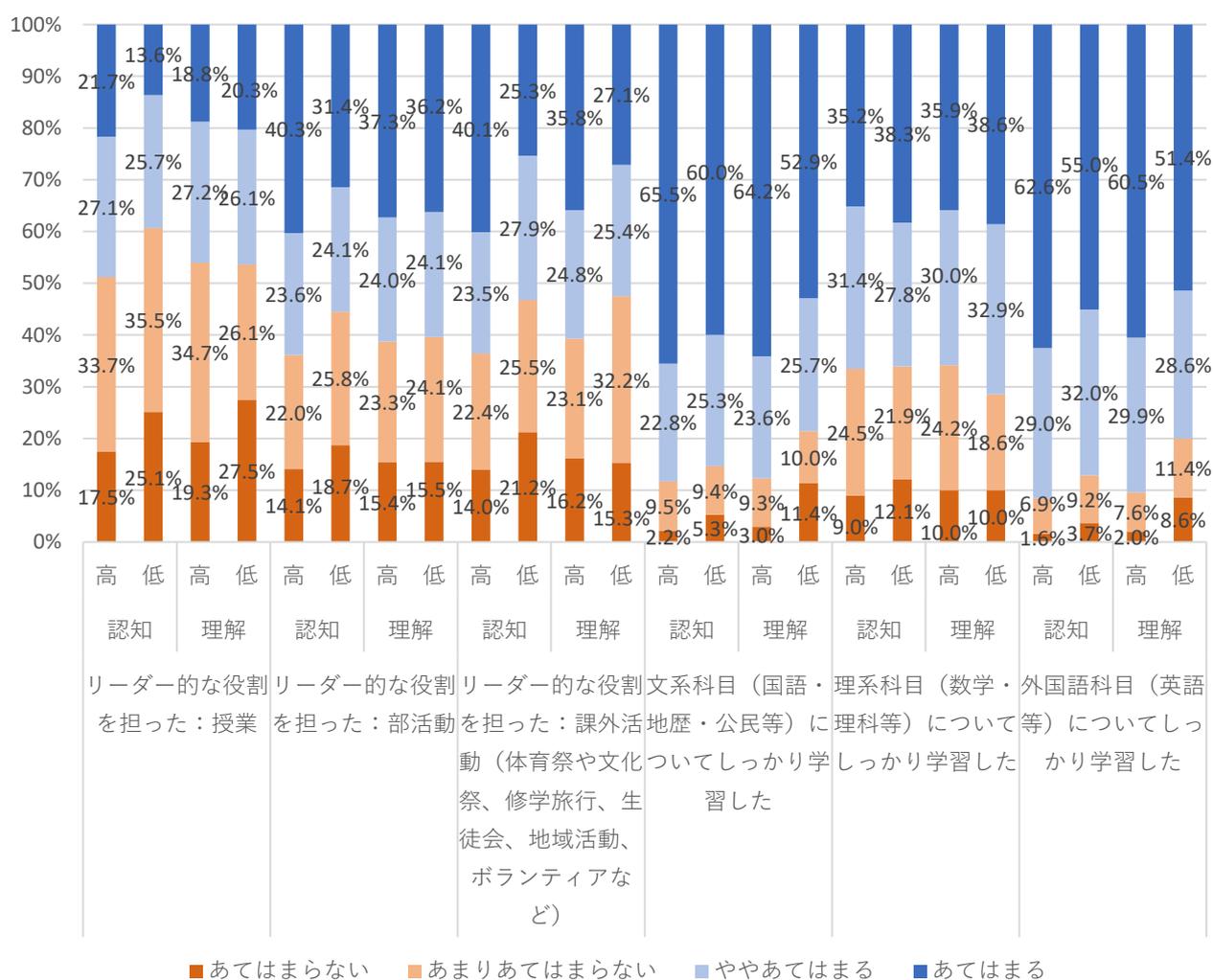


図4-32 大学AP認知・理解と高校時代の学習行動・経験との関係①

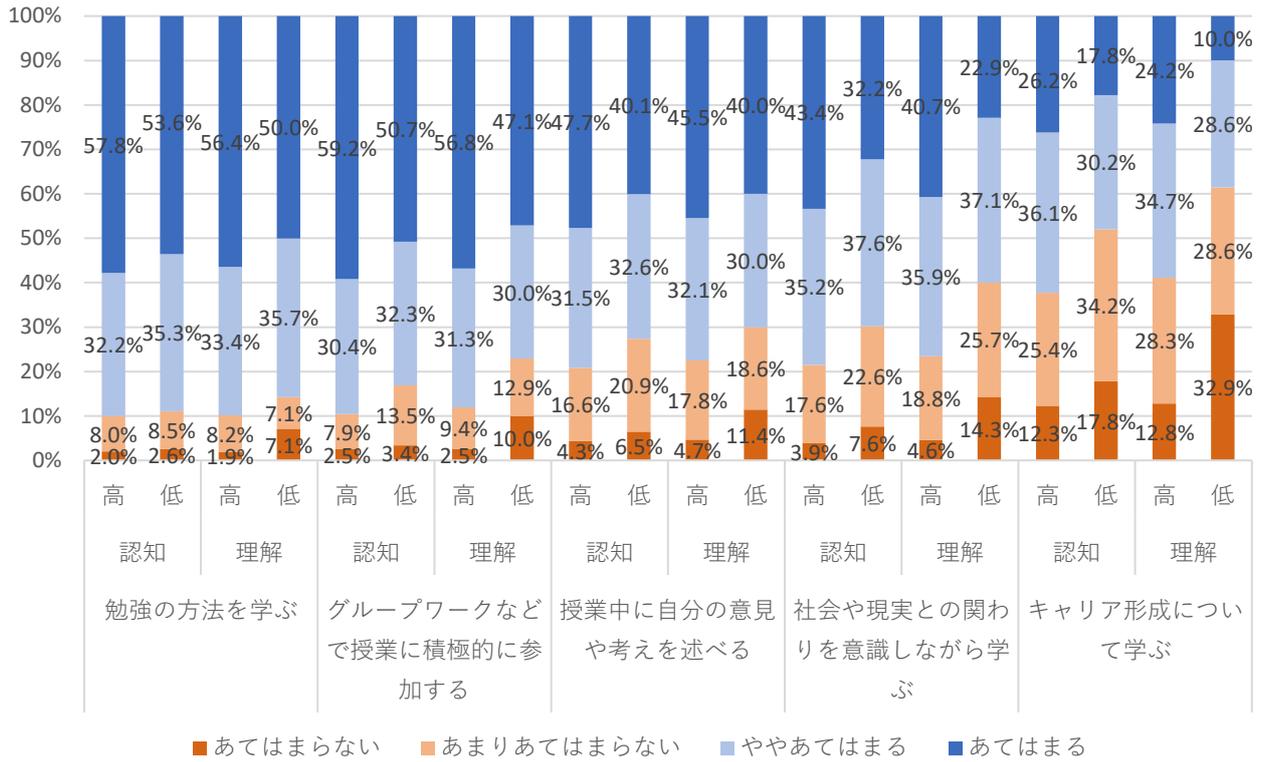


図4-33 大学AP認知・理解と高校時代の学習行動・経験との関係②

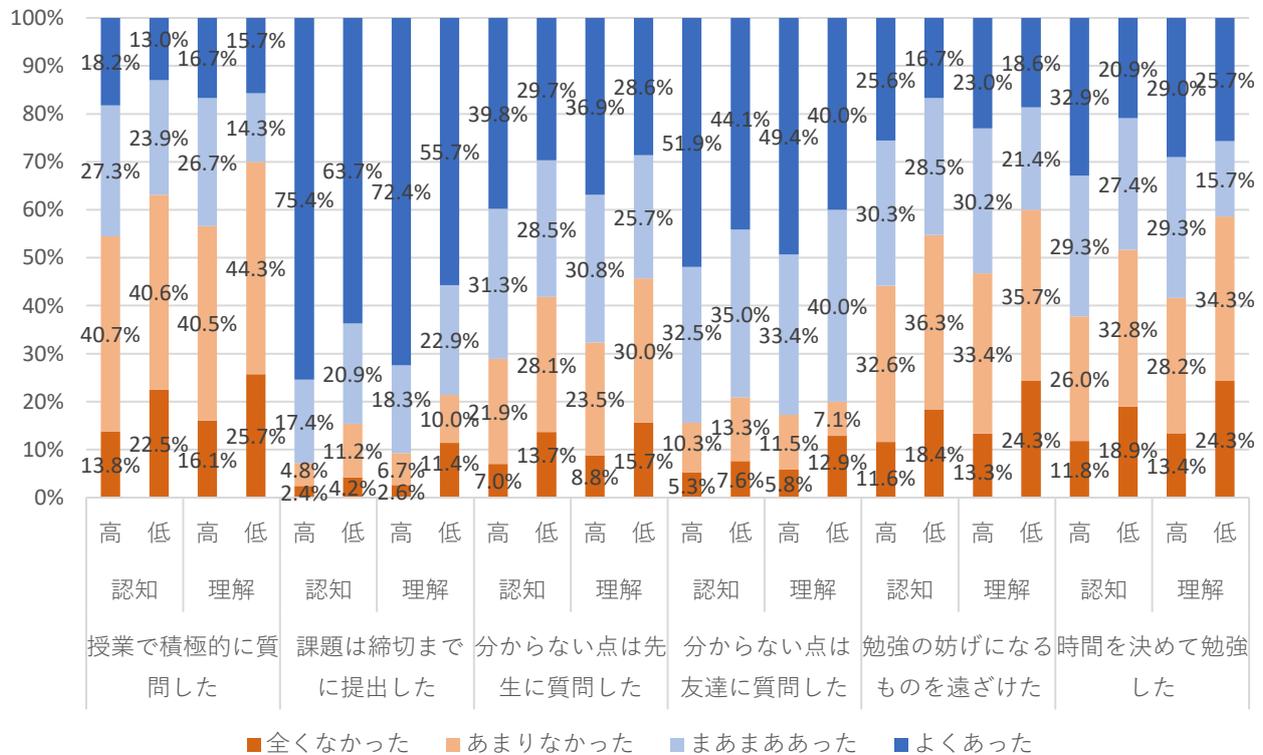


図4-34 大学AP認知・理解と高校時代の学習行動・経験との関係③

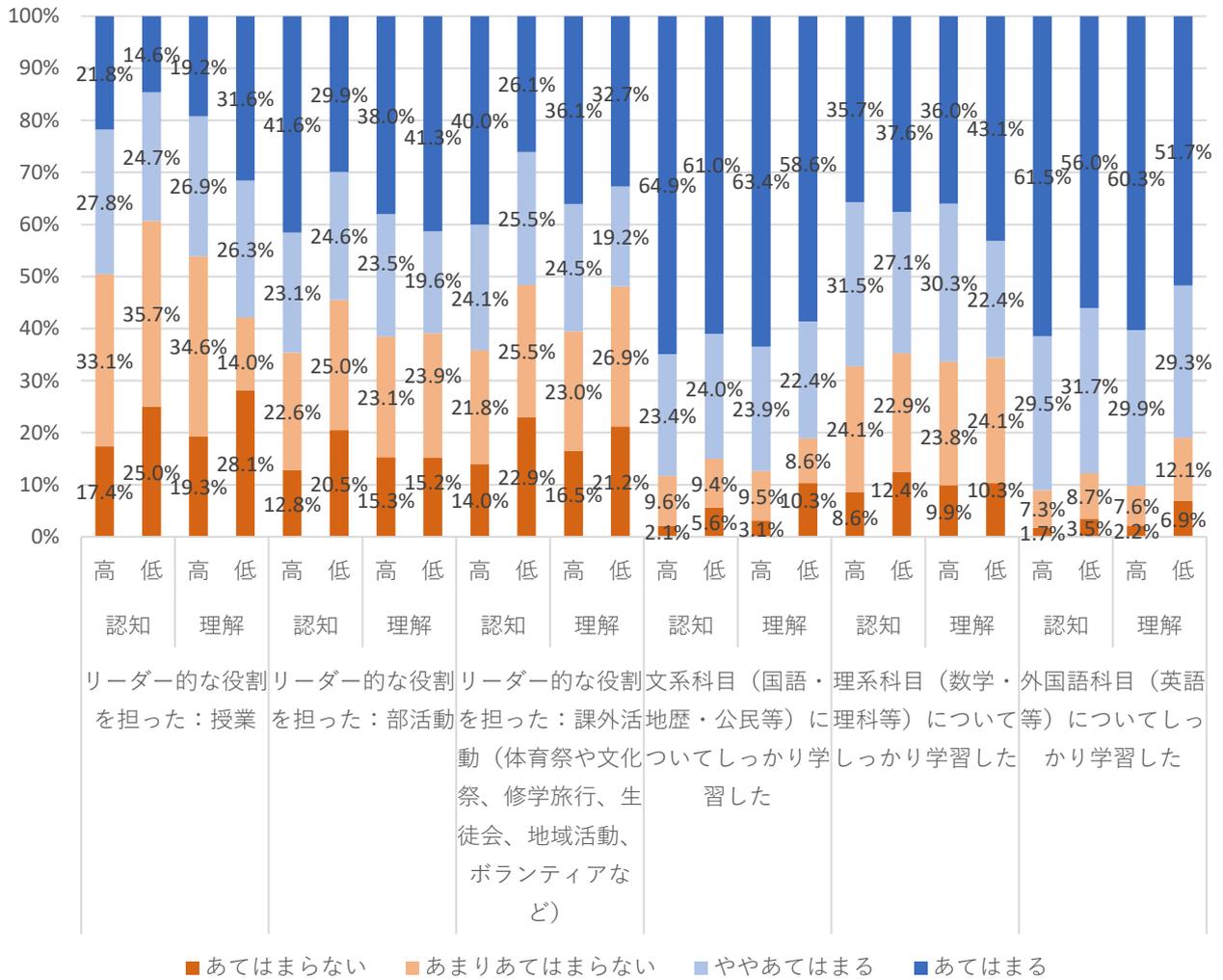


図4-35 学部AP認知・理解と高校時代の学習行動・経験との関係①

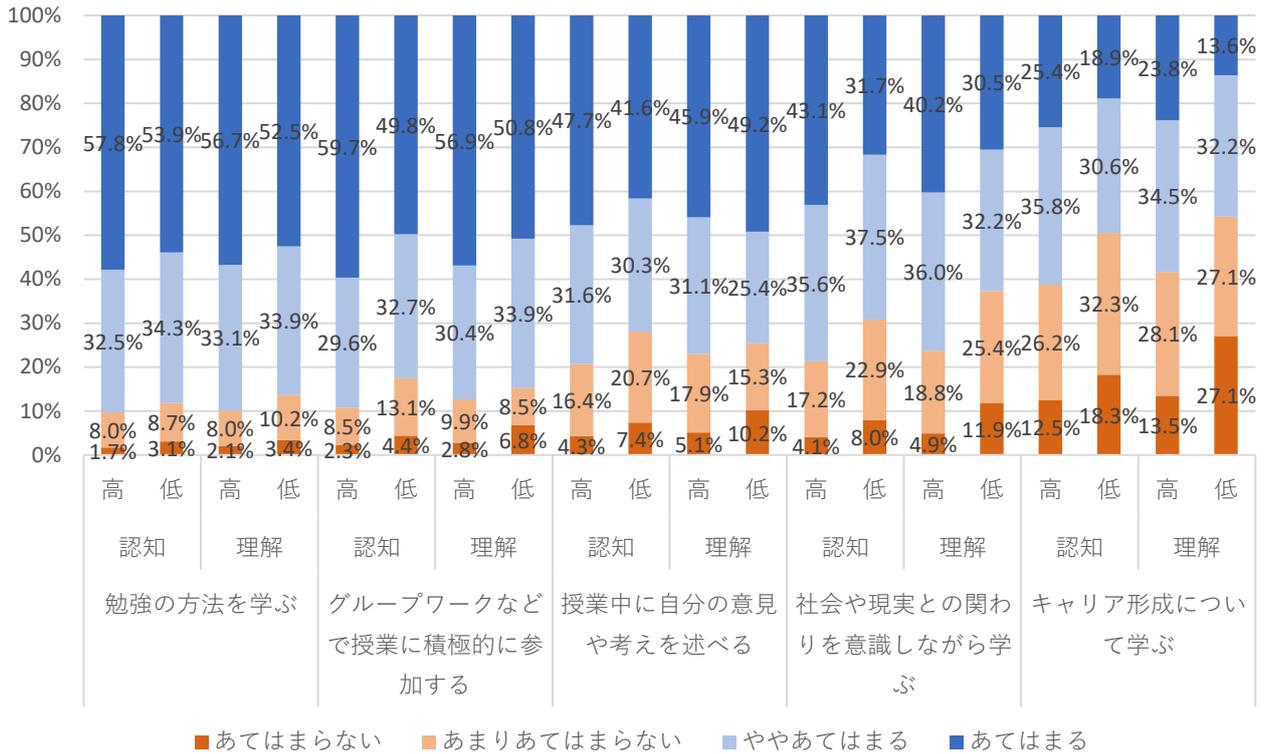


図4-36 学部AP認知・理解と高校時代の学習行動・経験との関係②

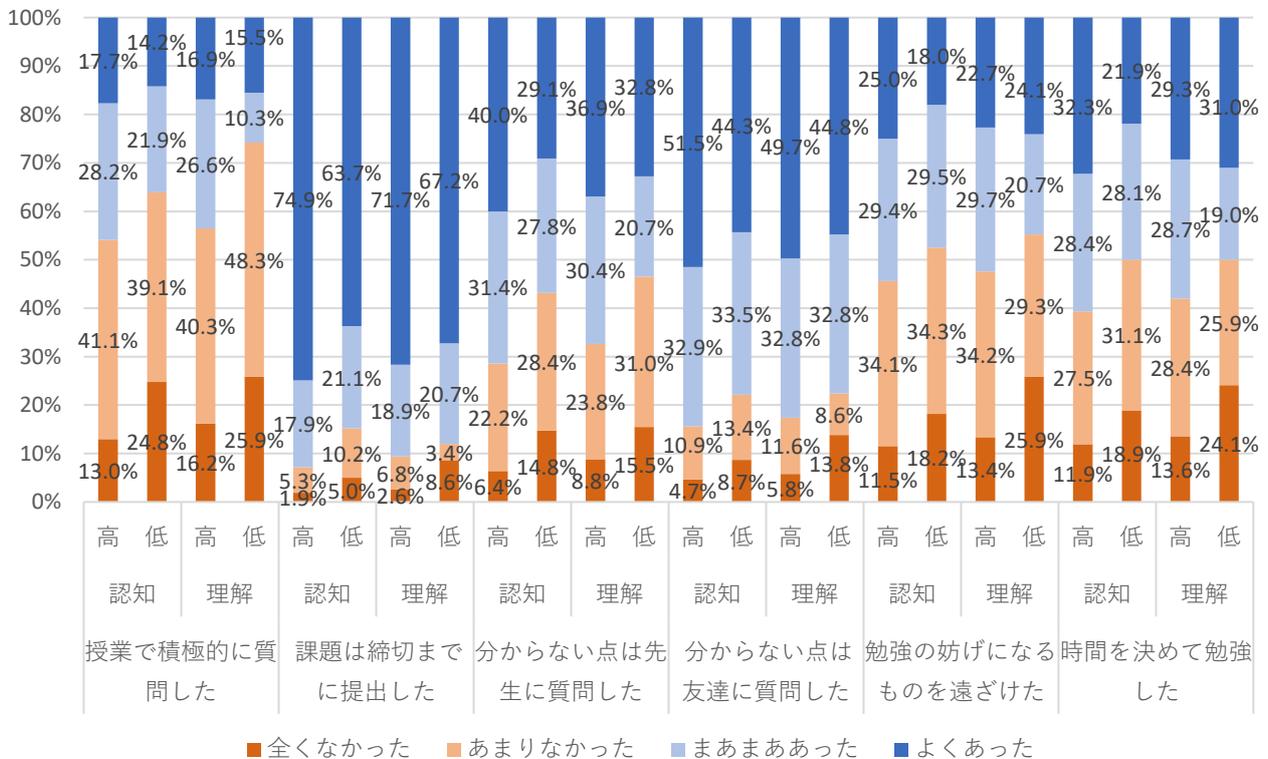


図4-37 学部AP認知・理解と高校時代の学習行動・経験との関係③

⑥ 中学・高校時代の成績との関わり

図4-38及び図4-39は、大学AP認知・理解と中学・高校時代の成績との関係である。質問文は「あなたの校内成績についてお尋ねします。通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれくらいでしたか。学部生の方は中学3年生の時と高校3年生の時それぞれについて、大学院生の方は学部時代の成績について、全教科・科目トータルでみた場合の状況をお答えください。それぞれあてはまるものを選択してください」である。

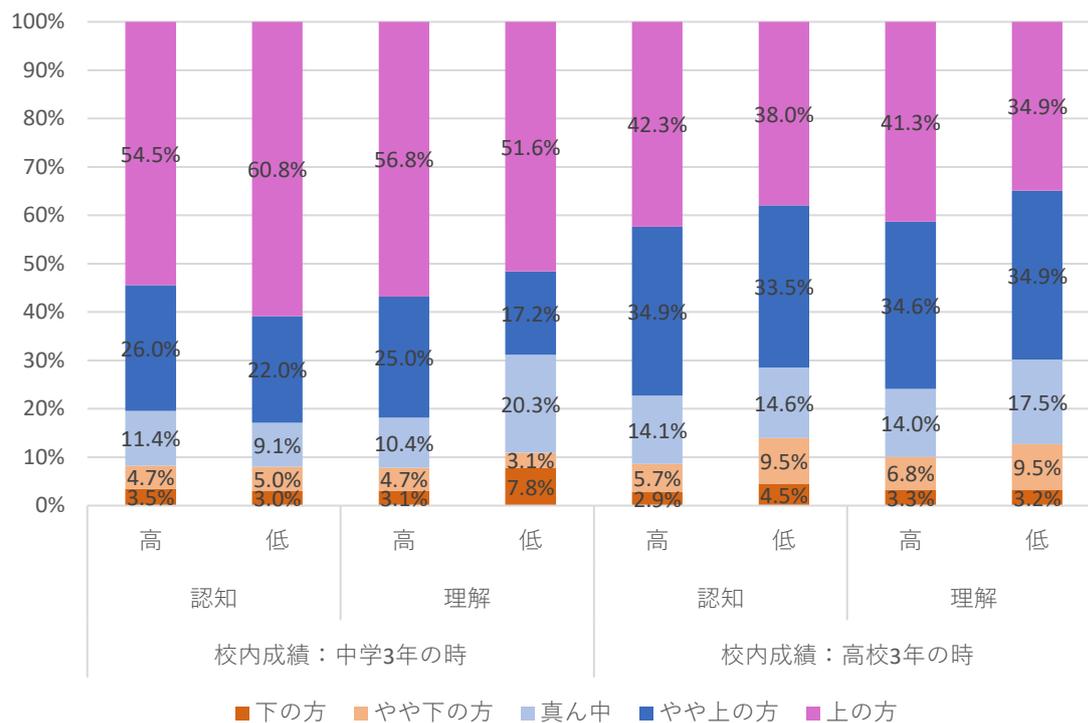


図4-38 大学AP認知・理解と中学・高校時代の成績との関係

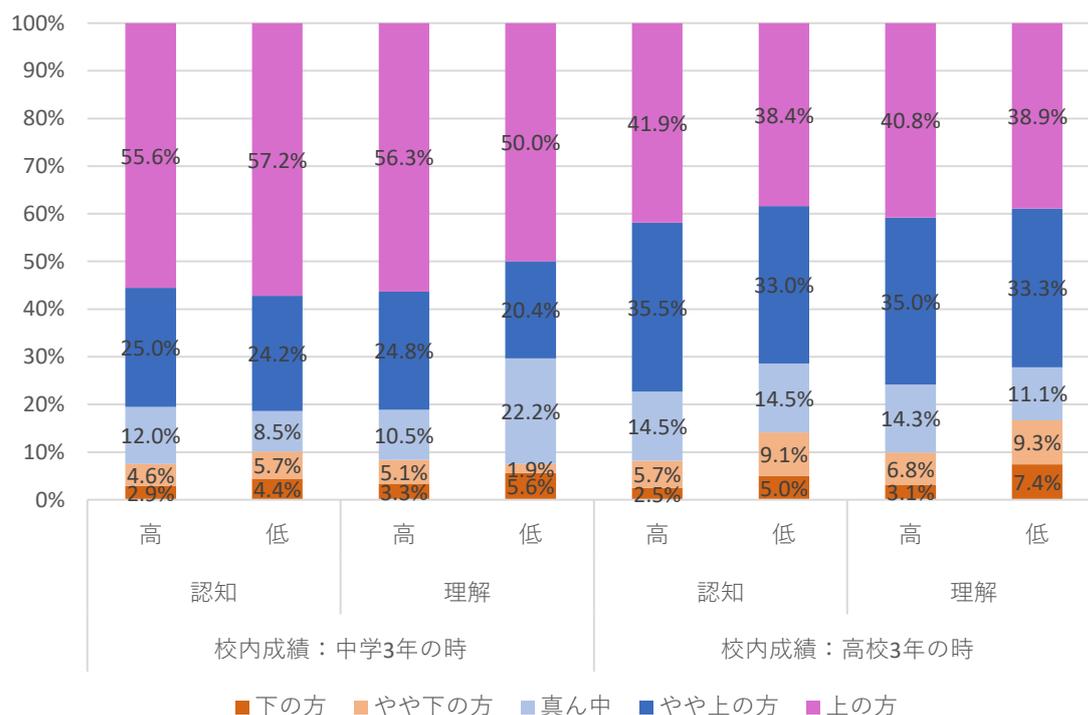


図4-39 学部AP認知・理解と中学・高校時代の成績との関係

4-4. まとめ

本章では、2025年度の学部入学者を対象として、本学のAP（アドミッション・ポリシー）の認知および理解（共感）の傾向と、諸項目との関連を報告した。AP認知の分析対象は、調査全体のデータ（ $n = 5533$ ）から、社会人学生、留学生、大学院生を除外した $n = 3446$ であり、AP理解の分析対象は、そこから大学及び学部のAP認知で「APというものを知らない」と回答した者を除外した $n = 3128$ であった。

第1節（4-1）では、AP認知・AP理解（共感）の全体の傾向、学部・入試区分ごとのAP認知・AP理解、入試方式別のAP認知・AP理解・AP資質について報告した。第2節（4-2）では、AP認知・AP理解（共感）と関連のある項目を探るために、相関係数（Spearmanの ρ 、以降： r_s ）を算出し、大学または学部のAP認知・理解の、いずれかの相関係数（ r_s ）が.20以上だった項目について報告した。第3節（4-3）では、AP認知・AP理解（共感）と諸項目との関連をまとめるために、第3節で大学及び学部のAP認知・AP理解と強い関連がみられた項目と、検討に値する項目について、関連の詳細をグラフ化して報告した。ここでは、AP認知・AP理解と、DP関連資質・能力との関わり、早稲田大学の志望要因との関わり、高校時代の学習態度・学習時間、学習行動・経験との関わり、中学・高校時代の成績との関わりについて報告した。

大学のAPそのものは、2021年から2025年の4年間で認知度は少しずつ向上していた。学部別でみると、出願時にAPに関する記述を課している学部（人間科学部通信教育課程）では、APの認知が特に高かった。APの理解（共感）は全体的に高い傾向であったが、高校時代の学習経験などの諸項目との関連をみると、AP認知だけでなくAP理解と関連する項目も多くあった。

集計データ

I. 調査概要

- ◆ 調査方法：メール配信を通じた「Qualtrics」を用いたオンライン調査
- ◆ 調査時期：2025年4月7日～5月16日
- ◆ 調査対象者：2025年度4月および2024年度9月の学部・大学院入学者 12,974名
- ◆ 回収状況：5,533件（回収率：42.6%）
- ◆ 調査結果引用に関するお願い

本調査結果を引用される際には、下記の出典を明記くださいますようお願いいたします。

著者：早稲田大学大学総合研究センター

タイトル：2025年度 早稲田大学新入生調査報告書

II. 調査項目一覧

1. 基本情報

- Q01. 早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。
- Q02. あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミSSION・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミSSION・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミSSION・ポリシー」それぞれについてお答えください。
- Q03. 「大学（大学院）のアドミSSION・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミSSION・ポリシー」の内容について、共感できるかどうか、それぞれあてはまるものを選択してください。
- Q04. あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。
- Q05. あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。
- Q06. 現時点で、あなたが学部生であれば学部卒業後、大学院生であれば大学院修了後の進路としてどのようなものを考えていますか。
- Q07. 具体的にどのような就職先を考えていますか。
- Q08. 具体的にどのような進学先を考えていますか。
- Q09. あなたは現時点で、学部・大学院在学中の海外留学を希望していますか。
- Q10. 海外留学を希望しない理由は何ですか。

2. 早稲田大学に入学するにあたって

- Q11. あなたは「学び・研究に関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？
- Q12. あなたは「進路・学生生活・イメージに関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？
- Q13. 早稲田大学・大学院の現在籍学部・研究科への出願を決定したのはいつ頃ですか？
- Q14. 出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた人について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。
- Q15. 出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた情報源について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。
- Q16. 出願の決定に際して「影響を受けた人・情報源」として選択した回答について、影響の度合いが大きいものに関して、あなたの進路選択に具体的にどのように影響しましたか？
- Q17. あなたが大学に進学する上で、最終的に早稲田大学を選んだ理由は何ですか。
- Q18. あなたが大学院に進学した理由は何ですか。
- Q19. あなたのご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるものをそれぞれ選択してください。
- Q20. あなたの現在の生計を維持している方について、あてはまるものをすべて選択してください。
- Q21. 前年（2024年1月～12月）の世帯収入（税込）について、もっともあてはまるものを選択してください。

3. 入学前の学習・生活習慣について

- Q22. 大学・大学院入学前の在学状況等について、次のどれにあてはまりますか。
- Q23. 大学・大学院入学前の在学状況等について、次のどれにあてはまりますか。（その2）
- Q24. あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。
- Q25. あなたが「高校2年生の2学期」の頃、1日当たり学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか、「平日（ふだん）」と「定期試験期間中」についてお答えください。塾・予備校での学習時間も含めます。
- Q26. （既に社会人経験のある方のみお答えください）あなたの大学（大学院）入学前の社会人経験の中で、下記のことはどれくらいあてはまりますか。
- Q27. あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。
- Q28. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動に参加していましたか。
- Q29. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか。
- Q30. あなたの高校時代について、次のことはどの程度あてはまりますか。
- Q31. あなたの校内成績についてお尋ねします。通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれくらいでしたか。学部生の方は中学3年生の時と高校3年生の時それぞれについて、大学院生の方は学部時代の成績について、全教科・科目トータルでみた場合の状況をお答えください。
- Q32. あなたの高校時代について、次のことはどれほどありましたか。
- Q33. 大学・大学院入学以前の海外経験についてお答えください。

Q34. 大学・大学院入学前の生活全般（高校生活、または社会人経験をお持ちの方はこれまでの生活）について、10点満点で満足度得点を付けるとすれば、何点になりますか。

Q35. あなたが早稲田大学・大学院に期待することについて、自由にお書きください。（自由記述）

Q36. あなたがこれから早稲田大学・大学院で学習・研究等を進めるにあたって、不安に感じている点がありましたら、自由にお書きください。（自由記述）

注1：グレー部分の自由記述設問の記載は省略した。

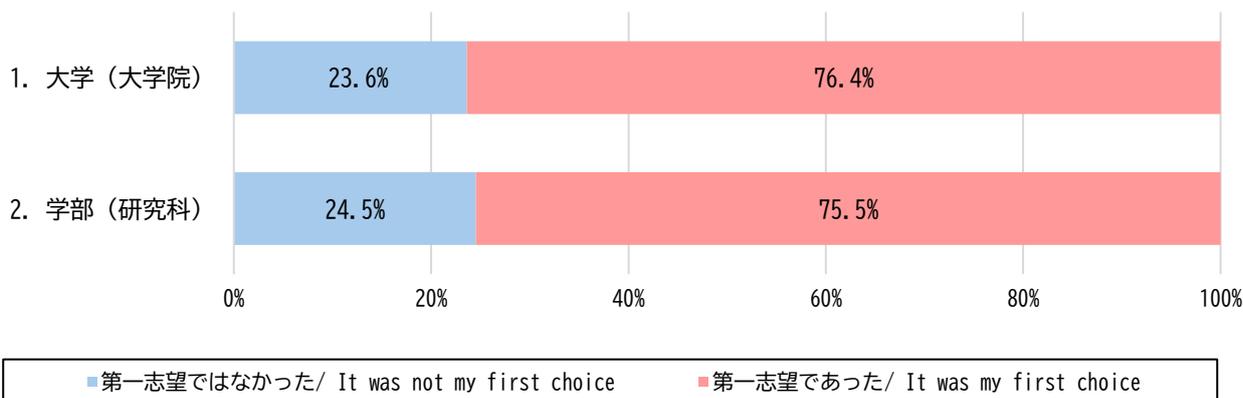
注2：「集計データ」のQ番号は、この資料のために付加した番号である。

Ⅲ. 調査データ 〈グラフ〉

1. 基本情報

Q01. 早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。

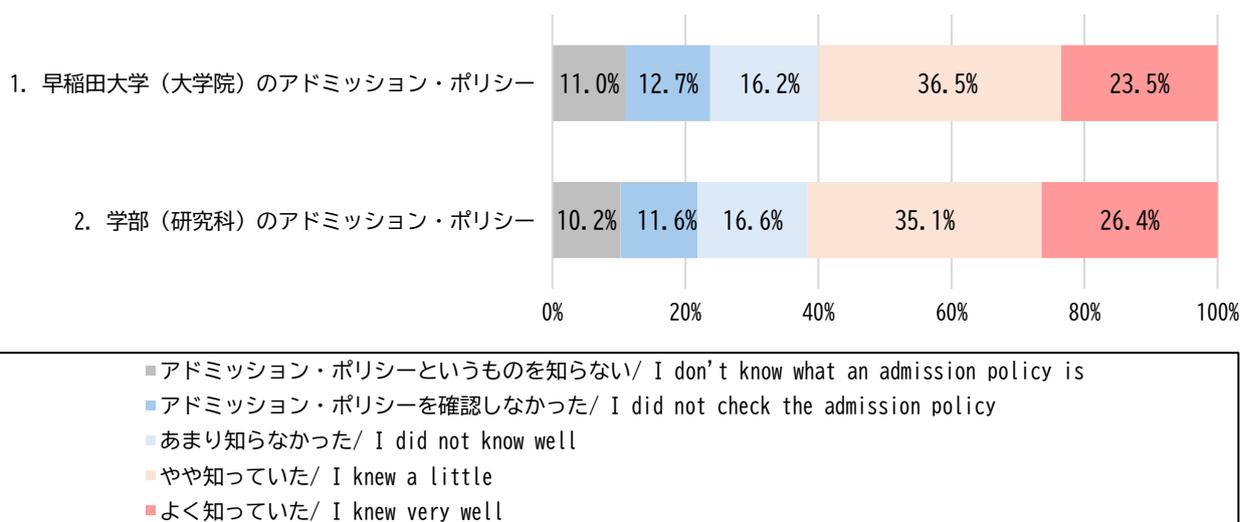
Was Waseda University and your current school (for graduate students, graduate school) your first choice?



1. Waseda University (undergraduate and graduate). 2. Undergraduate (graduate) school.

Q02. あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください。

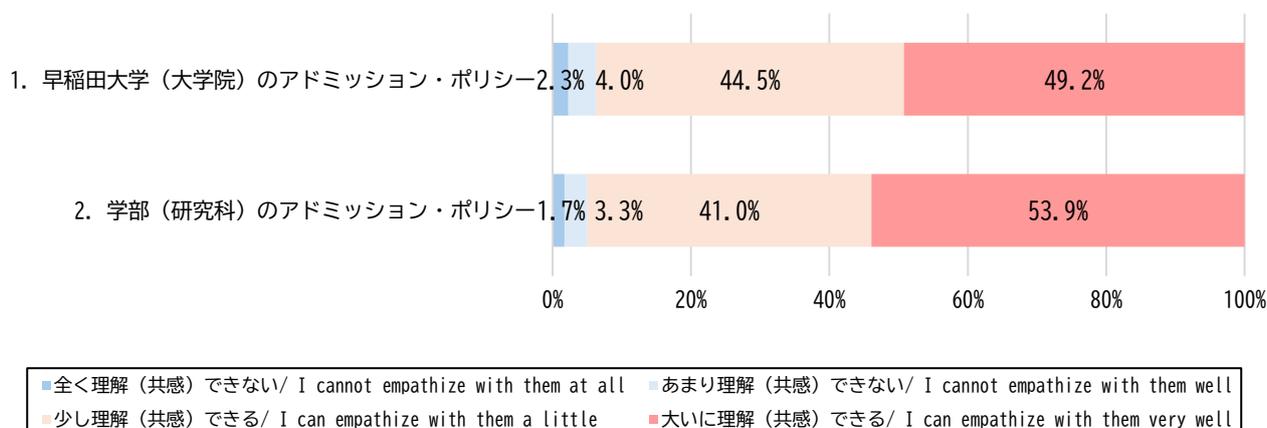
Before enrollment, did you check the admission policy of Waseda University? Please select the one that applies to "the admission policy of the university" and "the admission policy of the school (graduate school) you enrolled at".



1. Waseda University's (undergraduate and graduate) admission policy. 2. Undergraduate (graduate) admission policy.

Q03. 「大学（大学院）のアドミSSION・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミSSION・ポリシー」の内容について、共感できるかどうか、それぞれあてはまるものを選択してください。

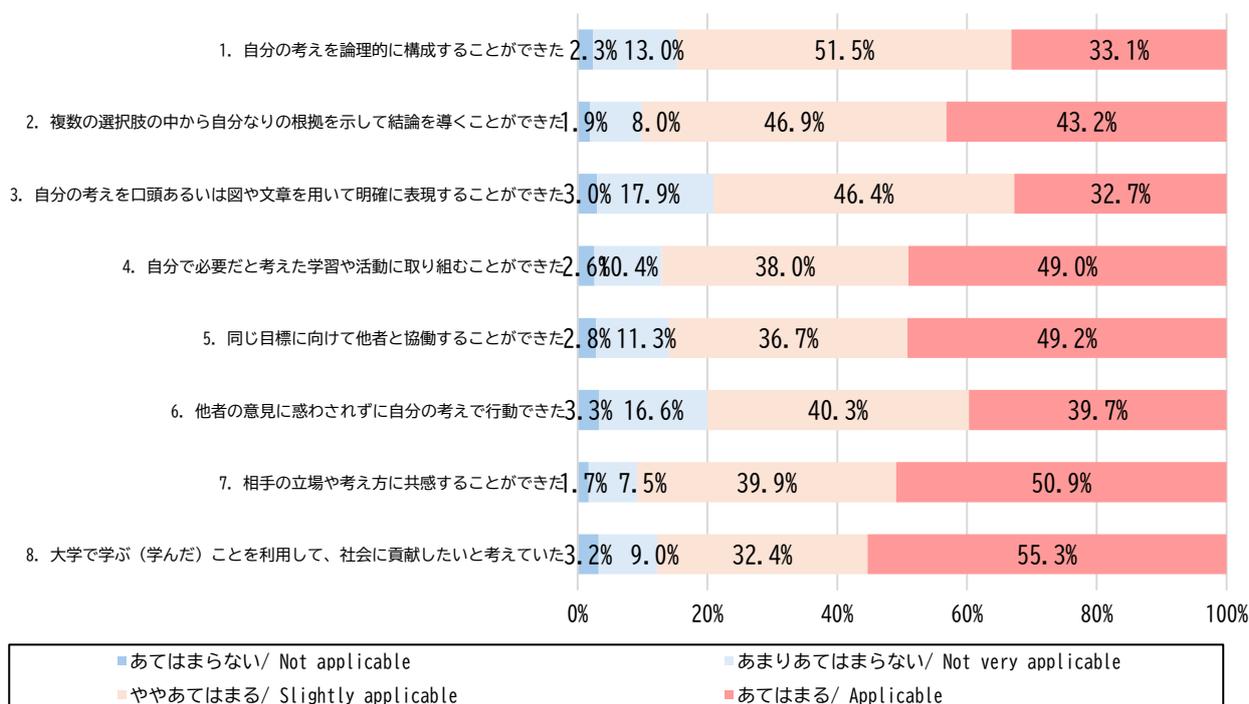
Regarding the contents of "the admission policy of the university" and "the admission policy of the school you enrolled at", to what extent do you empathize with them? Please select the one that most applies.



1. Waseda University's (undergraduate and graduate) admission policy. 2. Undergraduate (graduate) admission policy.

Q04. あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。

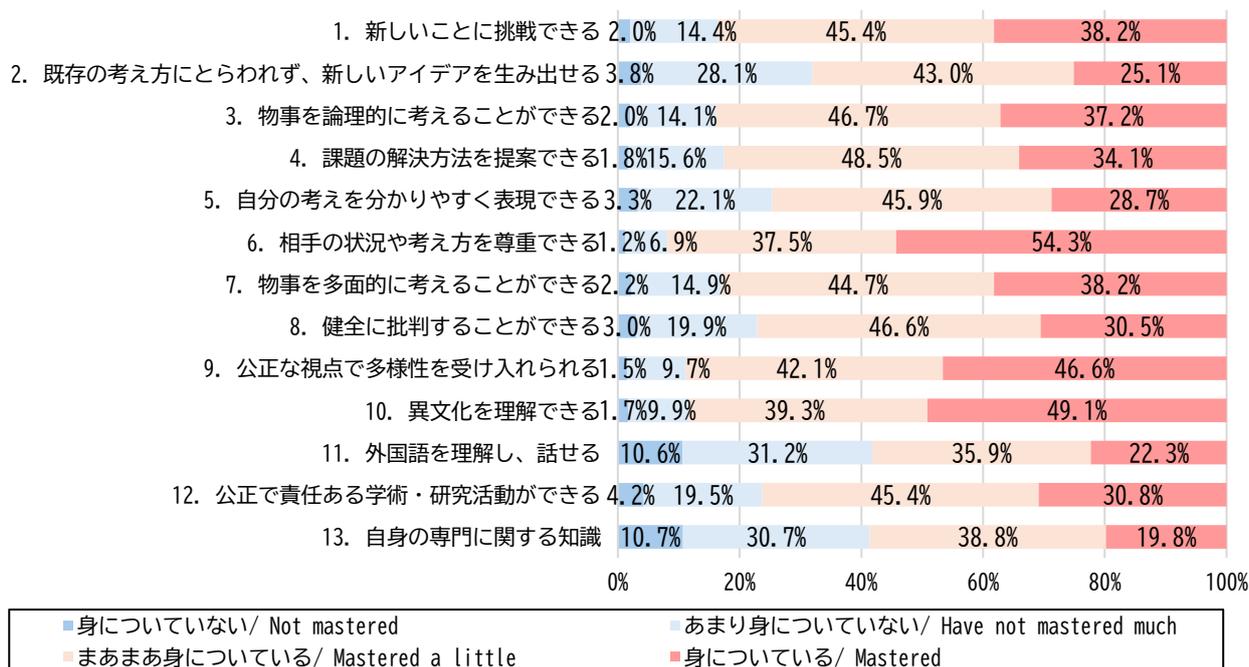
Reflecting on your behavior up till today, to what extent does each of the following apply to you?



1. I was able to structure my thoughts logically. 2. I was able to draw conclusions from multiple alternatives by presenting one's own rationale. 3. I was able to express one's thoughts clearly orally or in writing. 4. I was able to be engaged in learning and activities that one considered necessary. 5. I was able to collaborate with others toward the same goal. 6. I was able to act on my own ideas without being misled by the opinions of others. 7. I was able to empathize with others' perspectives and ideas. 8. I wanted to contribute to society by using what one learned at university.

Q05. あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。

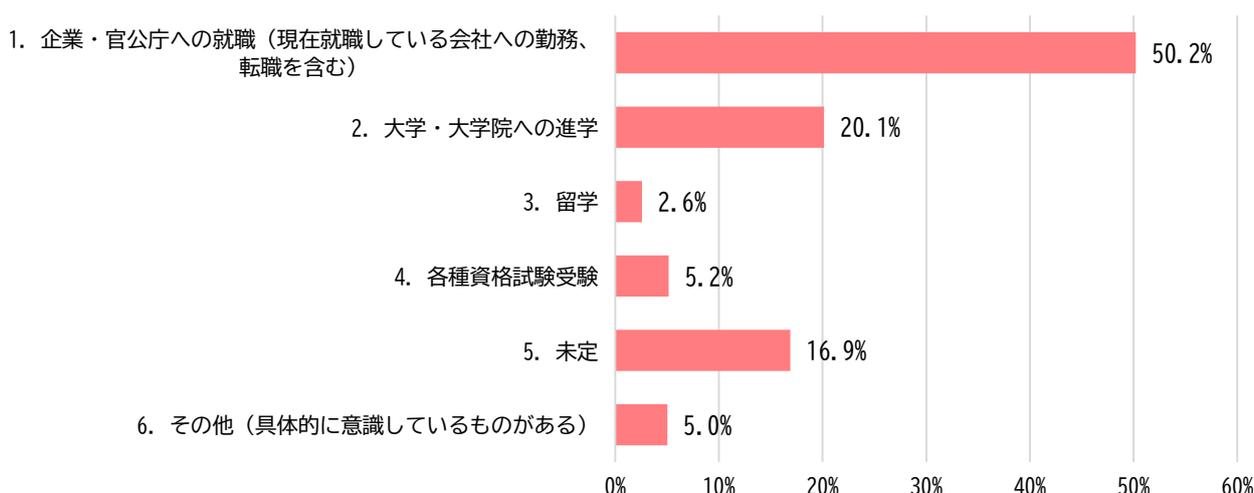
At the present moment, how well do you think you have acquired the following abilities or knowledge?



1. I am able to try new things. 2. I am not limited by existing ideas and able to generate new ideas. 3. I am able to think logically. 4. I am able to propose solutions to problems. 5. I am able to express one's thoughts clearly. 6. I am able to respect another person's situation and way of thinking. 7. I am able to think from multiple perspectives. 8. I am able to provide constructive criticism. 9. I am able to embrace diversity from a fair perspective. 10. I am able to understand different cultures. 11. I am able to understand and speak foreign languages. 12. I am able to conduct fair and responsible academic and research activities. 13. Knowledge of one's own specialty.

Q06. 現時点で、あなたが学部生であれば学部卒業後、大学院生であれば大学院修了後の進路としてどのようなものを考えていますか。

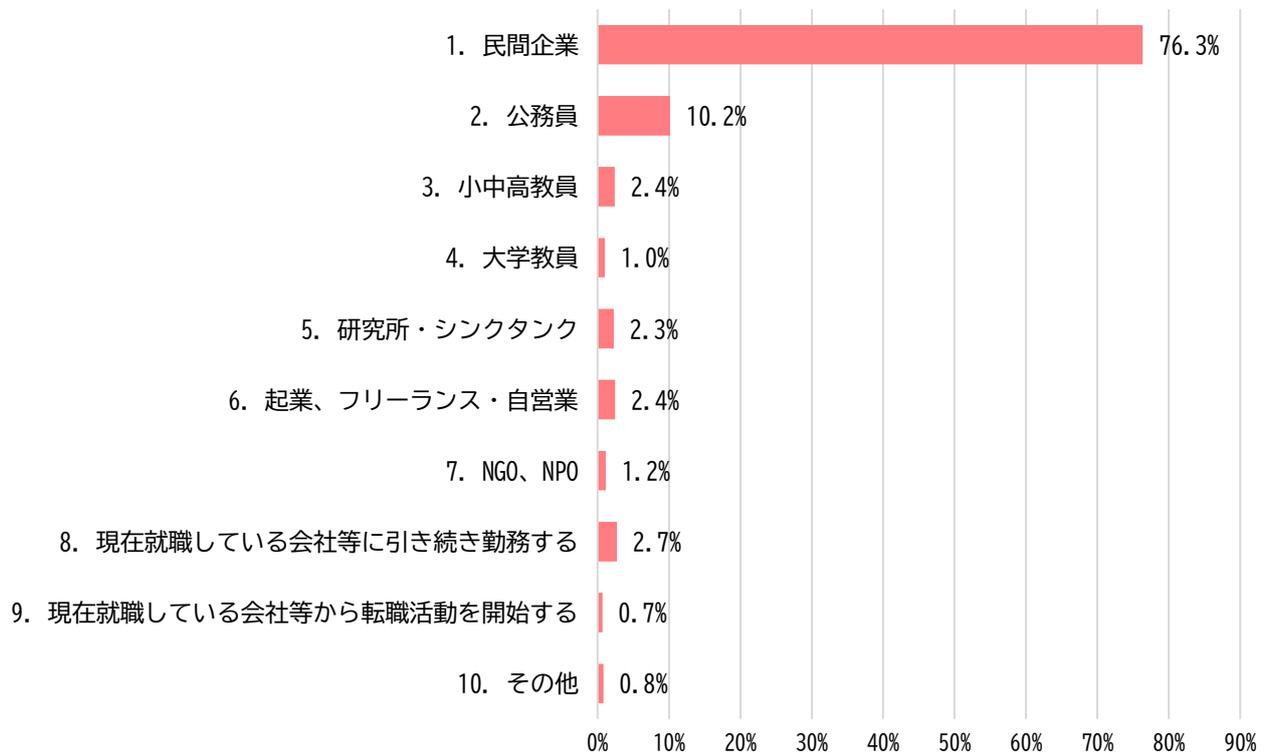
At the present moment, what career path are you considering after completing your undergraduate/graduate degree?



1. Employment in private sector business, public servant (including employment at your current job and job changes). 2. Enrolling at undergraduate/graduate school. 3. Study abroad. 4. Various qualification/license examinations. 5. Undecided. 6. Others (you have something specific in mind).

Q07. 具体的にどのような就職先を考えていますか。

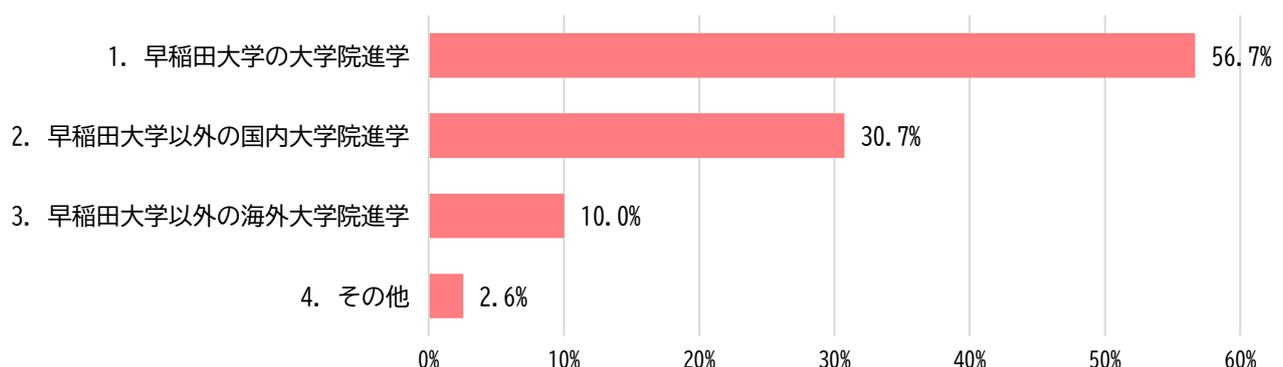
Please specify the employer you have in mind.



1. Private sector business. 2. Public servant. 3. Elementary, middle, and high school teacher. 4. University faculty member. 5. Research institute/think tank. 6. Entrepreneurship, freelance, self-employed. 7. NGO, NPO. 8. Continue working at current place of employment. 9. Start looking for employment other than where you are currently employed. 10. Others.

Q08. 具体的にどのような進学先を考えていますか。

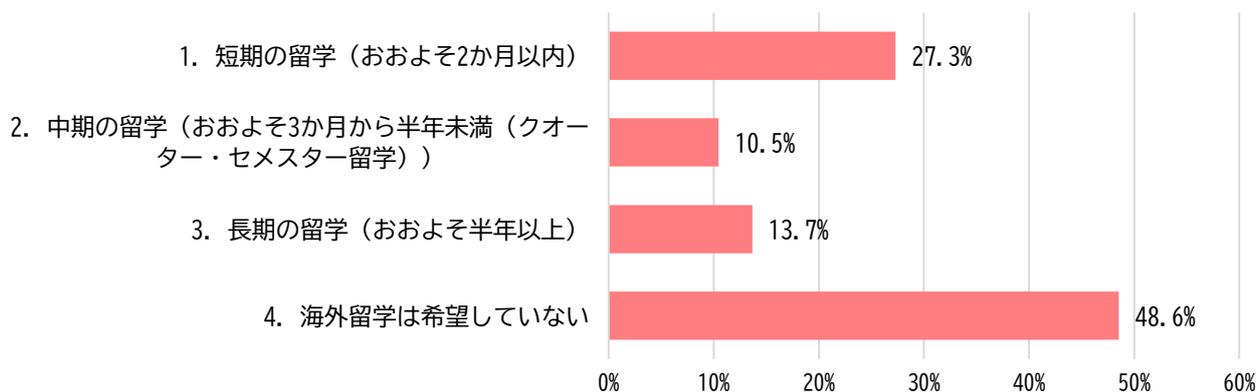
Please specify where you are thinking of enrolling.



1. Graduate school at Waseda University. 2. Domestic graduate school other than Waseda University. 3. Graduate school abroad other than Waseda University. 4. Others.

Q09. あなたは現時点で、学部・大学院在学中の海外留学を希望していますか。

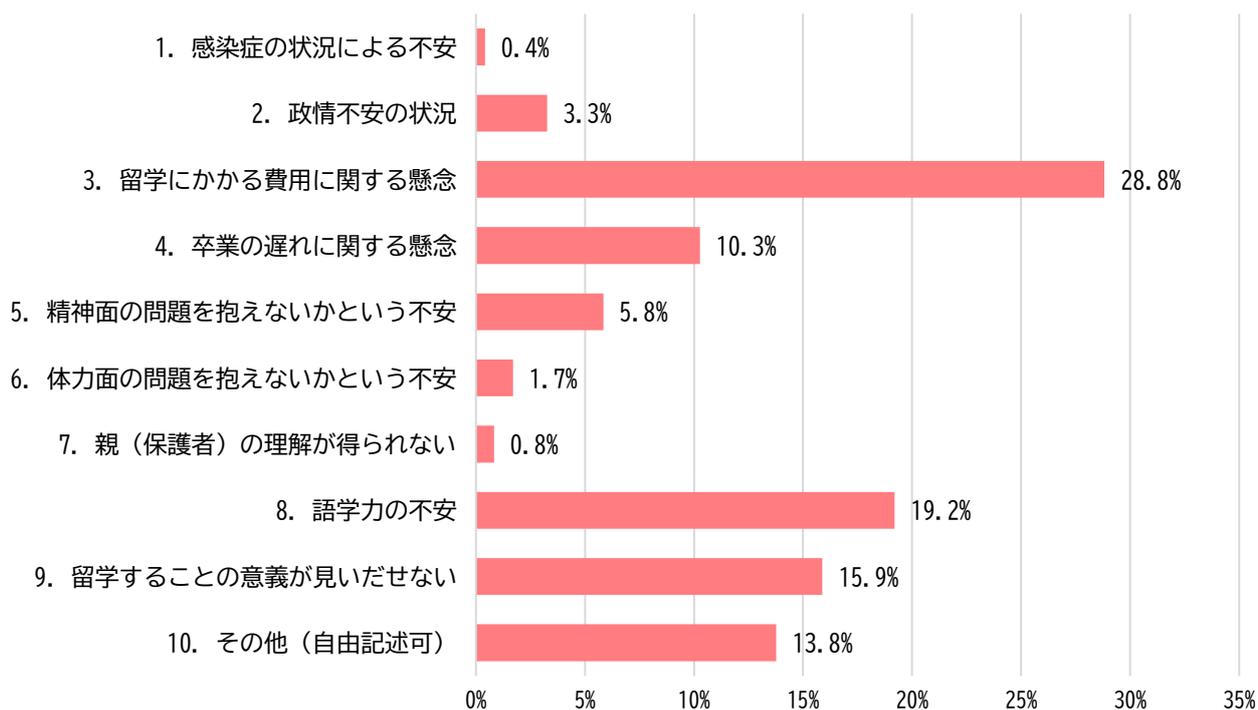
Do you currently wish to study abroad while enrolled in an undergraduate or graduate school?



1. Short-term Study Abroad (approximately two months or less). 2. Mid-term Study Abroad (approximately three months to less than six months), e.g. 3. one-quarter/semester study abroad programs. 4. Long-term Study Abroad (approximately six months or longer). 4. I do not wish to study abroad.

Q10. 海外留学を希望しない理由は何ですか。

What is the main reason you do not wish to study abroad?

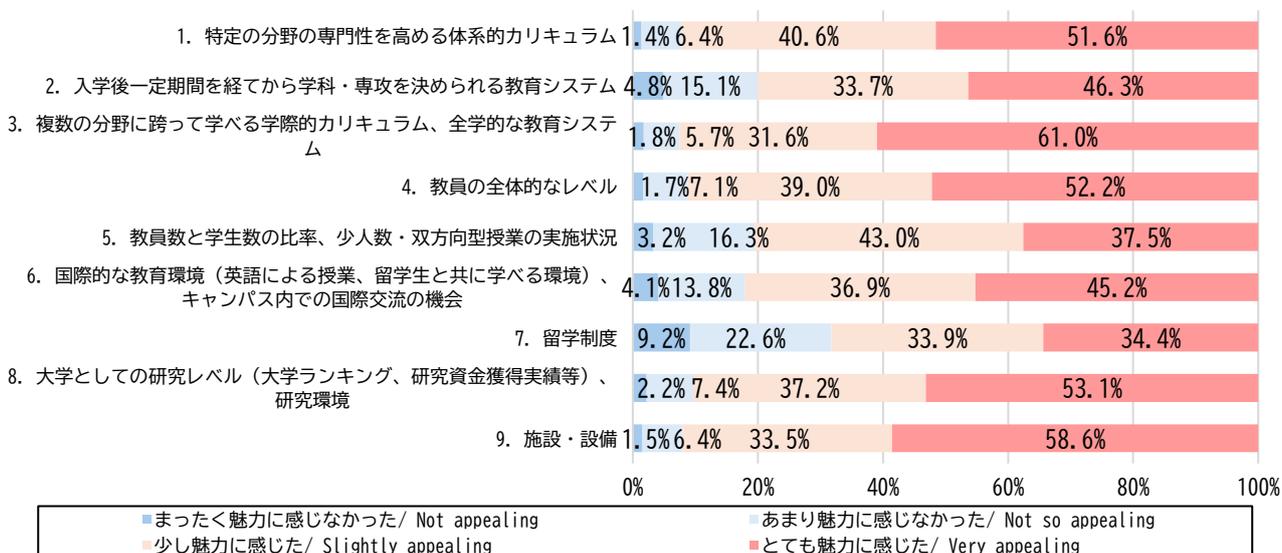


1. Concerns about infectious disease outbreaks. 2. Political instability in the destination country. 3. Financial concerns about studying abroad. 4. Concerns about a possible delay in graduation. 5. Concerns about mental well-being, e.g. stress, loneliness, etc. 6. Concerns about physical health. 7. Lack of support or understanding from parents/guardians. 8. Concerns about language proficiency. 9. I can see no value. 10. Other reasons (Please specify below).

2. 早稲田大学に入学するにあたって

Q11. あなたは「学び・研究に関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？

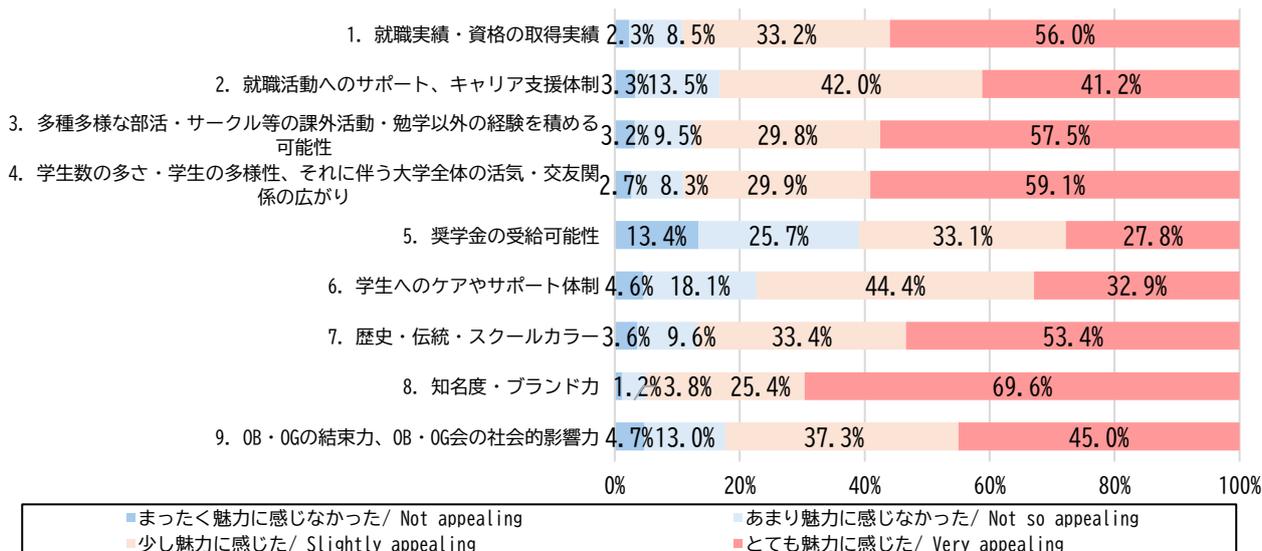
Regarding "study and research", what points about Waseda University appealed to you?



1. Systematic curriculum to enhance expertise in certain fields of study. 2. Curriculum where you can choose your department and field of study after a certain period of time has passed after enrollment. 3. Interdisciplinary curriculum and all-university academic system where you can learn across multiple fields of study. 4. The overall level of faculty members. 5. The faculty to student ratio, availability of small group and interactive classes. 6. International educational environment (classes conducted in English, environment to learn alongside international students), opportunities for international exchange on campus. 7. Study abroad programs. 8. Level of research of the university (university rankings, acquisition of research funds, etc.), research environment. 9. Facilities and equipment.

Q12. あなたは「進路・学生生活・イメージに関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？

Regarding "careers, student life, and university image", what points about Waseda University appealed to you?



1. Employment and qualifications. 2. Support for job finding and careers. 3. Various extracurricular activities such as clubs and circles, opportunities for experiences outside of classroom studies. 4. Large number of students and diversity of students, lively atmosphere of the university, and wide breadth of alumni relations. 5. Availability of scholarships. 6. Support and care for students. 7. History, tradition, and school color. 8. Fame, brand image. 9. Network of alumni, social influence of alumni associations.

Q13. 早稲田大学・大学院の現在籍学部・研究科への出願を決定したのはいつ頃ですか？

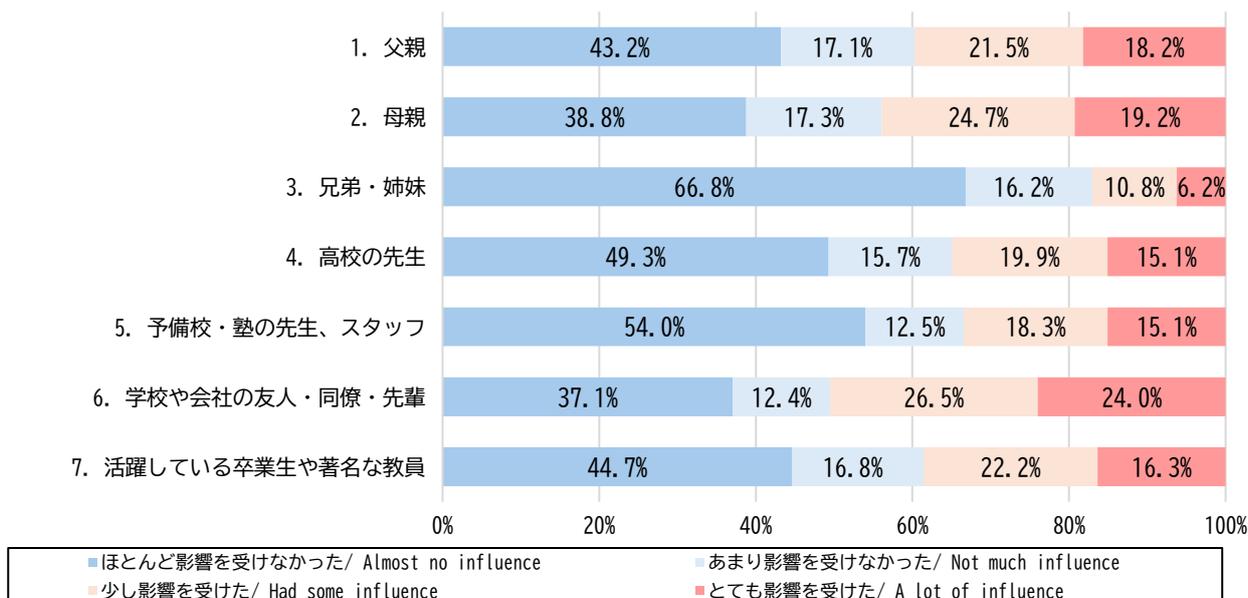
When did you decide to apply to the undergraduate/graduate school that you are currently enrolled at?



1. Before high school. 2. First year of high school. 3. Second year of high school. 4. When starting the third year of high school ~ before summer vacation. 5. Summer vacation of the third year of high school ~ until applying to universities. 6. After graduating high school ~ until September. 7. October after graduating high school ~ until applying to universities. 8. A year before applying (undergraduate/those with working experience). 9. A year before applying ~ half a year before applying (undergraduate/those with working experience). 10. Half a year before applying ~ up until applying to universities (undergraduate/those with working experience). 11. Others.

Q14. 出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた人について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。

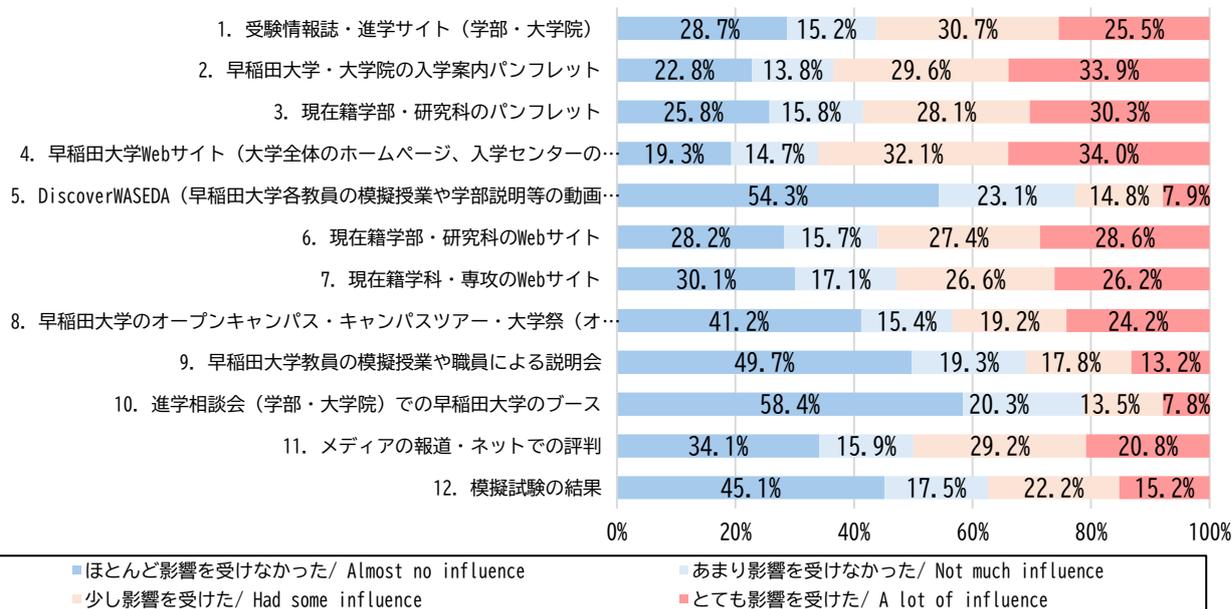
Please select the degree to which each of the following persons influenced your decision to apply (to your current undergraduate/graduate school).



1. Father. 2. Mother. 3. Siblings. 4. High school teacher. 5. Cram school teacher, staff. 6. Friends, colleagues, bosses at school/work. 7. Alumni active in their fields, famous faculty members.

Q15. 出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた情報源について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。

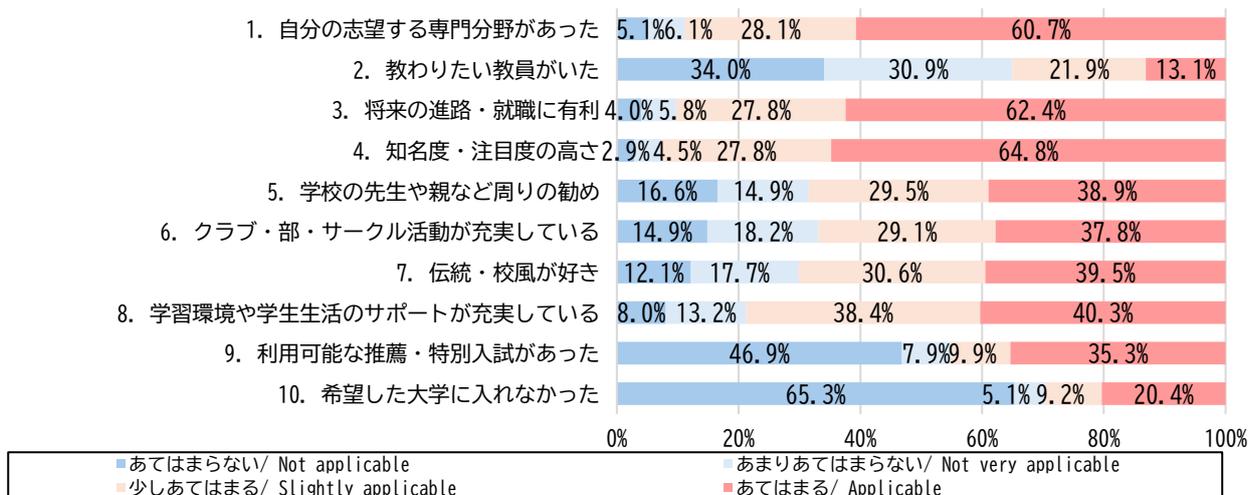
Please select the degree to which each of the following information sources influenced your decision to apply (to you current undergraduate/graduate school).



1. Magazines and websites for university admissions (undergraduate/graduate). 2. Waseda University undergraduate/graduate admissions pamphlets. 3. Pamphlets of your current undergraduate/graduate school. 4. Waseda University website (university homepage, Admissions Center homepage). 5. DiscoverWASEDA (watch video content of mock classes taught by Waseda University faculty members and informative videos of the undergraduate schools). 6. Website of your current undergraduate/graduate school. 7. Website of your current department/major. 8. Waseda University's open campus, campus tours, university festival (including online). 9. Mock classes taught by Waseda University faculty members and informative sessions by university staff. 10. Waseda University booth at university admissions guidance sessions (undergraduate/graduate). 11. Media coverage, reputation on the internet. 12. Results of mock examination.

Q17. あなたが大学に進学する上で、最終的に早稲田大学を選んだ理由は何ですか。

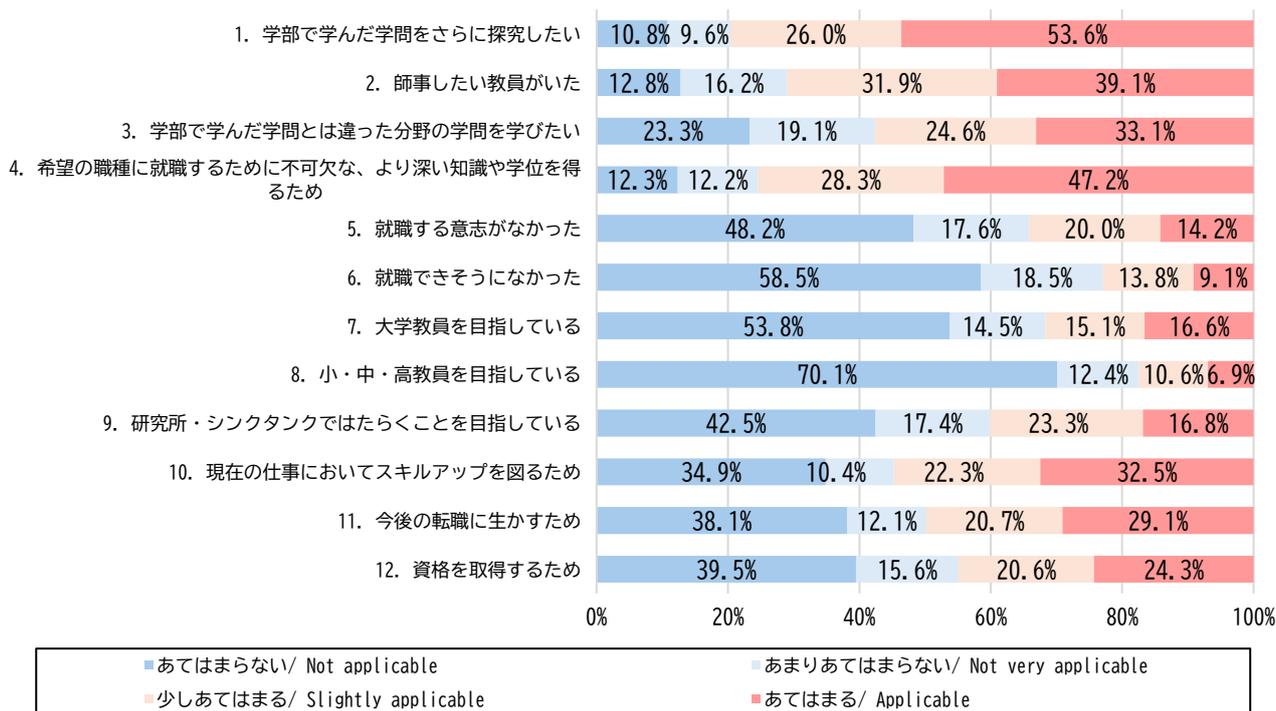
What were your reasons for ultimately choosing Waseda University?



1. There was a field of study I wanted to pursue. 2. There was a faculty member I wanted to learn from. 3. Advantageous for future careers and finding jobs. 4. High profile and fame. 5. Recommended by school teachers, parents, and others. 6. Thriving clubs, teams, and circle activities. 7. Like the school tradition and history. 8. Excellent learning environment and support for student life. 9. Able to apply through special high school recommendation applications/special applications. 10. Did not get into the university I wished to go to.

Q18. あなたが大学院に進学した理由は何ですか。

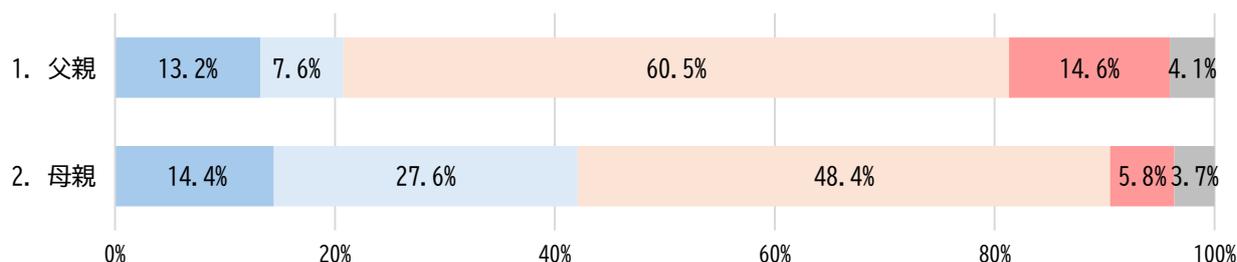
Why did you decide to enroll in graduate school?



1. I want to further explore what I studied in undergraduate school. 2. There was a faculty member I wanted to learn from. 3. I want to study a different field than what I studied in undergraduate school. 4. The degree and further learning is essential to get a job in my desired profession. 5. I had no intention of finding a job. 6. I wasn't able to find a job. 7. I wish to be a university faculty member. 8. I wish to be an elementary, middle, or high school teacher. 9. I wish to work at a research institute/think tank. 10. To improve my skills in my current job. 11. To make use of it in future career changes. 12. To qualify for a license.

Q19. あなたのご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるものをそれぞれ選択してください。

Select one from the following that apply to your parents' academic history.

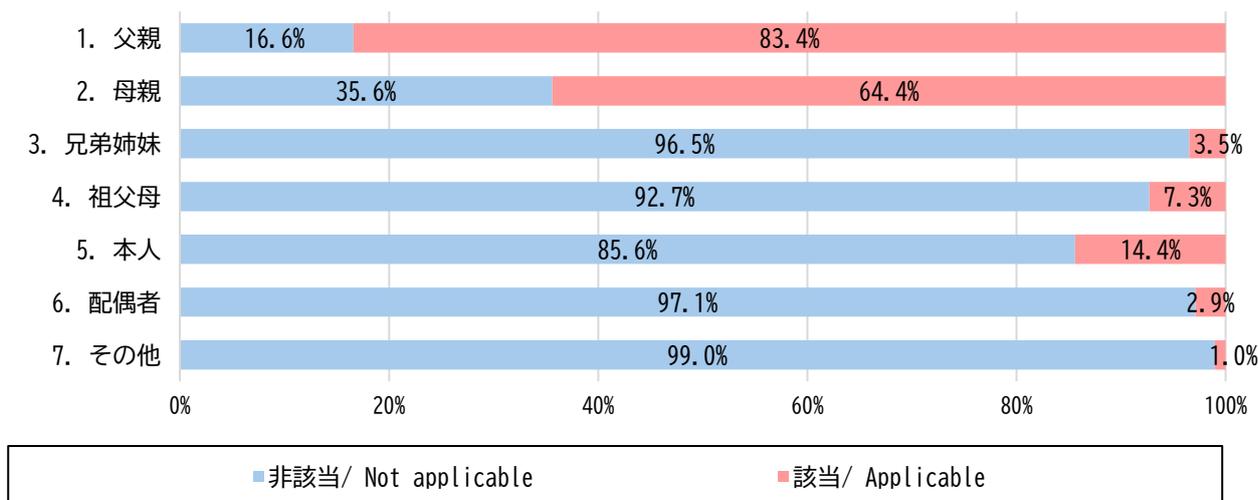


■ 中学・高校・専門学校・各種学校卒/ Graduated junior high school, high school, vocational school and other schools (ISCED 2011 Level 2-3 Lower/Upper secondary education)
 ■ 高等専門学校・短大卒/ Graduated specialized vocational high school or junior college (ISCED 2011 Level 4-5 Post-secondary non-tertiary/Short-cycle tertiary education)
 ■ 大卒/ Graduated university (undergraduate school) (ISCED 2011 Level 6 Bachelor's or equivalent level)
 ■ 大学院卒/ Graduated university (graduate school) (ISCED 2011 Level 7-8 Master's/Doctoral or equivalent level)
 ■ わからない・いない/ Don't know, do not have father or mother

1. father. 2. Mother

Q20. あなたの現在の生計を維持している方について、あてはまるものをすべて選択してください。

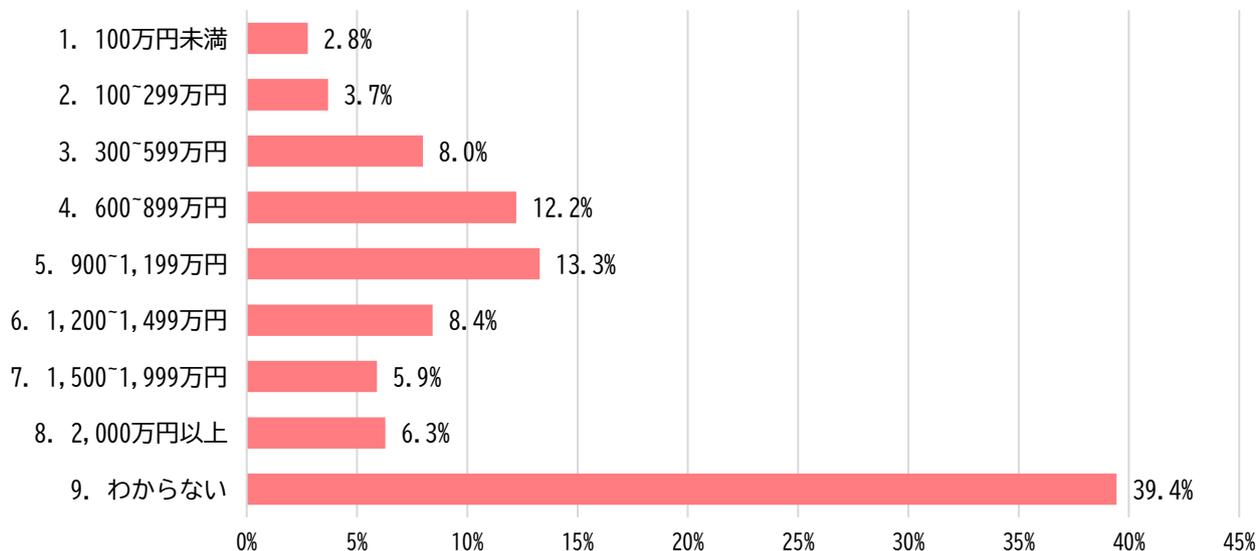
Select all that apply regarding your current livelihood.



1. Father. 2. Mothers. 3. Siblings. 4. Grandparents. 5. Individual. 6. Spouse. 7. Other.

Q21. 前問で選択した方すべての昨年（2024年1月～12月）の年間収入合計（税込）について、もっともあてはまるものを選択してください。

Select the one that best describes the total annual income (including tax, Japanese yen) for the last year (January-December 2024) for all persons selected in the previous question.

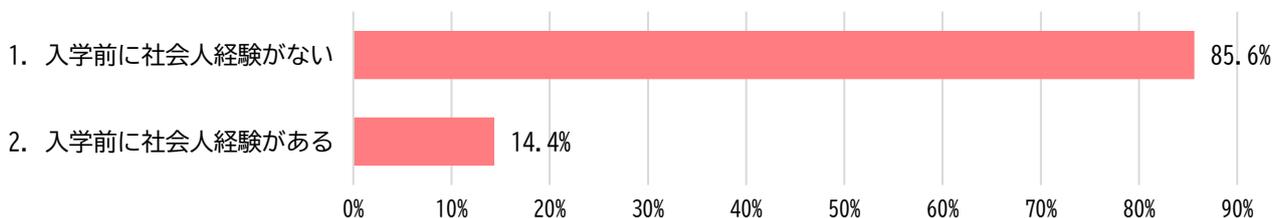


1. Less than 1 million yen. 2. 1~2.99 million yen. 3. 3~5.99 million yen. 4. 6~8.99 million yen. 5. 9~11.99 million yen. 6. 12~14.99 million yen. 7. 15~19.99 million yen. 8. 20 million yen or more. 9. Don't know/don't want to answer.

3. 入学前の学習・生活習慣について

Q22. 大学・大学院入学前の在学状況等について、次のどれにあてはまりますか。

Which of the following best applies to you regarding your academics before you entered undergraduate/graduate school?

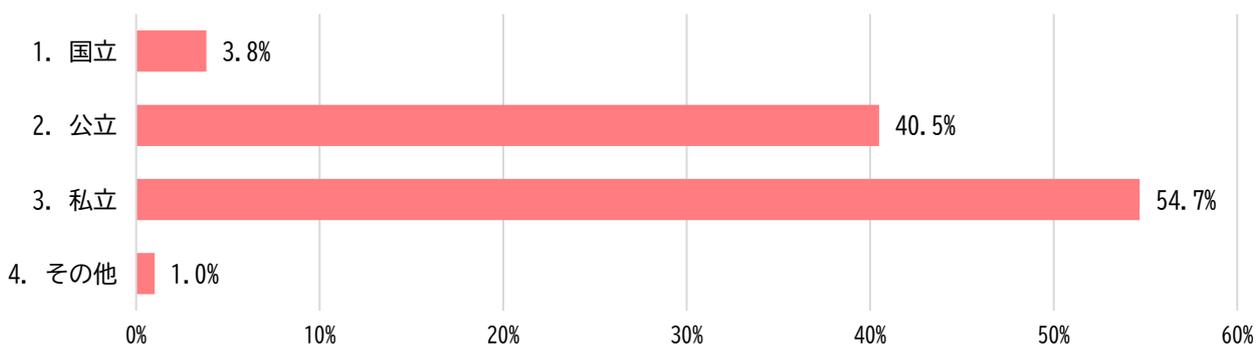


1. Had no work experience prior to enrollment. 2. Had work experience prior to enrollment.

Q23. 大学・大学院入学前の在学状況等について、次のどれにあてはまりますか。(その2)

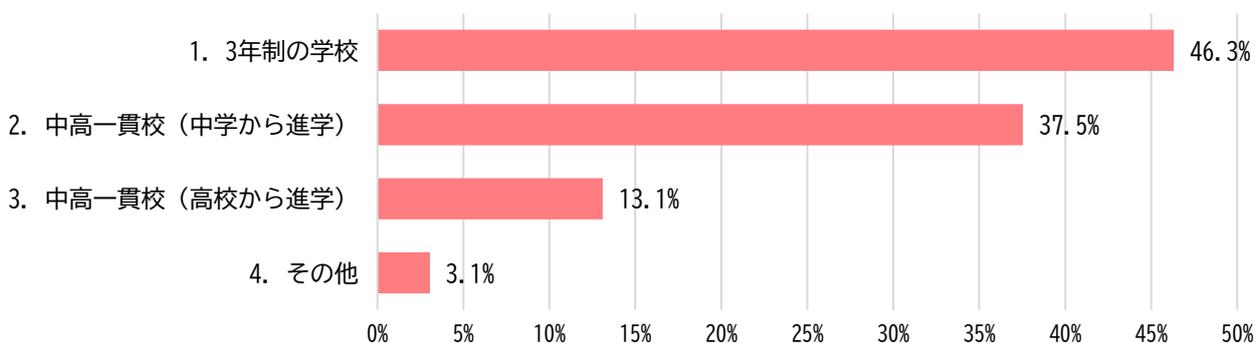
Which of the following best applies to you regarding your academics before you entered undergraduate/graduate school?

【高校の設置者/ Type of establishment】



1. National. 2. Public. 3. Private. 4. Others.

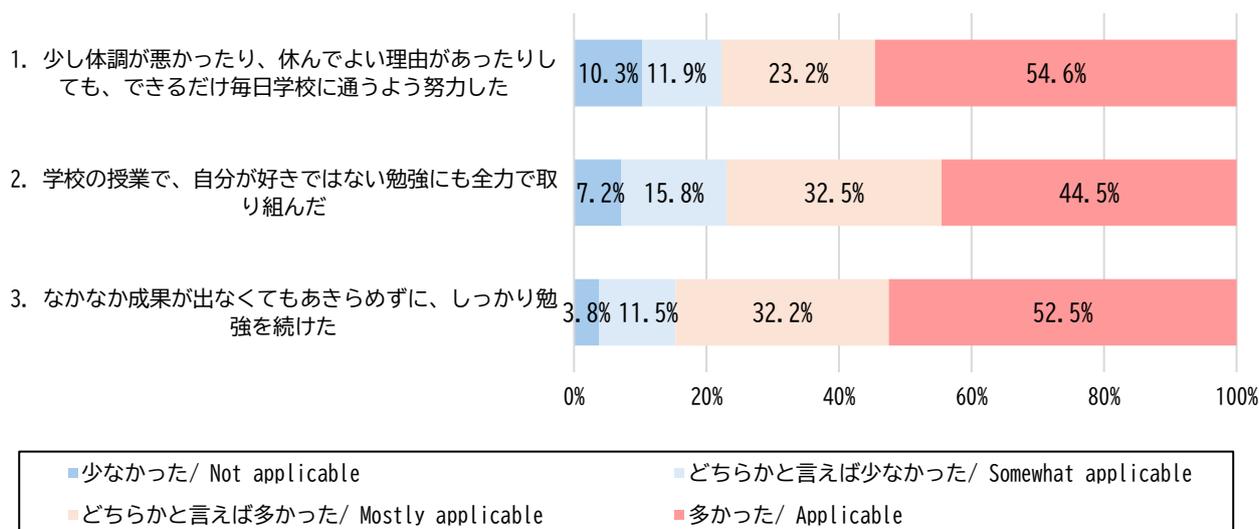
【3年制か中高一貫か/ 3-year high school or integrated middle and high school】



1. Three-year high school. 2. Integrated middle and high school (entered from middle school). 3. Integrated middle and high school (entered from high school). 4. Others.

Q24. あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。

When you were in high school, how much did the following apply to you?

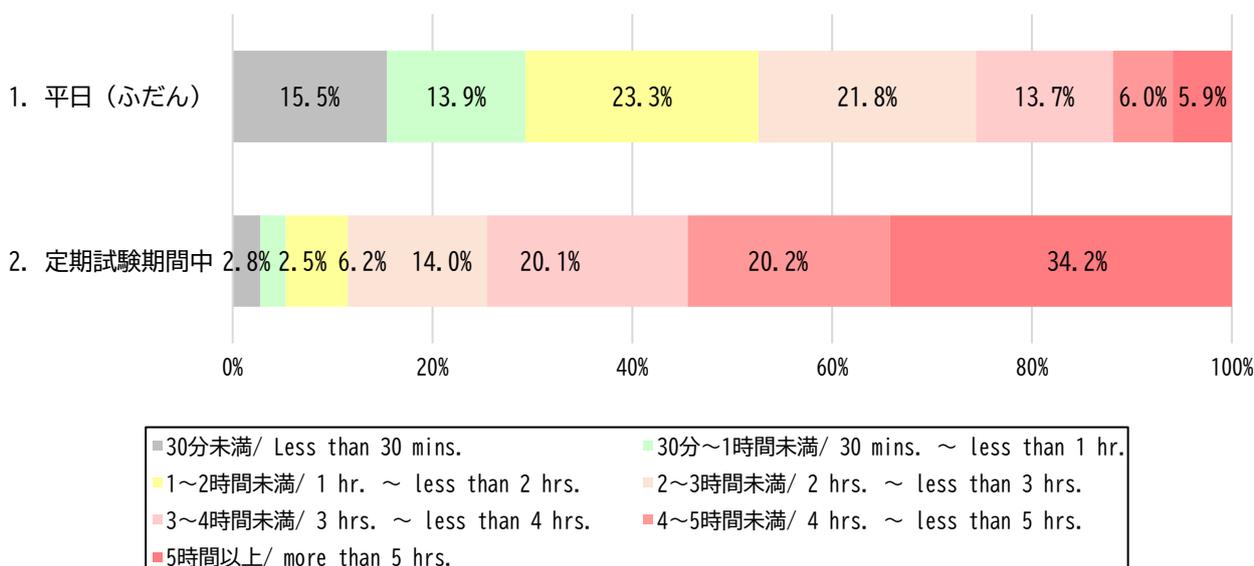


1. Even if I was a little sick, or had a good reason to miss school, I made an effort to attend school every day as much as possible. 2. In school classes, I did my best to study even the subjects I didn't like. 3. Even if I didn't get results right away, I didn't give up and continued to study hard.

Q25. あなたが「高校2年生の2学期」の頃、1日当たり学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか、「平日

(ふだん)」と「定期試験期間中」についてお答えください。塾・予備校での学習時間も含めます。

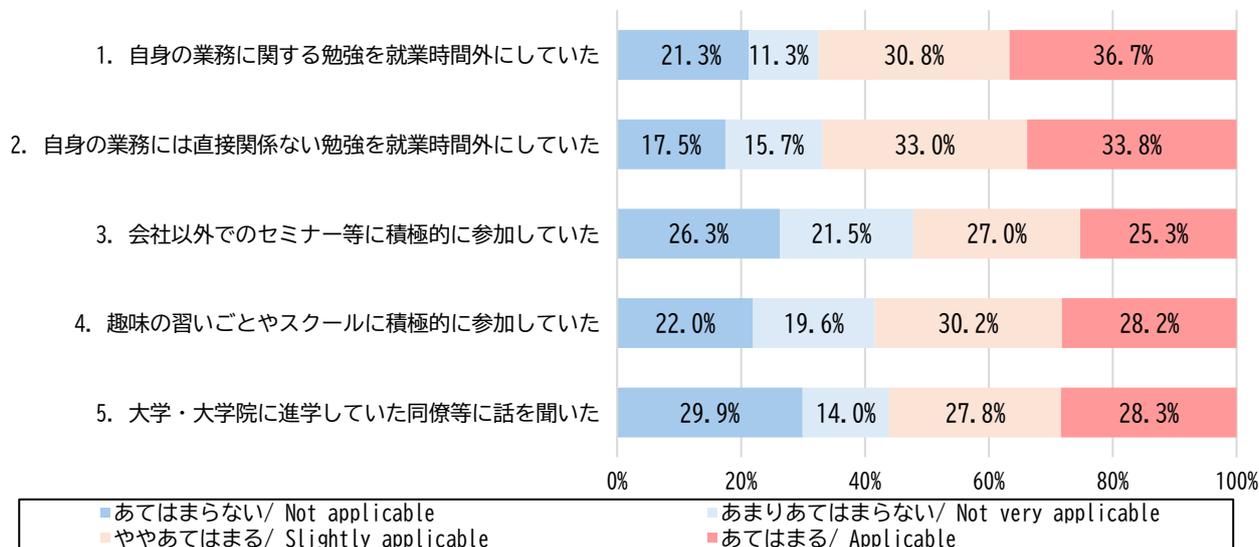
When you were in the "second semester of your second year of high school", how much time did you spend studying outside of school hours? Please differentiate between "weekdays (usual)" and "during regular exam periods"? Include study time at cram/preparatory schools.



1. Weekdays (everyday). 2. During regular exam periods.

Q26. (既に社会人経験のある方のみお答えください) あなたの大学(大学院)入学前の社会人経験の中で、下記のことはどれくらいあてはまりますか。

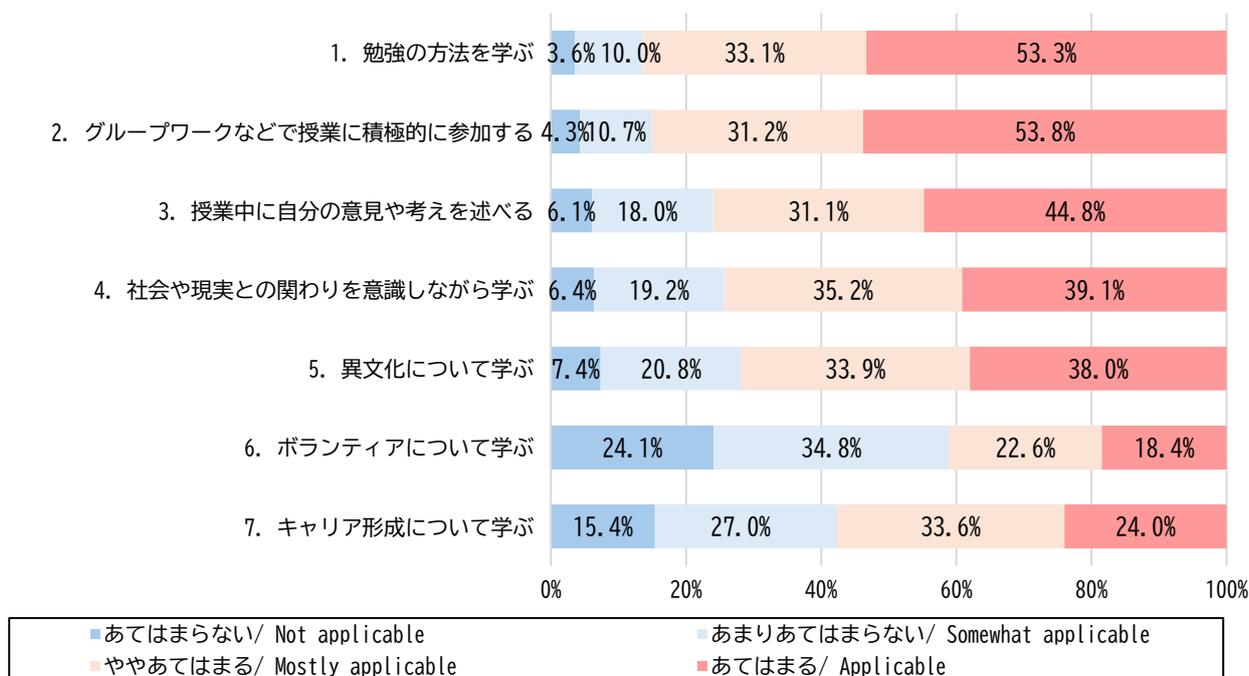
(Please answer only if you have work experience) Regarding your work experience before enrollment in undergraduate/graduate school, how much does the following apply to you?



1. Studied work-related subjects outside of working hours. 2. Studied subjects not directly related to work outside of working hours. 3. Actively participated in seminars, etc. outside of the company. 4. Actively participated in hobbies, lessons, and schools. 5. Talked to colleagues who had enrolled at undergraduate/graduate schools.

Q27. あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。

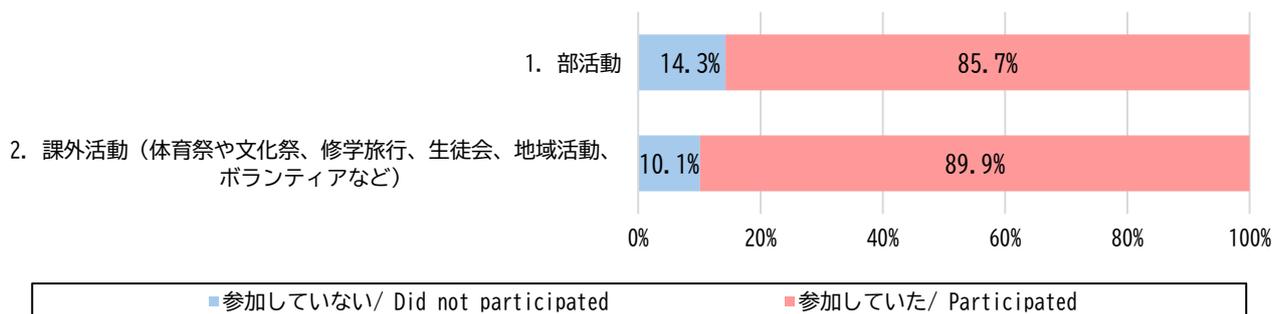
When you were in high school, how much of the following did you experience?



1. Learned study skills. 2. Actively participate in class through group work. 3. Express your opinions and thoughts in class. 4. Learn by being aware of one's relationships with society and the real world. 5. Learn about different cultures. 6. Learn about volunteering. 7. Learn about career development.

Q28. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動に参加していましたか。

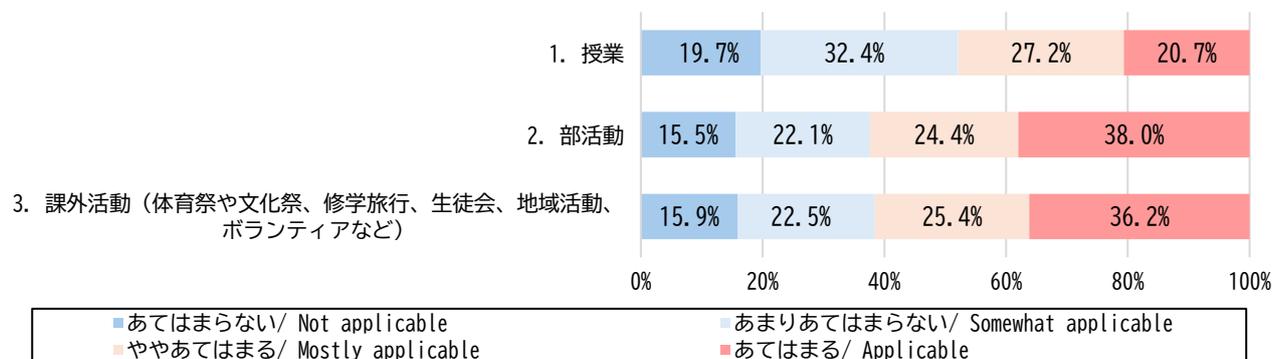
When you were in high school, did you participate in the following activities?



1. Club activities. 2. Extracurricular activities (sports and cultural festivals, school trips, student council, community activities, volunteer work, etc.).

Q29. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか。

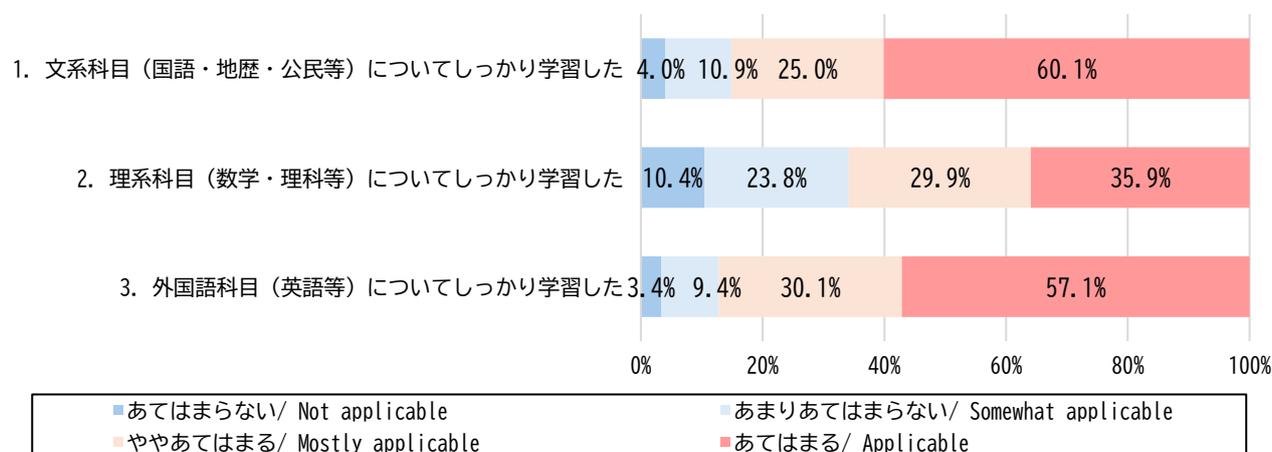
When you were in high school, did you take on a leadership role in the following activities?



1. Classes. 2. Club activities. 3. Extracurricular activities (sports and cultural festivals, school trips, student council, community activities, volunteer work, etc.).

Q30. あなたの高校時代について、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

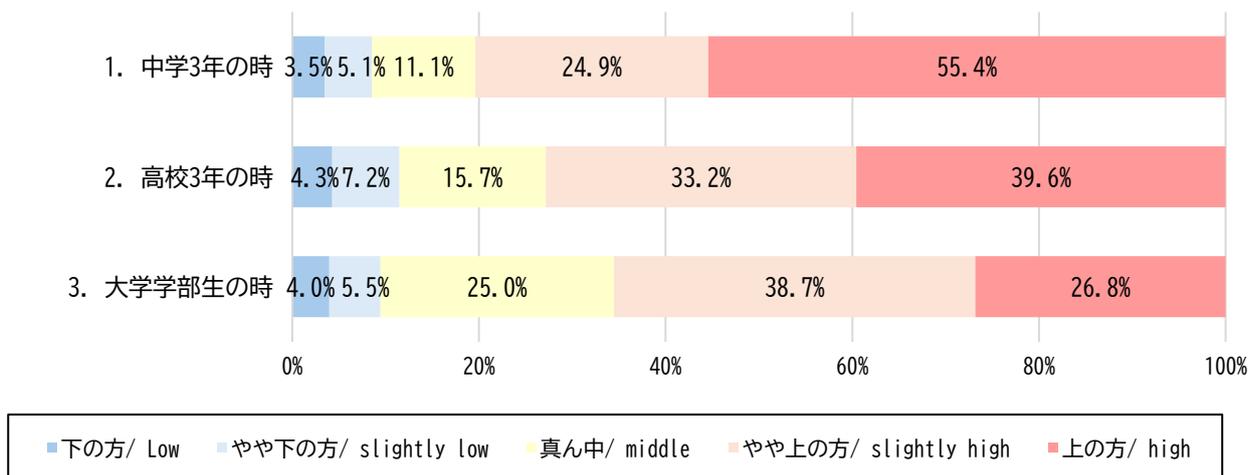
When you were in high school, how applicable were the following?



1. Studied well in humanities subjects (language arts, geography, history, civics, etc.). 2. Studied well in science subjects (mathematics, science, etc.). 3. Studied well in foreign language subjects (English, etc.).

Q31. あなたの校内成績についてお尋ねします。通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれぐらいでしたか。学部生の方は中学3年生の時と高校3年生の時それぞれについて、大学院生の方は学部時代の成績について、全教科・科目トータルでみた場合の状況をお答えください。

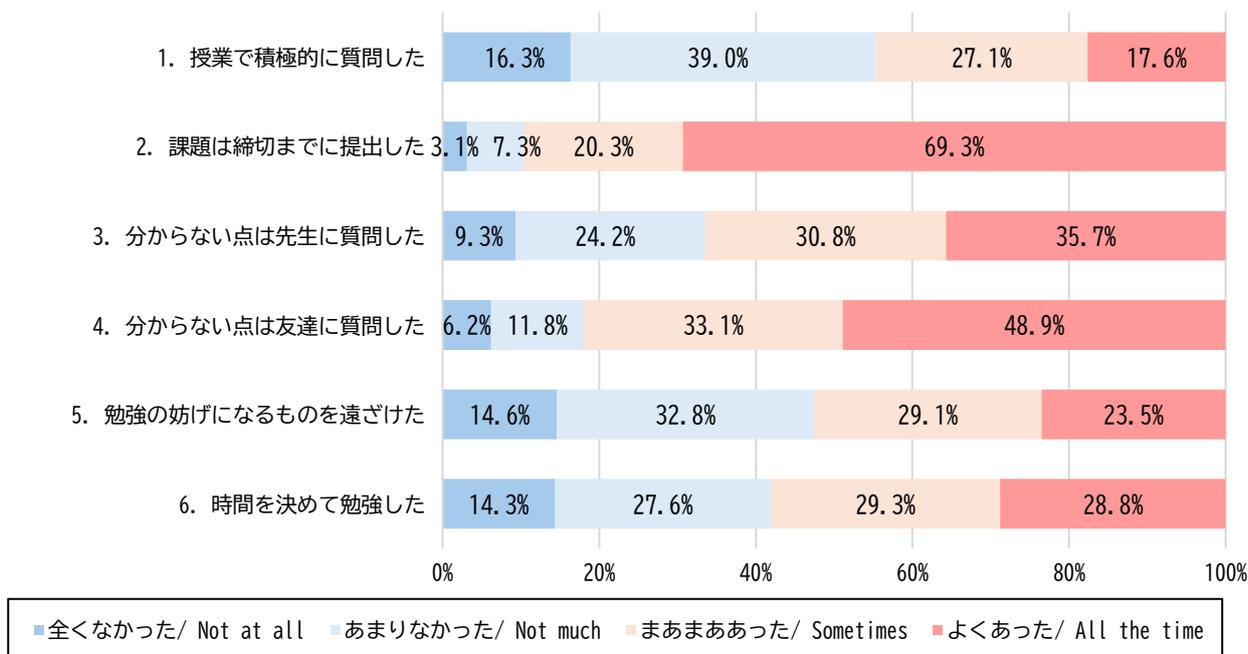
We would like to ask you about your grades in school. What was your grade in the school you attended? Please indicate your overall grades for all subjects in the senior year of your high school and the last year of your middle school for undergraduate students, and your overall grades in undergraduate school for graduate students.



1. Last year of middle school. 2. Senior year of high school. 3. In undergraduate school.

Q32. あなたの高校時代について、次のことはどれほどありましたか。

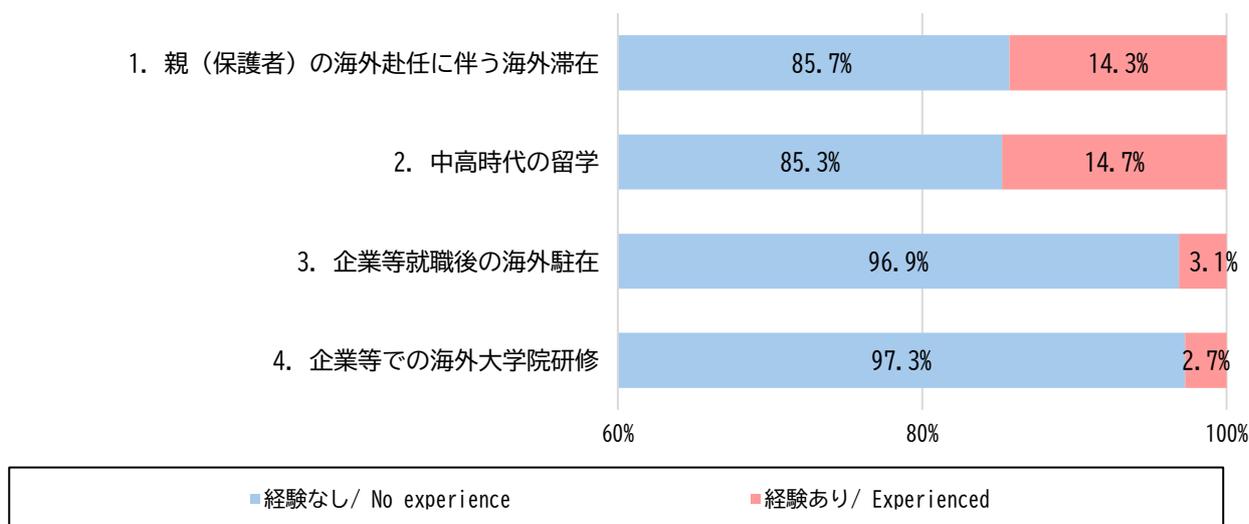
Concerning your high school years, how much of the following apply to you?



1. I actively asked questions during class. 2. I submitted assignments by the deadlines. 3. I asked the teacher about the points I didn't understand. 4. I asked my friends about the points I didn't understand. 5. I kept away from things that would interfere with my studies. 6. I set aside a specific time for study.

Q33. 大学・大学院入学以前の海外経験についてお答えください。

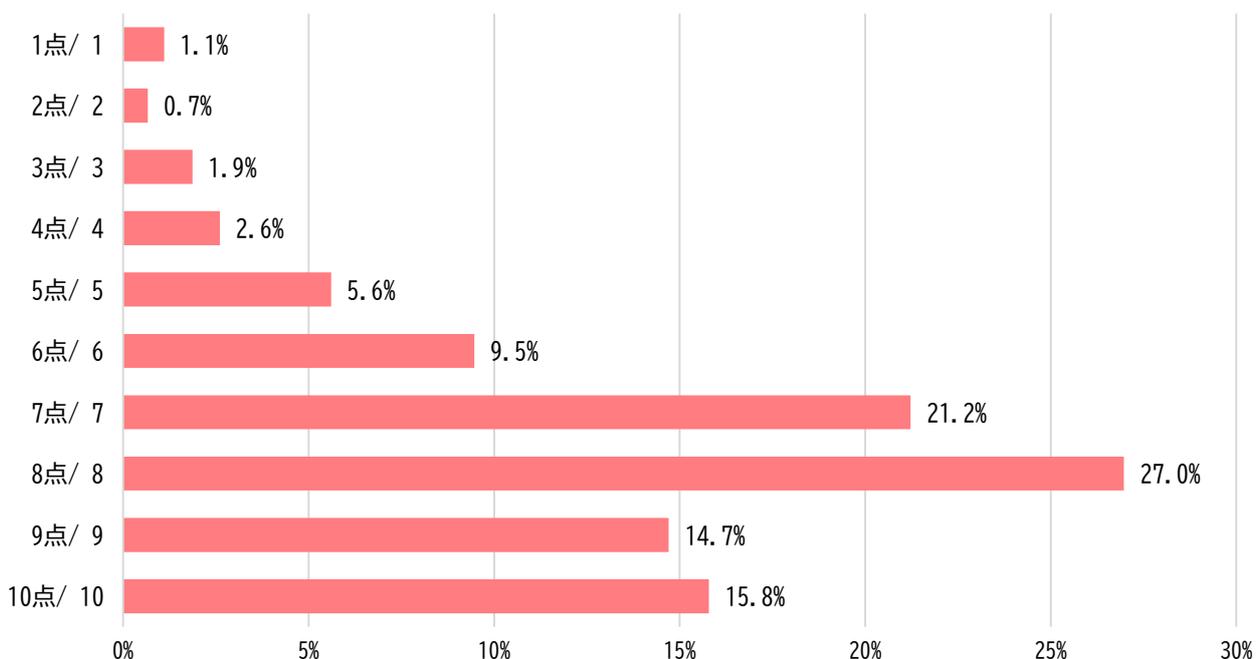
Please answer about the overseas experience you had before entering undergraduate/graduate school



1. Living abroad due to parent's (guardian's) overseas posting. 2. Studies abroad during middle and/or high school. 3. Expatriation after employment in a company. 4. Overseas graduate school enrollment/training during employment.

Q34. 大学・大学院入学前の生活全般（高校生活、または社会人経験をお持ちの方はこれまでの生活）について、10点満点で満足度得点を付けるとすれば、何点になりますか。

On a scale of 1 to 10, how would you rate your overall satisfaction with your life prior to entering undergraduate or graduate school (your high school life, or your life to date if you have work experience)?



IV. 調査データ〈単純集計表〉

1. 基本情報

Q01. 早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。

	第一志望ではなかった	第一志望であった	合計
大学（大学院）	23.6% (1,025)	76.4% (3,318)	100.0% (4,343)
学部（研究科）	24.5% (1,048)	75.5% (3,223)	100.0% (4,271)

Q02. あなたは「早稲田大学（大学院生の場合，早稲田大学大学院）」入学前に，アドミッション・ポリシーを確認しましたか。

「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください。

	アドミッション・ポリシーというものを知らない	アドミッション・ポリシーを確認しなかった	あまり知らなかった	やや知っていた	よく知っていた	合計
早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	11.0% (509)	12.7% (586)	16.2% (748)	36.5% (1,683)	23.5% (1,083)	100.0% (4,609)
学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	10.2% (456)	11.6% (516)	16.6% (739)	35.1% (1,565)	26.4% (1,178)	100.0% (4,454)

Q03. 「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、共感できるかどうか、それぞれあてはまるものを選択してください。

	全く理解（共感）できない	あまり理解（共感）できない	少し理解（共感）できる	大いに理解（共感）できる	合計
早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	2.3% (102)	4.0% (179)	44.5% (1,986)	49.2% (2,197)	100.0% (4,464)
学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	1.7% (77)	3.3% (147)	41.0% (1,823)	53.9% (2,397)	100.0% (4,444)

Q04. あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計
自分の考えを論理的に構成することができた	2.3% (111)	13.0% (615)	51.5% (2,437)	33.1% (1,568)	100.0% (4,731)
複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた	1.9% (89)	8.0% (379)	46.9% (2,218)	43.2% (2,041)	100.0% (4,727)
自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた	3.0% (141)	17.9% (848)	46.4% (2,193)	32.7% (1,546)	100.0% (4,728)
自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた	2.6% (122)	10.4% (490)	38.0% (1,798)	49.0% (2,317)	100.0% (4,727)

Q04. (続き)

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計
同じ目標に向けて他者と協働することができた	2.8% (134)	11.3% (532)	36.7% (1,734)	49.2% (2,322)	100.0% (4,722)
他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた	3.3% (158)	16.6% (786)	40.3% (1,904)	39.7% (1,876)	100.0% (4,724)
相手の立場や考え方に共感することができた	1.7% (81)	7.5% (354)	39.9% (1,885)	50.9% (2,408)	100.0% (4,728)
大学で学ぶ(学んだ)ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	3.2% (153)	9.0% (427)	32.4% (1,531)	55.3% (2,614)	100.0% (4,725)

Q05. あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。

	身につけていない	あまり身につけていない	まあまあ身につけている	身につけている	合計
新しいことに挑戦できる	2.0% (96)	14.4% (681)	45.4% (2,148)	38.2% (1,809)	100.0% (4,734)
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	3.8% (182)	28.1% (1,329)	43.0% (2,035)	25.1% (1,188)	100.0% (4,734)
物事を論理的に考えることができる	2.0% (95)	14.1% (668)	46.7% (2,213)	37.2% (1,760)	100.0% (4,736)
課題の解決方法を提案できる	1.8% (84)	15.6% (739)	48.5% (2,295)	34.1% (1,613)	100.0% (4,731)
自分の考えを分かりやすく表現できる	3.3% (155)	22.1% (1,043)	45.9% (2,171)	28.7% (1,359)	100.0% (4,728)
相手の状況や考え方を尊重できる	1.2% (59)	6.9% (328)	37.5% (1,777)	54.3% (2,569)	100.0% (4,733)
物事を多面的に考えることができる	2.2% (103)	14.9% (706)	44.7% (2,115)	38.2% (1,807)	100.0% (4,731)
健全に批判することができる	3.0% (140)	19.9% (942)	46.6% (2,204)	30.5% (1,444)	100.0% (4,730)
公正な視点で多様性を受け入れられる	1.5% (71)	9.7% (461)	42.1% (1,994)	46.6% (2,207)	100.0% (4,733)
異文化を理解できる	1.7% (81)	9.9% (466)	39.3% (1,857)	49.1% (2,323)	100.0% (4,727)
外国語を理解し、話せる	10.6% (503)	31.2% (1,476)	35.9% (1,697)	22.3% (1,054)	100.0% (4,730)
公正で責任ある学術・研究活動ができる	4.2% (200)	19.5% (921)	45.4% (2,148)	30.8% (1,458)	100.0% (4,727)
自身の専門に関する知識	10.7% (504)	30.7% (1,451)	38.8% (1,834)	19.8% (937)	100.0% (4,726)

Q06. 現時点で、あなたが学部生であれば学部卒業後、大学院生であれば大学院修了後の進路としてどのようなものを考えていますか。

企業・官公庁への就職（現在就職している会社への勤務、転職を含む）	大学・大学院への進学	留学	各種資格試験受験	未定	その他（具体的に意識しているものがある）	合計
50.2% (2,372)	20.1% (951)	2.6% (122)	5.2% (244)	16.9% (797)	5.0% (238)	100.0% (4,724)

Q07. 具体的にどのような就職先を考えていますか。

民間企業	公務員	小中高教員	大学教員	研究所・シンクタンク	起業、フリーランス・自営業	NGO、NPO	現在就職している会社等に引き続き勤務する	現在就職している会社等から転職活動を開始する	その他	合計
76.3% (1,781)	10.2% (237)	2.4% (56)	1.0% (24)	2.3% (53)	2.4% (57)	1.2% (27)	2.7% (63)	0.7% (16)	0.8% (19)	100.0% (2,333)

Q08. 具体的にどのような進学先を考えていますか。

早稲田大学の大学院進学	早稲田大学以外の国内大学院進学	早稲田大学以外の海外大学院進学	その他	合計
56.7% (531)	30.7% (288)	10.0% (94)	2.6% (24)	100.0% (937)

Q09. あなたは現時点で、学部・大学院在学中の海外留学を希望していますか。

短期の留学（おおそ2か月以内）	中期の留学（おおそ3か月から半年未満（クォーター・セメスター留学））	長期の留学（おおそ半年以上）	海外留学は希望していない	合計
27.3% (1,229)	10.5% (471)	13.7% (615)	48.6% (2,185)	100.0% (4,500)

Q10. 海外留学を希望しない理由は何ですか。

感染症の状況による不安	政情不安の状況	留学にかかる費用に関する懸念	卒業の遅れに関する懸念	精神面の問題を抱えないかという不安	体力面の問題を抱えないかという不安	親（保護者）の理解が得られない	語学力の不安	留学することの意義が見いだせない	その他（自由記述可）	合計
0.4% (9)	3.3% (71)	28.8% (626)	10.3% (223)	5.8% (127)	1.7% (37)	0.8% (18)	19.2% (417)	15.9% (345)	13.8% (299)	100.0% (2,172)

2. 早稲田大学に入学するにあたって

Q11. あなたは「学び・研究に関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？

	まったく魅力 に感じなかつた	あまり魅力に 感じなかつた	少し魅力に感 じた	とても魅力に 感じた	合計
特定の分野の専門性を高める体系的カリキュラム	1.4% (61)	6.4% (282)	40.6% (1,788)	51.6% (2,269)	100.0% (4,400)
入学後一定期間を経てから学科・専攻を決められる教育システム	4.8% (213)	15.1% (663)	33.7% (1,482)	46.3% (2,036)	100.0% (4,394)
複数の分野に跨って学べる学際的カリキュラム、全学的な教育システム	1.8% (77)	5.7% (251)	31.6% (1,387)	61.0% (2,677)	100.0% (4,392)
教員の全体的なレベル	1.7% (75)	7.1% (311)	39.0% (1,713)	52.2% (2,289)	100.0% (4,388)
教員数と学生数の比率、少人数・双方向型授業の実施状況	3.2% (141)	16.3% (715)	43.0% (1,887)	37.5% (1,649)	100.0% (4,392)
国際的な教育環境（英語による授業、留学生と共に学べる環境）、キャンパス内での国際交流の機会	4.1% (181)	13.8% (606)	36.9% (1,621)	45.2% (1,989)	100.0% (4,397)
留学制度	9.2% (401)	22.6% (988)	33.9% (1,481)	34.4% (1,504)	100.0% (4,374)
大学としての研究レベル（大学ランキング、研究資金獲得実績等）、研究環境	2.2% (97)	7.4% (326)	37.2% (1,634)	53.1% (2,331)	100.0% (4,388)
施設・設備	1.5% (68)	6.4% (281)	33.5% (1,471)	58.6% (2,571)	100.0% (4,391)

Q12. あなたは「進路・学生生活・イメージに関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？

	まったく魅力 に感じなかつた	あまり魅力に 感じなかつた	少し魅力に感 じた	とても魅力に 感じた	合計
就職実績・資格の取得実績	2.3% (102)	8.5% (372)	33.2% (1,453)	56.0% (2,448)	100.0% (4,375)
就職活動へのサポート、キャリア支援体制	3.3% (143)	13.5% (592)	42.0% (1,837)	41.2% (1,803)	100.0% (4,375)
多種多様な部活・サークル等の課外活動・勉学以外の経験を積める可能性	3.2% (141)	9.5% (415)	29.8% (1,306)	57.5% (2,518)	100.0% (4,380)
学生数の多さ・学生の多様性、それに伴う大学全体の活気・交友関係の広がり	2.7% (118)	8.3% (364)	29.9% (1,309)	59.1% (2,586)	100.0% (4,377)
奨学金の受給可能性	13.4% (586)	25.7% (1,126)	33.1% (1,450)	27.8% (1,217)	100.0% (4,379)
学生へのケアやサポート体制	4.6% (201)	18.1% (791)	44.4% (1,945)	32.9% (1,441)	100.0% (4,378)
歴史・伝統・スクールカラー	3.6% (158)	9.6% (421)	33.4% (1,464)	53.4% (2,340)	100.0% (4,383)
知名度・ブランド力	1.2% (53)	3.8% (166)	25.4% (1,114)	69.6% (3,050)	100.0% (4,383)
OB・OGの結束力、OB・OG会の社会的影響力	4.7% (205)	13.0% (571)	37.3% (1,633)	45.0% (1,971)	100.0% (4,380)

Q13. 早稲田大学・大学院の現在籍学部・研究科への出願を決定したのはいつ頃ですか？

高校入学以前	高校1年の時	高校2年の時	高校3年進級～夏休み前	高校3年夏休み～大学出願時まで	高校卒業後～9月まで	高校卒業後10月～大学出願時まで	出願の1年前まで(大学院新入生・社会人)	出願の1年前～半年前まで(大学院新入生・社会人)	出願の半年前～大学(院)出願時まで(大学院新入生・社会人)	その他	合計
8.9% (389)	6.7% (295)	14.1% (620)	17.2% (754)	20.7% (907)	2.6% (114)	2.8% (123)	9.4% (414)	7.4% (325)	8.7% (382)	1.6% (69)	100.0% (4,392)

Q14. 出願の決定(現在籍学部・研究科の出願)に際して影響を受けた人について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。

	ほとんど影響を受けなかった	あまり影響を受けなかった	少し影響を受けた	とても影響を受けた	合計
父親	43.2% (1,855)	17.1% (733)	21.5% (924)	18.2% (781)	100.0% (4,293)
母親	38.8% (1,664)	17.3% (743)	24.7% (1,058)	19.2% (826)	100.0% (4,291)
兄弟・姉妹	66.8% (2,827)	16.2% (685)	10.8% (456)	6.2% (264)	100.0% (4,232)
高校の先生	49.3% (2,104)	15.7% (672)	19.9% (847)	15.1% (644)	100.0% (4,267)
予備校・塾の先生、スタッフ	54.0% (2,309)	12.5% (536)	18.3% (784)	15.1% (645)	100.0% (4,274)
学校や会社の友人・同僚・先輩	37.1% (1,598)	12.4% (535)	26.5% (1,144)	24.0% (1,034)	100.0% (4,311)
活躍している卒業生や著名な教員	44.7% (1,916)	16.8% (719)	22.2% (954)	16.3% (701)	100.0% (4,290)

Q15. 出願の決定(現在籍学部・研究科の出願)に際して影響を受けた情報源について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。

	ほとんど影響を受けなかった	あまり影響を受けなかった	少し影響を受けた	とても影響を受けた	合計
受験情報誌・進学サイト(学部・大学院)	28.7% (1,244)	15.2% (658)	30.7% (1,334)	25.5% (1,105)	100.0% (4,341)
早稲田大学・大学院の入学案内パンフレット	22.8% (991)	13.8% (599)	29.6% (1,288)	33.9% (1,477)	100.0% (4,355)
現在籍学部・研究科のパンフレット	25.8% (1,113)	15.8% (682)	28.1% (1,214)	30.3% (1,311)	100.0% (4,320)
早稲田大学Webサイト(大学全体のホームページ、入学センターのホームページ)	19.3% (835)	14.7% (636)	32.1% (1,390)	34.0% (1,474)	100.0% (4,335)
DiscoverWASEDA(早稲田大学各教員の模擬授業や学部説明等の動画コンテンツを閲覧できるサイト)	54.3% (2,345)	23.1% (997)	14.8% (638)	7.9% (341)	100.0% (4,321)

Q15. 続き

	ほとんど影響を受けなかった	あまり影響を受けなかった	少し影響を受けた	とても影響を受けた	合計
現在籍学部・研究科のWeb サイト	28.2% (1,221)	15.7% (681)	27.4% (1,185)	28.6% (1,238)	100.0% (4,325)
現在籍学科・専攻のWeb サイト	30.1% (1,298)	17.1% (736)	26.6% (1,149)	26.2% (1,129)	100.0% (4,312)
早稲田大学のオープンキャンパス・キャンパスツアー・大学祭（オンラインを含む）	41.2% (1,784)	15.4% (667)	19.2% (833)	24.2% (1,046)	100.0% (4,330)
早稲田大学教員の模擬授業や職員による説明会	49.7% (2,148)	19.3% (835)	17.8% (767)	13.2% (570)	100.0% (4,320)
進学相談会（学部・大学院）での早稲田大学のブース	58.4% (2,521)	20.3% (878)	13.5% (582)	7.8% (339)	100.0% (4,320)
メディアの報道・ネットでの評判	34.1% (1,480)	15.9% (689)	29.2% (1,264)	20.8% (903)	100.0% (4,336)
模擬試験の結果	45.1% (1,950)	17.5% (755)	22.2% (958)	15.2% (659)	100.0% (4,322)

Q17. あなたが大学に進学する上で、最終的に早稲田大学を選んだ理由は何ですか。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	少しあてはまる	あてはまる	合計
自分の志望する専門分野があった	5.1% (164)	6.1% (195)	28.1% (899)	60.7% (1,944)	100.0% (3,202)
教わりたい教員がいた	34.0% (1,085)	30.9% (986)	21.9% (699)	13.1% (417)	100.0% (3,187)
将来の進路・就職に有利	4.0% (127)	5.8% (185)	27.8% (889)	62.4% (1,996)	100.0% (3,197)
知名度・注目度の高さ	2.9% (92)	4.5% (143)	27.8% (889)	64.8% (2,069)	100.0% (3,193)
学校の先生や親など周りの勧め	16.6% (529)	14.9% (477)	29.5% (943)	38.9% (1,243)	100.0% (3,192)
クラブ・部・サークル活動が充実している	14.9% (474)	18.2% (582)	29.1% (929)	37.8% (1,205)	100.0% (3,190)
伝統・校風が好き	12.1% (388)	17.7% (566)	30.6% (979)	39.5% (1,262)	100.0% (3,195)
学習環境や学生生活のサポートが充実している	8.0% (257)	13.2% (422)	38.4% (1,227)	40.3% (1,288)	100.0% (3,194)
利用可能な推薦・特別入試があった	46.9% (1,498)	7.9% (254)	9.9% (315)	35.3% (1,130)	100.0% (3,197)
希望した大学に入れなかった	65.3% (2,085)	5.1% (163)	9.2% (294)	20.4% (650)	100.0% (3,192)

Q18. あなたが大学院に進学した理由は何ですか。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	少しあてはまる	あてはまる	合計
学部で学んだ学問をさらに探究したい	10.8% (126)	9.6% (112)	26.0% (304)	53.6% (627)	100.0% (1,169)
師事したい教員がいた	12.8% (148)	16.2% (188)	31.9% (370)	39.1% (453)	100.0% (1,159)
学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい	23.3% (271)	19.1% (222)	24.6% (286)	33.1% (385)	100.0% (1,164)
希望の職種に就職するために不可欠な、より深い知識や学位を得るため	12.3% (144)	12.2% (143)	28.3% (330)	47.2% (551)	100.0% (1,168)
就職する意志がなかった	48.2% (560)	17.6% (204)	20.0% (232)	14.2% (165)	100.0% (1,161)
就職できそうになかった	58.5% (679)	18.5% (215)	13.8% (160)	9.1% (106)	100.0% (1,160)
大学教員を目指している	53.8% (623)	14.5% (168)	15.1% (175)	16.6% (192)	100.0% (1,158)
小・中・高教員を目指している	70.1% (810)	12.4% (143)	10.6% (122)	6.9% (80)	100.0% (1,155)
研究所・シンクタンクではたらくことを目指している	42.5% (492)	17.4% (201)	23.3% (270)	16.8% (195)	100.0% (1,158)
現在の仕事においてスキルアップを図るため	34.9% (407)	10.4% (121)	22.3% (260)	32.5% (379)	100.0% (1,167)
今後の転職に生かすため	38.1% (444)	12.1% (141)	20.7% (241)	29.1% (339)	100.0% (1,165)
資格を取得するため	39.5% (460)	15.6% (182)	20.6% (240)	24.3% (283)	100.0% (1,165)

Q19. あなたのご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるものをそれぞれ選択してください。

	中学・高校・専門学校・各種学校卒	高等専門学校・短大卒	大卒	大学院卒	わからない・いない	合計
父親	13.2% (558)	7.6% (319)	60.5% (2,554)	14.6% (617)	4.1% (172)	100.0% (4,220)
母親	14.4% (608)	27.6% (1,164)	48.4% (2,039)	5.8% (246)	3.7% (154)	100.0% (4,211)

Q20. あなたの現在の生計を維持している方について、あてはまるものをすべて選択してください。

	非該当	該当	合計
父親	16.6% (706)	83.4% (3,547)	100.0% (4,253)
母親	35.6% (1,515)	64.4% (2,738)	100.0% (4,253)
兄弟姉妹	96.5% (4,105)	3.5% (148)	100.0% (4,253)

Q20. 続き

	非該当	該当	合計
祖父母	92.7% (3,943)	7.3% (310)	100.0% (4,253)
本人	85.6% (3,641)	14.4% (612)	100.0% (4,253)
配偶者	97.1% (4,130)	2.9% (123)	100.0% (4,253)
その他	99.0% (4,209)	1.0% (44)	100.0% (4,253)

Q21. 前問で選択した方すべての昨年（2024年1月～12月）の年間収入合計（税込）について、もっともあてはまるものを選択してください。

100万円未満	100~299万円	300~599万円	600~899万円	900~1,199万円	1,200~1,499万円	1,500~1,999万円	2,000万円以上	わからない	合計
2.8% (117)	3.7% (156)	8.0% (338)	12.2% (517)	13.3% (562)	8.4% (357)	5.9% (250)	6.3% (266)	39.4% (1,669)	100.0% (4,232)

3. 入学前の学習・生活習慣について

Q22. 大学・大学院入学前の在学状況等について、次のどれにあてはまりますか。

入学前に社会人経験がない	入学前に社会人経験がある	合計
85.6% (3,688)	14.4% (619)	100.0% (4,307)

Q23. 大学・大学院入学前の在学状況等について、次のどれにあてはまりますか。(社会人経験のない学部入学者が回答の対象)

【高校の設置者/ Type of establishment】

国立	公立	私立	その他	合計
3.8% (110)	40.5% (1,165)	54.7% (1,574)	1.0% (29)	100.0% (2,878)

【3年制か中高一貫か/ 3-year high school or integrated middle and high school】

3年制の学校	中高一貫校(中学から進学)	中高一貫校(高校から進学)	その他	合計
46.3% (1,319)	37.5% (1,069)	13.1% (373)	3.1% (87)	100.0% (2,848)

Q24. あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。

	少なかった	どちらかと言えば少なかった	どちらかと言えば多かった	多かった	合計
少し体調が悪かったり、休んでよい理由があったりしても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	10.3% (311)	11.9% (361)	23.2% (701)	54.6% (1,648)	100.0% (3,021)
学校の授業で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	7.2% (216)	15.8% (478)	32.5% (982)	44.5% (1,344)	100.0% (3,020)
なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた	3.8% (115)	11.5% (348)	32.2% (971)	52.5% (1,585)	100.0% (3,019)

Q25. あなたが「高校2年生の2学期」の頃、1日当たり学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか、「平日(ふだん)」

と「定期試験期間中」についてお答えください。塾・予備校での学習時間も含めます。

	30分未満	30分~1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5時間以上	合計
平日(ふだん)	15.5% (466)	13.9% (418)	23.3% (703)	21.8% (656)	13.7% (414)	6.0% (181)	5.9% (178)	100.0% (3,016)
定期試験期間中	2.8% (84)	2.5% (76)	6.2% (187)	14.0% (420)	20.1% (604)	20.2% (609)	34.2% (1,030)	100.0% (3,010)

Q26. (既に社会人経験のある方のみお答えください) あなたの大学(大学院)入学前の社会人経験の中で、下記のことはどれくらいあてはまりますか。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計
自身の業務に関する勉強を就業時間外にしていた	21.3% (206)	11.3% (109)	30.8% (298)	36.7% (355)	100.0% (968)
自身の業務には直接関係ない勉強を就業時間外にしていた	17.5% (156)	15.7% (140)	33.0% (295)	33.8% (302)	100.0% (893)
会社以外でのセミナー等に積極的に参加していた	26.3% (232)	21.5% (190)	27.0% (238)	25.3% (223)	100.0% (883)
趣味の習いごとやスクールに積極的に参加していた	22.0% (194)	19.6% (173)	30.2% (267)	28.2% (249)	100.0% (883)
大学・大学院に進学していた同僚等に話を聞いた	29.9% (263)	14.0% (123)	27.8% (244)	28.3% (249)	100.0% (879)

Q27. あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計
勉強の方法を学ぶ	3.6% (108)	10.0% (301)	33.1% (993)	53.3% (1,602)	100.0% (3,004)
グループワークなどで授業に積極的に参加する	4.3% (108)	10.7% (301)	31.2% (993)	53.8% (1,602)	100.0% (3,004)
授業中に自分の意見や考えを述べる	6.1% (108)	18.0% (301)	31.1% (993)	44.8% (1,602)	100.0% (3,004)
社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ	6.4% (108)	19.2% (301)	35.2% (993)	39.1% (1,602)	100.0% (3,004)
異文化について学ぶ	7.4% (108)	20.8% (301)	33.9% (993)	38.0% (1,602)	100.0% (3,004)
ボランティアについて学ぶ	24.1% (108)	34.8% (301)	22.6% (993)	18.4% (1,602)	100.0% (3,004)
キャリア形成について学ぶ	15.4% (108)	27.0% (301)	33.6% (993)	24.0% (1,602)	100.0% (3,004)

Q28. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動に参加していましたか。

	参加していない	参加していた	合計
部活動	14.3% (430)	85.7% (2,576)	100.0% (3,006)
課外活動(体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど)	10.1% (304)	89.9% (2,698)	100.0% (3,002)

Q29. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計
授業	19.7% (590)	32.4% (969)	27.2% (814)	20.7% (618)	100.0% (2,991)
部活動	15.5% (397)	22.1% (565)	24.4% (624)	38.0% (971)	100.0% (2,557)
課外活動（体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど）	15.9% (425)	22.5% (603)	25.4% (680)	36.2% (968)	100.0% (2,676)

Q30. あなたの高校時代について、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	合計
文系科目（国語・地歴・公民等）についてしっかり学習した	4.0% (119)	10.9% (327)	25.0% (752)	60.1% (1,804)	100.0% (3,002)
理系科目（数学・理科等）についてしっかり学習した	10.4% (312)	23.8% (713)	29.9% (897)	35.9% (1,077)	100.0% (2,999)
外国語科目（英語等）についてしっかり学習した	3.4% (101)	9.4% (283)	30.1% (901)	57.1% (1,713)	100.0% (2,998)

Q31. あなたの校内成績についてお尋ねします。通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれぐらいでしたか。学部生の方は中学3年生の時と高校3年生の時それぞれについて、大学院生の方は学部時代の成績について、全教科・科目トータルでみた場合の状況をお答えください。

	下の方	やや下の方	真ん中	やや上の方	上の方	合計
中学3年生の時	3.5% (93)	5.1% (136)	11.1% (298)	24.9% (669)	55.4% (1,488)	100.0% (2,684)
高校3年生の時	4.3% (115)	7.2% (193)	15.7% (421)	33.2% (892)	39.6% (1,062)	100.0% (2,683)
大学学部生の時	4.0% (40)	5.5% (55)	25.0% (252)	38.7% (390)	26.8% (270)	100.0% (1,007)

Q32. あなたの高校時代について、次のことはどれほどありましたか。

	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった	合計
授業で積極的に質問した	16.3% (490)	39.0% (1,169)	27.1% (812)	17.6% (529)	100.0% (3,000)
課題は締切までに提出した	3.1% (93)	7.3% (220)	20.3% (608)	69.3% (2,080)	100.0% (3,001)
分からない点は先生に質問した	9.3% (280)	24.2% (726)	30.8% (923)	35.7% (1,071)	100.0% (3,000)
分からない点は友達に質問した	6.2% (186)	11.8% (355)	33.1% (991)	48.9% (1,465)	100.0% (2,997)
勉強の妨げになるものを遠ざけた	14.6% (438)	32.8% (985)	29.1% (872)	23.5% (705)	100.0% (3,000)
時間を決めて勉強した	14.3% (430)	27.6% (826)	29.3% (879)	28.8% (863)	100.0% (2,998)

Q33. 大学・大学院入学以前の海外経験についてお答えください。

	経験なし	経験あり	合計
親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在	85.7% (3,481)	14.3% (579)	100.0% (4,060)
中高時代の留学	85.3% (3,457)	14.7% (598)	100.0% (4,055)
企業等就職後の海外駐在	96.9% (3,831)	3.1% (124)	100.0% (3,955)
企業等での海外大学院研修	97.3% (3,851)	2.7% (108)	100.0% (3,959)

Q34. 大学・大学院入学前の生活全般（高校生活、または社会人経験をお持ちの方はこれまでの生活）について、10点満点で満足度を付けるとすれば、何点になりますか。

1点	2点	3点	4点	5点	合計
1.1% (45)	0.7% (27)	1.9% (76)	2.6% (106)	5.6% (228)	100.0% (4,067)
6点	7点	8点	9点	10点	
9.5% (385)	21.2% (863)	27.0% (1,097)	14.7% (598)	15.8% (642)	

2025年度 早稲田大学 新入生調査 報告書
2026年2月

早稲田大学 大学総合研究センター
(研究倫理番号：2023-412)

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (早稲田キャンパス7号館4F)



WASEDA University
早稲田大学